

シテ此定額ヲ超ヘシム可カラズ銀行部ハ他ノ紙幣ト交換スル爲メカ若クハ此條例ニ從ヒ發行部ヨリ受取リシ者ノ外ハ決シテ何人ニ對シテモ紙幣ヲ發行ス可カラズ

第三、發行部ニ於テ紙幣發行ノ準備トシテ貯フル地銀ハ其時ニ於テ發行部ニ有スル金貨及地金ノ四分ノ一ニ超ユ可カラズ

第四、一千八百四十四年八月三十一日後ハ何人タルヲ問ハズ一磅ニ付三磅十七志九片ノ割合ヲ以テ本位地金ニ換ヘテ英國銀行紙幣ヲ要求スルノ權アル者トス

第五、一千八百四十四年五月六日ニ於テ紙幣ヲ發行シ居タル銀行者ニシテ若シ其紙幣發行ヲ止ムルコトアルハ國王ハ斯ク流通上ヨリ引揚ケラレタル紙幣ノ三分ノ二ニ超ハザルマデハ英國銀行ヲシテ發行部ニ貯フル證券類ヲ増加セシムル

ヲ得

第六、英國銀行ハ一定ノ書式ニ從ヒ毎週ノ勘定ヲ政府ニ報告ス且次日ノ「ロンドン、ガゼット」新聞ヲ以テ廣告ス可シ

第七、同日後英國銀行ハ其紙幣ノ印紙稅ヲ凡テ免セラル、者トス

第八、英國銀行ガ其特權ニ報ヒンガ爲メニ年々政府ヘ仕拂フ所ノ額ハ一千八百三十三年ニ於テ十二萬磅ト定メタリト雖更ニ之ヲ十八萬磅ニ増加ス可シ且此條例ニ定ムル一千四百萬磅ノ定額ヲ超ヘテ紙幣ヲ増發スルヨリ生ズル利益ハ凡テ之ヲ政府ヘ納ムル者トス

第九、此條例制定後ハ一千八百四十四年五月六日ニ於テ法律ニ從ヒ現ニ紙幣ヲ發行シ居タル銀行者ノ外ハ合衆王國ノ如何ナル地方ニ於テモ何人ト雖モ銀行紙幣ヲ發行スルヲ得ズ

第十、此條例制定後ハ如何ナル銀行者ト雖モ英國及威爾斯内ニ於テ請求次第所持人拂ノ爲替手形、約束手形、仕拂約束書ヲ振出シ引受ケシ製造シ發行ス可カラズ又英國及威爾斯内ニ於テ斯カル銀行者ノ請求拂ノ紙幣ヲ以テ貨幣ヲ借入募集ス可カラズ但シ一千八百四十四年五月六日ニ於テ紙幣ヲ發行セ居タル銀行者ハ此外ニシテ此等ノ銀行者ハ後條ニ定ムル所ノ方法ト制限トニ從ヒ依然其紙幣ヲ發行スルヲ得ル者トス又今日ニ現存セル銀行ハ其社員ノ總數六人ニ超ヘザル以上ハ假令其社員ノ退社シ變更シ増加スルアルモ其銀行ノ權利ニハ關係ナキ者トス

第十一、此條例制定後ニ其紙幣發行ヲ止メタル銀行者ハ其如何ナル理由ニ出ツルニ拘ラズ其發行ヲ再始スルコト能ハズ

第十二、今日ニ現存セル各發行銀行ハ一千八百四十四年四月

廿七日前ノ十二週期間ニ在テ如何ナル名稱ヲ以テ如何ナル場所及會社ニ於テ紙幣ヲ發行シ居タル乎印稅及租稅委員ニ證明ス可シ然ルモ委員ハ各銀行ニ就キ其紙幣發行ノ平均高ヲ確定ス可シ而テ各銀行ハ此平均高ニ至ルマデハ依然其紙幣ヲ發行スルヲ得ル者トス但シ其發行紙幣四週間ノ平均高ヲシテ決シテ右ニ確定セラレタル平均高ニ超ヘシム可カラズ

第十三、若シ二行以上ノ發行銀行ニシテ右ニ云フ十二週期間ニ合併セル者アルモ其合併銀行ハ之ヲ組成セル各銀行ノ總額ニ至ルマデ紙幣ヲ發行スルヲ得

第十四、右ノ委員ハ各銀行ニ許可セル紙幣發行高ヲ「ロンドン、ガゼット」新聞ニ廣告ス可シ

第十五、今後若シ社員六人以下ナル二行以上ノ銀行合併スル

「アルキハ右委員ハ其合併銀行ヲシテ之ヲ組成セル各銀行ノ總額ニ至ルマデ其紙幣ヲ發行セシムルヲ得可シ然レ此合併銀行ノ社員六人ニ超ユルキハ其紙幣發行ノ特權ハ消滅スル者トス

第十六、如何ナル銀行者アリニ許可ノ制限ヲ超ヘテ紙幣ヲ發行スルキハ其超ヘシ紙幣ハ沒收セララル、者トス

第十七、各發行銀行ハ每週紙幣發行ノ計算書ヲ差出シ「ロンドン、ガゼット」新聞ニ於テ廣告ス可キ者トス

第十八、紙幣發行高ノ平均ヲ取ルノ方法ヲ定メ各銀行者ハ其目的ノ爲メニ任セラレタル政府官吏ヲシテ其帳簿ヲ検査セシメザル可カラザルトセリ又各銀行者ハ一月最初ノ二週

期內ニ於テ毎年一度政府ヘ勘定ノ報告ヲ差出サバ爾可カラザルトセリ

第十九、英蘭銀行ハ一千八百五十六年八月一日マデテ期限トシ私立發行銀行ト協議シ其紙幣ヲ引揚ケシメ之ニ代ヘテ英蘭銀行紙幣ヲ發行セシムルヲ得但シ之ガ爲メニ英蘭銀行ヨリ仕拂フ報酬ハ年一分ニ超ユ可カラズ

第二十、倫敦及倫敦六十五英里以内ノ凡テノ銀行ハ此條例制定後ト雖モ請求次第所持人拂ナラザル爲替手形ハ之ヲ振出し引受ケシ裏書スルヲ得

第二十一、英蘭銀行ノ特權ハ一千八百五十五年八月一日後ニ至リ十二ケ月前ニ通知ヲ與ヘ且該銀行ニ對スル政府ノ負債ヲ償還スルマデハ繼續セララル、者トス

ロベルト、ピール氏ノ條例ノ要領實ニ斯ノ如シ是レ紙幣ニ關スル一種ノ主義ヲ實施セント企圖シテ制定セラレシ所ニシテ吾輩ハ此主義ノ如キハ紙幣ニ關シテ曾テ想像セラレ得ル最モ驚

ク可キ妄見ノ一ナリト斷言スルヲ憚ラザルナリ蓋シ一千八百四年、一千八百十一年、一千八百十九年ヲ以テ紙幣ニ關シ大ニ討論起リシニ際シテ此問題ニ最モ通曉セル諸大家ノ吐キシ意見ハ吾輩前諸章ニ於テ既ニ十分ニ開示セル所ニシテ右ノ主義ハ此等諸大家ノ意見ト全ク反對セリ然レハ就中最モ著明ナル事情ハ此條例ガ其實行セント欲スル主義ヲ反テ大ニ破リシト是ナリ何トナレバ國債證書ヲ基礎トシテ紙幣ヲ發行セシムルハ他又之ニ如ク者ナキ最惡ノ主義ナレバナリ是レ實ニシモン、ローノ主義ニシテ吾輩ハ後章ニ至テ一層十分ニ之ヲ觀察ス可シコロチル、トルレンス氏ハ此主義ノ最モ著明ナル主張者ノ一人ニシテ其貨幣學真正ノ理ニ暗キノ甚シキヤ誇カニ左ノ如キ説ヲ爲スニ至レリ曰余ガ主張セル制度ノ下ニ在テハ貨幣價值ノ變動ヨリ起ル可キ利息相場ノ高低及商業上信憑ノ浮沈ハ實際全

ク之ナキニ至ル可シト
 一千八百四十四年ノ條例ノ公言セラレタル目的ハ紙幣ヲ序理スルノ力ヲ英國銀行取締役ノ手ヨリ奪フニ在リ蓋該銀行取締役ノ頑固ナル失策ノ爲メニ常ニ恐慌ノ害ヲ加ハザルナカリシコトハ各人皆然リトセル所ナリ是ニ於テ乎一千八百四十四年ノ條例ノ起草者ハ自カラ慰メテ曰苟モ五磅金貨ノ國外ニ流出スル毎トニ五磅紙幣ヲ流通上ヨリ引揚ケシメザル可カラズト而テ此冀望ノ果シテ違セラレシヤ否ヤハ吾輩後文ニ於テ之ヲ知ル可シ而テロベルト、ピール氏及此條例ノ贊成者ハ謂ラク此條例ハ一千八百十九年ノ條例ヲ完備ナラシメシ者ナリト然レハ吾輩ハ此語ノ意義何レニ在ル乎ヲ確知スル能ハザルコト明言セザル可カラズ若シ夫レ此條例ハ一千八百十九年ノ條例若クハ當時ノ政治家ノ精神ニ從ヒタリト云フノ意ナラシムルニハ吾輩

ハ此事ノ信ナルヲ全ク拒マザルヲ得ズ而テ之ヲ信ナリト想像
 スルガ如キハ該條例起草者ノ主義ヲ全ク知ラザルヲ自證ス
 ルニ過キザルノミ
 然ラハ則英蘭銀行ノ紙幣發行ハ紙幣ノ問題ニ關シテ曾テ行ハ
 レタル最モ不幸ナル二ノ主義ニ基ケル者ナリ其一ハ「ジョン・ロー
 ノ主義ニシテ其一ハ三十年前ヨリ世ニ流行セシ所ノ「紙幣主義」
 ナル者はナリ
 一千八百四十二年三年四年ニ於テハ穀物ノ豐登ナリシガ爲メ
 ニ正金速ニ英蘭銀行ニ集積セシヲハ吾輩ガ前章ニ示セシガ如
 クニシテ若シ此事ナカリセハ國民ガ食物ノ爲メニ費ヤス可カ
 リシ巨額ノ貨幣ハ其用ヲ省カレ爲メニ之ヲ商業上ノ他ノ目的
 ニ供シ得ルニ至レリ又之ト同時ニ我國巨額ノ資本ヨリ其尋常
 ノ用ヲ奪ヒ之ヲ商業上ノ他ノ目的ニ供シ得セシムル事情別ニ

アルアリテ此等ノ事情ハシュームス・ウエルソン氏ノ甚明瞭ニ指摘
 セシ所ナリ氏ハ運輸ノ便迅速トナリ且確定スルニ至リシガ爲
 メニ其遲緩ニシテ且不确定ナリシ時ニ比スレバ手許ニ現有セ
 ザル可カラザル貨幣ノ額ヲ大ニ減少セシヲ示セリ氏且曰運
 輸ノ際ニ在ル物品ハ運輸ノ便遲緩ナルトハ其迅速ナル時ニ比
 スレバ遙ニ大ナリ例セバマンチエスターガ其製造品ヲ倫敦ニ供
 スルニ當リ此等ノ製造品ガ運河ヲ經テ倫敦ニ達スルニハ七日
 ナ要ストセバ七日間消費ス可キ物品ハ常ニ運輸ノ途中ニ在ラ
 ザル可カラザルヲ明ナリ然ルニ鐵道ヲ以テ一日ニシテ之ヲ運
 輸スルヲ得ルトセバ唯一日間消費ス可キ物品ノミ運輸ノ途中
 ニ在ルヲニシテ他ノ六日間消費ス可キ物品ヲ製造センガ爲メ
 ニ用ヒラレタル資本ハ其用ヲ省カレ商業上ノ他ノ事業ヲ起サ
 ンガ爲メニ之ヲ用フルヲ得可シ夫ノ鐵道又ハ蒸氣船ノ手段ニ

因リ一層迅速ナル運輸ノ便開ケシヨリ同一ノ取引ヲ行フニ要スル資本ノ減少セシメ極メテ大ニノ吾人若シ之ヲ考フルルハ一國財源ノ爲メニ發達セシメ如何ニ大ナルヤヲ悟ルヲ得可シ左レバ鐵道擴張ノ爲メニ省クヲ得タル資本ノ額ハ失敗セル鐵道企業ノ爲メニ損セシ所ヨリモ遙ニ大ナルハ決シテ疑フ可カラザルナリト而テ今ヤ此等ノ事情ハ將サニ十分ニ其結果ヲ生ゼントシ一千八百四十二年三年四年ノ豐作ト相合シテ一國資本ノ用ヲ省キ他ノ目的ニ供シ得可キ資本ヲ増加セシメシテ實ニ未曾有ノ額ニ達セリ

是等ノ事情ハ深ク注意セザル可カラザル所ナリ蓋數多ノ記者ハ物品直段ハ貨幣數額ノ一増一減ニ應シテ高低セザル可カラズト思惟スルト雖是レ甚シキ謬見ニシテ物品直段ノ高低ト貨幣數額ノ増減トノ間ニハ必スシモ一定ノ關係アルニ非ズ而

ア右記者ノ説ノ誤レルヲハ證テ舉クルヲ要セズシテ明ナラント雖モ若シ之ヲ舉クルヲ要ストセハ以上ノ事情ハ則之ヲ證スル者ナリ何トナレハ取引ヲ行フ方法ノ如何ハ其取引ニ要スル貨幣ノ額ニ至大ノ影響ヲ與マル者ニシテ其方法ノ拙ナルト巧ナルトハ毫モ商品ノ直段ニ變動ヲ起スヲナクシテ尙ホ一定ノ商品ヲ流通セシムルニ必要ナル貨幣ノ數額ニ至大ノ増減ヲ生ス可ケレバナリ

一千八百四十四年ノ條例ハ紙幣發行ニ關スル英蘭銀行ノ裁斷權ニ對シテ動カス可カラザル制限ヲ置キシテ以テ銀行事務ハ決シテ自由ナルニ失シ濫恣ナルニ過クルヲアル可カラズトハロペルト、ピール氏ノ思惟セシ所ナリキ然ルニ吾輩ガ前段ニ記セシ事情ノ爲メニ資本非常ニ蓄積セラレケレバ最良ノ手形ニ對スル市場ノ割引歩合ヲ一分³/₄乃至二分半ニ低落セシメタリ

而ア英蘭銀行ハ條例制定後直ニ市場ノ相場ニ從ヒ最良ノ手形ニ對スル割引歩合ヲ四分ヨリ二分半ニ引下ゲタリ加之條例實施ノ初日ニ於テハ一切ノ割引ハ一分^三/_四ノ歩合ヲ以テ爾後二週期間ハ此歩合ニテ續キシガ其レヨリ或ハ之ヲ二分ニ引上ケ而テ十月廿六日ニ至ル迄ハ大抵ノ割引ハ二^一/_四ノ歩合ヲ以テタリ然レモ此時ヨリ一千八百四十五年十月マデハ其歩合ヲ二分半ニ引上ゲ同年十一月ニ至リ俄ニ之ヲ三分半ニ引上ゲ一千八百四十六年八月マデハ此歩合ニテ續キシガ此時ニ至テ再ヒ之ヲ三分ニ引下ゲタリ割引歩合ノ此高低ハ正金在高ノ増減ニ準セシ者ニ其在高ハ一千八百四十四年ノ條例ノ制定セラレシ時ニハ一千五百五十萬磅ナリシニ四十五年十一月ニハ一千三百五十萬磅ニ減少シ其レヨリ再ヒ増加シテ四十六年八月ニハ一千六百萬磅以上ニ達セシモ爾後又其勢ヲ反シ遂ニ一千八

百四十七年十月ノ大恐慌ニ際シテ最低點ニ下リシマデ漸チ以テ益減少セリ
 一千八百四十五年愛爾蘭ニ於テ馬鈴薯ノ凶歉ナリシ^一及該年世人ガ鐵道企業ニ狂騷セシ^一ハ今日大抵ノ人ノ尙ホ記憶スル所タレバ茲ニ贊スルヲ須ヒザルナリ而テ英蘭銀行ノ唯一ノ職掌ハ己レノ安危如何ニ注意シテ其安全ヲ維持スルニ在ル者ニシテ以上ノ事件ハ該銀行ノ管理法ニ何等ノ影響ヲ及ボス可カラザリシ筈ナリ然ルニ一千八百四十六年ノ災害ハ前年ヨリモ更ニ甚クシテ且一層廣キニ及ビタリケレバ外國ヨリ穀物ヲ輸入セザルヲ得ズシテ隨テ其代價トシテ巨額ノ正金ヲ輸出セザルヲ得ザル^一明瞭ナリキ是ニ於テ平同年九月中旬ヨリ正金絶ヘズ次第ニ流出セシト雖モ一千八百四十七年一月十六日ニ至ルマデハ英蘭銀行ハ毫モ割引歩合ヲ變更セザリキ然レモ

此時ニ至リ正金在高一千三百九十四萬九千磅ニ減少シタリケ
 レバ該銀行ハ其割引歩合ヲ三分半ニ引上ケ二十三日ニ至リ正
 金在高更ニ五十萬磅ヲ減少シタリケレバ再ヒ割引歩合ヲ四分
 ニ引上ケタリ爾後正金ノ流出愈其速力ヲ加ヘタルニ拘ラス英
 蘭銀行ハ四月十日迄ハ其割引歩合ヲ變更セザリシト雖モ此時
 正金在高九百八十六萬七千磅ニ減少シタルヲ以テ割引歩合ヲ
 五分ニ引上ケタリ左レバ吾輩ハ英蘭銀行ガ往時幾回トナク行
 ヒタリシ失策ヲ茲ニ再ヒ行ヒシヲ見ルナリ即正金大ニ流出
 スルニ當リ毫モ本國ニ於ケル貨幣ノ價值ヲ騰貴セシメント謀
 ルヲナク偶々之ヲ謀ルモ其處置タルヤ微弱緩漫ニシテ無効タ
 リシナリ然レハ此時ノ該銀行ノ舉動ハ夫ノ一千八百四十四年
 ノ條例ノ自動作用如何ナリシ乎ヲ證明スル的例ナリトス蓋該
 銀行ノ銀行上ノ資本ハ證券類ヲ準備トセル一千四百萬磅ノ紙

幣ト發行部ニ預レル正金ヲ代表スル所ノ紙幣トニ限ル者タル
 一チ一言セバ足ルノミ故ニ其準備セル紙幣額ハ世上ニ流通セ
 ル紙幣額即公衆ノ有スル紙幣額ト一千四百萬磅及正金在高ト
 ノ差ニ常ニ一樣ナラザル可カラザルナリ而テ吾輩ガ既ニ論セ
 シ如ク一千八百四十四年ノ條例起草者ノ計畫ハ夫ノ「紙幣主義」
 ニ從ヒ正金在高ノ減少スル毎トニ公衆ノ有スル紙幣ヲ減少セシ
 メントスルニ在ルナリ然ラバ則吾輩ヲシテ第一ニ英蘭銀行ガ
 此主義ニ從ハント欲ヒシ乎又第二ニ該銀行ガ之ヲ欲セザリシ
 ト假定スルキハ條例ノ自動作用ニ因テ如何ニ此主義ニ從ハザ
 ルヲ得ザラシムルノ効アリシ乎ヲ觀察セシメヨ又他語ヲ贅セ
 ザルモ左ノ一表明ニ之ヲ示スヘキナリ

一八四六年	銀行紙幣		正金在高總計	最低割引歩合
	世上流通高	銀行準備高		
八月廿九日	二〇、四三六、〇〇〇	九、四五一〇、〇〇〇	一六、三三六、〇〇〇	三
十月三日	二〇、五五一、〇〇〇	八、八〇九、〇〇〇	一五、八一七、〇〇〇	三
十一月七日	二〇、九七一、〇〇〇	七、二六五、〇〇〇	一四、七〇六、〇〇〇	三
十二月十九日	一九、五四九、〇〇〇	八、八六四、〇〇〇	一五、一六三、〇〇〇	三
一八四七年				
一月九日	二〇、八三七、〇〇〇	六、七一五、〇〇〇	一四、三三三、〇〇〇	三
同 十六日	二〇、六七九、〇〇〇	六、五四六、〇〇〇	一三、九四九、〇〇〇	三
同 三十日	二〇、四六九、〇〇〇	五、七〇四、〇〇〇	一三、九〇二、〇〇〇	四
二月二十日	一九、四八二、〇〇〇	五、九一七、〇〇〇	一三、二二五、〇〇〇	同
三月六日	一九、二七九、〇〇〇	五、七一五、〇〇〇	一三、五九六、〇〇〇	同
同 二十日	一九、〇六九、〇〇〇	五、四一九、〇〇〇	一三、三三三、〇〇〇	同
四月三日	一九、八五五、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇	一〇、一四六、〇〇〇	同
同 十日	二〇、二四三、〇〇〇	二、五五八、〇〇〇	九、八六七、〇〇〇	五

右ノ一表ヲ見ルキハ夫ノ條例ノ自動作用ニ因テ正金在高ノ減少ナル毎トコ公衆ノ有スル紙幣ヲ減少セシムルノ効アリトシ

思想ハ全ク失敗セルヲ知ル可シ何トナレバ正金在高九百八十六萬七千磅ナリシ時ノ紙幣流通高ハ正金在高一千六百三十六萬六千磅ナリシ時ノ紙幣流通高ニ比シテ殆ト毫モ減少セザリケレバナリ故ニ一千八百四十四年ノ條例ハ其効驗ヲ現サシメテ要セシ第一回ノ時機ニ於テ全ク失敗シ一効驗ダニ現サシメシナリ

エス、ジェー、ロイド氏ガ一千八百三十二年ノ英蘭銀行取締役ノ規則全ク失敗セルヲ論セシトハ吾輩ガ前章ニ於テ示セシ所ナルガ今吾輩ハ讀者ヲシテ此事ニ回想セシメント欲スルナリ氏曰此規則ノ下ニ在テハ毫モ紙幣流通高ヲ減少スルコトナクシテ英蘭銀行ノ正金在高悉ク盡クルコトアラント而テ一千八百四十四年ノ條例ハ特ニ此缺點ヲ補フ者ト想像セラレシナリ實ニ該條例起草者ノ全心ノ主義ハ苟モ五磅金貨ノ國外ニ流出スルアル

毎トニ必ス五磅紙幣ヲ流通上ヨリ退カシメザル可カラズ而テ
 萬一英蘭銀行取締役ガ自カラ之ヲ爲サバ、ルキハ條例ノ自動作
 用ニ因テ之ヲ爲サバ、ルキ得ザラシム可シト云フノ一點ニアリ
 シナリ然ルニ實際ノ結果ハ果シテ如何ナリシ乎英蘭銀行ハ其
 正金七百萬磅ヲ失ヒタルニ拘ラズ紙幣流通高ハ僅ニ二十萬磅
 ヲ減少セシメ過ギズシテ其他ハ悉ク自行ニ準備セル紙幣ヲ減
 少セルノミ故ニ此銀行條例ハ一千八百三十二年ノ英蘭銀行取
 締役ノ規則ト毫モ異ナラザルノ缺點アルナリ噫、
 前出納局長エフ、ト、イ、ペーリソング氏ハ此條例ガ種々ノ點ニ於テ
 能ク其功ヲ奏セシメテ主張セル人ナリト雖モ尙ホ右ノ一點ニ
 關シテハ全ク失敗セルヲ許セリ氏曰余ハ一千八百四十六年
 九月十二日ノ英蘭銀行正金在高ハ一千六百三十五萬四千磅ナ
 リシニ一千八百四十七年四月十七日ニハ九百三十三萬磅ニ減

少シ即七百零二萬四千磅ヲ減少セシメテ知レリ然ルニ同時日
 ニ於ケル紙幣流通高ヲ查察セルニ一千八百四十六年九月十二
 日ニハ二千零九十八萬二千磅ナリシニ一千八百四十七年四月
 十七日ニハ二千一百廿二萬八千磅トナリ反テ二十四萬六千磅
 ヲ増加セシメテ知レリ(中略)余ハ此條例ノ作用ノ下ニ在テハ又
 斯ノ如キ計數ヲ現ハスヲアリ得可シト思惟セザリシヲ明言
 セザル可カラズ(中略)余ハ信ズ吾人若シ條例編制ノ當時ニ溯リ
 テ之ヲ考フルキハ此條例ヲ主張セシ者モ又之ニ反對セシ者モ
 共ニ預金ノ作用及準備ノ問題ヲ十分ニ考察セザリシヲ發見
 セシメテ余ハ一千八百四十年ノ委員ガ蒐集セル證報ヲ閱讀ス
 ルニ當時ノ人ガ斯カル原因ヨリ起ル危險ニ顧慮説及セシメテ
 思ハシムル文字ハ殆ト違モ之ヲ見ザルナリ然レトモ是レ實ニ最
 モ緊要ナル點ナリ何トナレバ英蘭銀行ガ全ク條例ノ精神ニ背

戻金ノ流出スルニ當リ一磅タリハ其紙幣流通高ヲ減少セザ
 ルヲ得ル者ハ準備ノ手段ニ因テ然リシナレバナリ左レバ余ハ
 此制度ガ此點ニ於テ満足ス可キ結果ヲ呈シ得可シト信ゼザル
 ナリ實ニ此點ハ決シテ十分ナル考察ヲ受ケザリシナリ憶フニ
 條例ノ實施前ニ在テ準備ノ紙幣ガ如何ナル作用ヲ爲ス可キ乎
 ナ知ルハ難カリシナラシ然レニ要スルニ七百萬磅ノ正金流出
 セルニ當リ公衆ノ手ニ在ル紙幣ハ減少セズシテ寧ロ増加ス可
 シト云フガ如キハ當時此問題ヲ考察セル者ノ一人トシテ豫想
 セザリシ所タルヤ必セリト
 一千八百四十四年ノ新制度ノ下ニ在テ銀行部ニ準備スル紙幣
 ノ數額ハ英蘭銀行ノ二部ニ區分セラレザル前ニ於テ其有セシ
 正金ノ數額ト殆ト相同シキ者ナリ故ニ世人該銀行ノ銀行上ノ
 資本二百五十五萬八千磅ニ減少セルヲ知ルニ及ンデヤ世人及

取締役共ニ愕然タルニ至レリ是ニ於テ乎取締役ハ紙幣ノ需要
 ナ制遏セシガ爲メニ未曾有ノ嚴ナル處置ニ出テタリ即割引歩
 合ヲ五分ニ引上ゲシ耳ナラズ此五分ノ歩合ハ唯數日期ノ手形
 ニノミ適用スル者ト爲シ且如何ニ確實ナル手形タルヲ問ハズ
 手形割引ノ額ニ制限ヲ立テ、決シテ之ニ超ヘシメザルト爲
 セリ又資金ノ貸付ヲ得タリシ商人ハ之ヲ切リ替ユルヲ許サ
 レズシテ嚴ニ其返濟ヲ促サレタリ而テ數日間ハ毫モ手形ノ割
 引ヲ得ルヲ能ハザリキ左レバ此等ノ處置ハ正金ノ流出ヲ止ム
 ルノ効アリテ現ニ米國ニ向テ船積ミセル十萬磅ノ金貨ヲ積戻
 スニ至レリ又此際ニ在テハ最良ノ手形ニ對スル割引歩合ヲモ
 九分、一割、一割二分ニマテ引上ゲタリ而テ此時小麥ノ直段ハ金
 融ノ必迫此ノ如クナリシニ拘ラズ常ニ益騰貴シ五月ノ末ニハ
 ウィンブル市場ノ直段ハ百三十一志ノ高點ニ達セシアリキ

又外國爲替相場ハ一千八百四十六年ノ後季ヨリ四十七年ノ初
 メニ亘リテハ巨額ノ外國穀物ヲ輸入セシガ爲メニ我國ニ不利
 ナリシト雖モ四月中旬ニ及ンテハ一部ハ金融ノ大必迫ニ原因
 シテ我國ニ利ナルニ至レリ
 此金融必迫ハ約ソ三週期間ニ續キ五月第一週期後ニ至テ經過
 シ去レリ左レバ四月廿四日後ハ正金流入ニ還ニ六月ノ末ニ至
 テハ通流紙幣一千八百零五萬一千磅準備紙幣五百六十二萬五
 千磅ニ對シ正金在高一千零五十二萬六千磅トナレリ
 英蘭銀行ガ正金速ニ流出シ外國爲替不利トナリシニ拘ラズ依
 然其割引歩合ヲ低廉ニ維持セタルノ處置ハ曾テ履行ホタルト
 同一ノ失策ニシテ之ガ爲メニ倫敦全商業社會ノ人々ハ大ニ該
 銀行ノ此處置ヲ批評咎責スルニ至レリ市場ノ歩合ハ該銀行ノ
 歩合ヨリモ遙ニ高カリケレバ世人割引ヲ請求センガ爲メニ該

銀行ニ向テ突進シ而テ其割引ヲ許スヤ否ヤ正金忽チニ引出サ
 レシナリ
 五月廿七日ヲ以テ出納局長ハ金融必迫ノ問題ヲ議院ニ提出シ
 一千八百四十四年ノ條例ヲ停止スルニ關シテ數多ノ請願ヲ
 受ケタリト雖モ政府ハ其請願ヲ採用スルノ意ニ非ザル旨ヲ述
 ベタリ然レモ政府ガ季末ニ際セテ尋常ノ如クニ英蘭銀行ヨリ
 辨金ヲ受クルヲ止メ以テ該銀行ヲ補助セント欲スル旨ヲ述
 ベタリ是ヲ以テ出納局長ハ此目的ノ爲メニ出納局證券ノ利息
 ヲ日歩三片ニ引上グントモリ蓋當時該證券ノ利息ハ政府ノ他
 ノ負債券ニ比スレバ大ニ低廉ナリシ也而テ出納局長ハ十日ヲ
 以テ一決議案ヲ提出シ曰八百萬磅ノ愛蘭國債ノ應募者中六月
 十八日前ニ其釀金ヲ拂込ミタル者ハ五分ノ割引ヲ許シ九月
 十日前ニ之ヲ拂込ミタル者ハ四分ノ割引ヲ許ス可シト

穀物ノ直段驚ク可ク騰貴シ一千八百十二年以來其前例ナキ程ニ及ビケレバ數多ノ商家ガ穀物ノ輸入ニ關シ遙ニ其實力ニ越ヘタル投機取引ニ從事スルニ至レルハ勢ヒ免レザルノ結果ト云フ可シ然ルニ五、六、七ノ三ヶ月間ニ於テ巨額ノ穀物ヲ輸入シタルト加フルニ收穫甚豊給ナルノ兆ヲ呈シタルトノ爲メニ穀物ノ直段絶ヘズ甚シク下落シ且馬鈴薯亦豐作ノ報アリケレバ九月ニ至リ小麥ノ直段ハ四十九志六片ニ下落セリ左レバ小麥ノ直段斯ク大ニ下落シタルヲ以テ穀物ノ投機取引ニ從事シテリシ商家ハ相率井テ破産セザルヲ得ザルニ至レリ且投機取引熾ナルノ時ニ當テハ常ニ榮ヘテ其害ヲ逞フスル所ノ夫ノ毒物即融通手形大ニ行ハレタリ抑穀物取引ノ失敗ハ八月ニ始マリ之ガ爲メニ穀物商業上ノ信憑ヲ破リ施テ他ノ商業ニ及ボセリ左レバ八月七日ニ至リ割引ノ最低歩合ヲ五分半ニ引上ゲタリ

ト雖モ是レハ短期ノ手形ニ對シテノミ然リシコトニシテ大抵ノ手形ハ一層高キ歩合ヲ以テ割引シ其歩合七分ニマテ至レリ而テ此有様ハ十月九日マテ續キタリ
 八月九日ニ至リ畏ル可キ破産ノ第一ノ者起レリ即「レスリー、アレンキサンダー」會社五十萬磅ノ負債ヲ以テ仕拂ヲ停止セリ而テ水曜日即十一日ニ至リ「コヴェントリー、シユンパード」會社ハ二十萬磅ノ負債ヲ以テ「キング、メルヴィル」會社ハ又二十萬磅ノ負債ヲ以テ各々破産シ其他小會社ヲモ算入シ此第一週期間ニ破産セル諸會社ノ負債ハ合計百廿萬磅ニ達セリ又次ノ週期ニハ「ギレス」會社十萬磅ノ負債ヲ以テ斃レシ此第二週間ニ斃レシ諸會社ノ負債ハ合計卅萬磅ニ達セリ又第三週期間ニ於テハ「ロビンソン」會社十一萬磅ノ負債ヲ以テ斃レ而テ該會社ノ主ナル社員ハ實ニ英蘭銀行ノ頭取ヨリシナリ而テ此三週期間ニ於テ破産セル會

社ノ負債合計ハ三百零二萬七千磅ニシテ爾來數週期間愈甚シキヲ加ヘ遂ニ其合計一千五百萬磅ノ上ニ出ツルニ至レリ又九月中旬ニ至リ有名ナル手形仲買者ナル「サウソンプル」會社ハ穀物商業ニ從事セル諸大商家ト大ニ取引セルガ爲メニ遂ニ仕拂ヲ停止スルニ至レリ而テ外國爲替相場ハ四月ニ於テハ金融必迫ノ爲メニ平均點ニ復セルニ爾來恐慌ノ勢ヒ益劇烈ナルヲ加ヘシガ爲メニ遂ニ大ニ我國ニ利アルニ至リ九月廿五日ニ及ビテハ正金漸ク流入スルコトナレリ要スルニ九月全月中ハ商業上大災害ノ黒雲益凝集シツハアリキ

「レイド、イルヴィンク」會社ノ如クマウリトイアストノ取引ニ關係アル諸會社ハ專ラ其資本ヲ甘蔗ノ耕作ニ停滯セシメシヲ以テ殆ト悉ク斃レ隨テ印度貿易ニ從事セル者大ニ破産スルニ至レリ蓋通常印度貿易ノ爲メニ許サレタル信憑ハ非常ニ大ニシテ過

度ニ之ヲ擴張スルノ便ヲ與ヘタレバナリ又一千八百四十五年及六年ノ國會間期中ニ認可セラレタル鐵道事業ハ今ヤ十分ニ着手セラレテ太ニ現金ノ需要ヲ起セリ左レパランドス、エンド地方ヨリロンドン、ナグロツ地方ニ至ルマデ全王國ノ商人ハ深ク鐵道事業ニ關係セザル者ハアラザリキ抑大抵ノ商人ハ一千八百四十五年及六年ノ繁榮ニ醉在シ自カラ其資力ニ越ヘタル生計ヲ營ミシ耳ナラス又尋常境界ノ外ニ出テ、得意者ニ過大ノ信ヲ置クニ至レリ余輩之ヲ聞ク一千八百四十五年ニ賣リシ物品ニ對シテ振出サレタル手形ノ四十七年ニ至テ尙ホ仕拂ハレザリシ者極メテ多カリシト左レバ各階級ノ商人間ニ於テ各種各様ノ信憑ノ危キ有様ナリシコト此ノ如キハ蓋其前例ナキ所ニシテ社會人民ノ大多數ハ到底履行シ得ルノ目的ナキ巨額ノ負債ヲ擔フニ至リシコト疑フ可カラザルナリ故テ以テ之ガ救治策

ハ假令鋭且嚴ナリント雖此危キ商業上ノ構造ナ一掃シ商業ヲ
 シテ改良セル鞏固ナル基礎ヲ得セシメンガ爲メニハ此救治策
 ハ施シ得可キ最良ノ策ナリシト又疑フ可カラザルナリ而テ金
 融必迫ノ極點ニ達セントシタルハ九月二十三日頃ニ注リト思
 惟シテ可ナルベク此時英蘭銀行ハ其資金ニ對スル需要ヲ制遏
 センガ爲メニ一層嚴ナル處置ニ出テリ蓋六月二十六日後ハ
 常ニ正金在高速ニ減少シ十月二日ニ至テハ流通紙幣一千八百
 七十一萬二千磅準備紙幣三百四十零萬九千磅ニ對シ正金在高
 八百五十六萬五千磅トナレリ斯ノ如ク其正金速ニ減少シテ止
 マザリケレバ速ニ取締役ヲシテ己レノ安全ヲ謀ラザル可カラ
 ザルノ時來レルヲ悟ラシメタリ是ヲ以テ十月二日取締役ハ揭
 示シテ曰十月十五日前ニ其期限達スル手形ノ最低割引歩合ハ
 五分半トナリ且國債證書若クハ出納局證券ニ對シテ資金ヲ出

ナスコハ全ク之ヲ拒メリ而テ國債證書等ヲ取ルコト拒ミタル
 此揭示ハ株式取引所ニ於テ大ニ激騒ヲ生シ市邑及地方ノ銀行
 者ハ貨幣ニ代ヘンガ爲メニ就テ國債證書ヲ賣リケリ今國債證
 書即刻拂ノ直段ト十月十四日拂ノ直段トノ差ヲ見ルニ當時ノ
 利息相場ハ年五割ニ當リシト示セリ左レハ出納局證券ハ三
 十五志ノ割引ヲ生シ事態益急ヲ告ゲ速ニ十月十六日ニ至リテ
 英蘭銀行ハ其割引歩合ヲ五分半ヨリ九分ニマテ引上ゲタリ此
 時正金在高ハ八百四十三萬一千磅ニシテ流通紙幣ハ一千九百
 三十五萬九千磅準備紙幣ハ二百六十三萬磅ナリキ而テ月曜日
 即十八日ヨリ土曜日即廿三日ニ至ルマテノ次ノ一週期間ハ實
 ニ大恐慌ノ時ナリキ其月曜日ニ至リ八十萬磅ノ拂込資本ヲ有
 セルリヴァーブルノ「ロイヤルバンク」銀行ハ其仕拂ヲ停止シ爲
 メニ其債券二分ヲ下落セシメタリ而テ之ニ續キ又リヴァーブル

ルナルノルス、エント、サウス、ウエール、バンク、銀行、リウズ、アール、バ
 ンキング、コムパニー、銀行及、ユウケツスルノ「ユコチン、パンク」銀行
 等前後其仕拂ヲ停止シ隨テ該地方ノ他ノ銀行ニ向テ紙幣兌換
 ノ逼求起リ又マンチエスター及ウエスト、サフ、イングラントニ於テ
 モ他ノ銀行斃レタリ然ルニ英蘭銀行ノ資金將サニ竭キントス
 ルノ有様ナルヲハ全商業社會ノ凡テ知レル所ナルヲ以テ世上
 一般ノ大恐慌是ニ於テ乎激發シ一私人ニシテ割引ヲ爲ス者ノ
 如キハ地ヲ拂テ絶ヘ又其有セル貨幣若クハ紙幣ヲ手離スルヲ
 肯ニスル者ハ一人トシテ之アルナク商人ハ驚ク可キ巨額ノ手
 形ヲ出シテ其引受ケヲ求ムルモ悉ク拒絕セラレタリ
 恐慌底止スル所ナクシテ益甚シキヲ加ヘケレバ條例ノ制限ヲ
 緩弛センヲ政府ニ請求スル者接踵相續キ遂ニ土曜日即十月
 廿三日ニ至リ宰相ハ條例ニ定メタル制限ヲ超ヘテ紙幣ヲ發行

スルヲ英蘭銀行ニ許可スベキニ決心シ其旨ヲ該銀行ニ通知
 シケルニ該銀行ハ忽チニ此許可ニ乘シ九分ノ歩合ヲ以テ寛大
 ニ手形ヲ割引セリ但シ此許可ノ通知書ハ月曜日即廿五日ニ至
 テ始メテ之ヲ公達セシ者ニ其通知書中云フアリ曰政府ハ過
 ル數週期間ニ行ハレタル金融必迫ハ會テ四月ニ起リタル金融
 必迫ト同シク自然原因ノ作用ニ因リ速ニ經過シ去ラントテ豫
 期セリ然ルニ此豫期全ク齟齬セルヲ以テ政府ガ一時ノ權道ヲ
 施シ商業社會ノ信憑ヲ復センヲニ盡力セザル可カラザルノ機
 來タレシヲ決心セリ曰此目的ヲ以テ政府ハ今日ノ危急ニ際シ
 確實ナル手形ニ對シテ其割引及貸付ヲ擴張センヲ英蘭銀行
 取締役ニ勸告ス然レド之ヲシテ適當ナル區域内ニ止ラシメン
 ガ爲メニ高キ利息ヲ課セシヲ望ム者ニシテ政府ハ今日ノ事
 情ニ在テハ其割引ノ歩合八分以下ナル可カラズト思惟ス曰右

等ノ處置ニシテ若シ法律ヲ犯ス者タルハ政府ハ議院ノ會開スルヲ俟テチテ爲メニ消罪議案ヲ提出セントスルノ覺悟ナリト此通知書ハ月曜日即二十五日ノ一時頃ニ公達セラレシ者ニシテ其公達セラル、ヤ否ヤ恐惶ハ夢ノ如クニ忽チニ消滅セリガルニハ氏ノ説ニ據レバ此通知書ハ僅ニ十分間ニシテ其功ヲ奏シタリト云ヘリ紙幣ノ給供ヲ受ケ得ルヲ知ラズ、ヤ其需要忽チニ止ミナリ故ニ實際條例ヲ犯スガ如キヲアラズシテ此通知書ニ從テ發行セル紙幣ハ總額僅ニ四十萬磅ニ過ギザリキ嗚呼大英全國ノ信憑悉ク破壊セラレントスルノ急ニ迫マリ僅ニ四十萬磅ノ紙幣ヲ發行セルガ爲メニ未ダ一時間ヲラズシテ之ヲ救フヲ得タルナリ

此時ニ於テ世間信憑ノ極メテ難澁ナル有様ナリシハ英國銀行ガ九月十五日ヨリ十一月十五日ニ至ルマデニ諸會社ニ與ヘ

タル補助ヲ見ルハ蓋思ヒ半ニ過クル者アラシク即左ノ如シ

第一、該銀行ハ英國銅鑛會社ノ負債券ヲ抵當トシテ倫敦ノ一大商社ニ十五萬磅ヲ貸付セリ此商社ハ數百萬磅ノ負債ヲ有シタリト雖モ該銀行ノ補助ヲ得タルガ爲メニ仕拂停止ヲ免ル、ヲ得タリ

第二、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ地方ノ一銀行者ニ五萬磅ヲ貸付セリ

第三、該銀行ハ英國銅鑛會社ニ十二萬磅ヲ貸付シ之ガ爲メニ該會社ハ仕拂停止ヲ免ル、ヲ得タリ

第四、該銀行ハ「ロイヤル」銀行ノ「ロイヤル、バンク」銀行ニ對シ尋常ノ割引ノ外ニ爲替手形ヲ抵當トシテ三十萬磅ヲ貸付セリ然レモ是ニテモ尙ホ足ラズ且此外ニ出ダス可キノ抵當ナカ

リシヲ以テ「ロイヤル、バンク」銀行ハ遂ニ仕拂ヲ停止セリ

第五、該銀行ハ地方ノ他ノ合資銀行ニ十萬磅ヲ貸付セリ
 第六、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ倫敦ノ一大商家ニ十三萬
 磅ヲ貸付セリ
 第七、該銀行ハ確實ナル人ノ保証ヲ以テ他ノ一商家ニ五萬磅
 ヲ貸付セリ
 第八、該銀行ハ爲替手形ヲ抵當トシテ一ノ合資發行銀行ニ五
 萬磅ヲ貸付シテリシニ此銀行ハ其後速ニ仕拂ヲ停止セリ
 第九、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ他ノ倫敦ノ商家ニ一萬五
 千磅ヲ貸付セリ
 第十、該銀行ハリゾーアールノ一大會社ノ引受ケタル手形十
 萬磅ヲ有シ其期限達セント雖此之ガ取付ケヲ猶豫シ以テ該
 會社ノ破産ヲ救ヘリ
 第十一、該銀行ハ尋常ノ割引ノ外ニ八十萬磅ヲ貸付シ地方ノ

他ノ一大合資銀行ヲ補助セリ
 第十二、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ一ノ地方銀行者ニ十萬
 磅ヲ貸付セリ
 第十三、該銀行ハ蘇格蘭ノ一銀行ニ地方宛ノ手形ヲ抵當トシ
 テ二十萬磅、倫敦宛ノ手形ヲ抵當トシテ六萬磅ヲ貸付セリ
 第十四、該銀行ハ地方宛倫敦宛ノ手形合セテ十萬磅ヲ割引シ
 蘇格蘭ノ他ノ一銀行ヲ補助セリ
 第十五、該銀行ハ確實ナル人ヲ保証トシテ倫敦ノ一大商家ニ
 十萬磅ヲ貸付セリ
 第十六、該銀行ハ確實ナル人ヲ保証トシテマンチエスターノ一
 大商家ニ四萬磅ヲ貸付シ其仕拂ヲ再始スルヲ得セシメタリ
 第十七、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ地方ノ一銀行ニ三萬磅
 ヲ貸付セリ

第十八、該銀行ハ此外ニ尋常決シテ取ラザル如キ抵當ヲ取テ市邑及地方ノ數多ノ商家ニ小額ノ貸付ヲ爲シ又倫敦ニ於テハ不確實ナリトノ理由ヲ以テスルノ外ハ割引ヲ請ヘル手形ハ一モ之ヲ拒マザリキ

以上列舉セル幫助ノ大半ハ十月二十三日前ニ之ヲ與ヘシ者ナリキ
 一千八百四十七年秋季ニ於テ國會議員ノ總選舉アリキ而テ宰相ハ英國銀行ヲシテ一千八百四十四年ノ條例ニ背戻セシメタル責任ヲ己レニ負擔セルヲ以テ時機ヲ失ハズ直ニ新議院ヲ召集セリ此新議員ハ十一月十八日ヲ以テ會合シ議員ノ誓詞ヲ取ル等ノ例式ニ於テ數日ヲ費ヤシ廿三日ヲ以テ女王ヨリ開會ノ勅諭アリケリ其勅諭ノ第一節ニ議院ヲ召集セル理由トシテ商業ノ攪擾極メテ驚ク可キ者アリシヲ以テ女王ガ宰相ヲシテ法律

ニ背戻セル處置ニ出アンコトヲ英國銀行ニ勸告セシメシ旨ヲ記セリ而テ之ヲ必要トスルニ及ビ法律ヲ犯シ得ルノ權ヲ該銀行ニ與ヘシガ爲メニ幸ニ恐慌ヲ鎮制シ得タル旨ヲ記セリ
 十一月三十日出納局長ハ過般ノ商業上大恐慌ノ原因ヲ調査セシメ且一千八百四十四年ノ條例ハ此大恐慌ニ如何程ノ關係ヲ有セシ乎ヲ調査セシメシガ爲メニ委員ヲ任ズルノ議ヲ起セリ
 出納局長ハ曩ニ春季ニ起リタル恐慌ノ事ニ就及シ論シテ曰余ノ見ル所ヲ以テスレバ當時ノ恐慌ハ專ラ英國銀行ノ過舉ニ原因セル者ナリ該銀行ハ其貨幣ニ對シテ種々ノ需要アルコトヲ十分ニ知リナガラ尙ホ割引歩合ヲ引上クルノ勇斷ヲ欲キ割賦ヲ爲ス可キ時期到リシニ拘ラズ割賦ノ爲メニ備ヘタル貨幣ヲ貸出セシガ故ニ其之ヲ要スルニ及ビ又貨幣ナキニ至レリ此意見ハ余當時ニ開示セシ所ナルガ今日ニ至テモ此意見ヲ變ス可

キノ理由アルヲ見ザル也而テ其準備金ノ非常ニ減少セルニ及
 ノテ俄カニ仰天シ其割引ノ高ヲ減少セシメガ爲メニ嚴刻ナル處
 置ニ出テヨリ其割引歩合ヲ引上クルノ嚴ニ失セシハ尙ホ前ニ
 準備金ヲ貸出スノ濫ニ失セシガ如クナリキト又十月ノ恐慌ニ
 關シ論シテ曰金融市場ノ甚シキ必迫ハリビブール及ノルズ、
 ナフ、イングラントノ諸銀行破産セルニ當テハ稍々衰ヘタリシ
 ガ此等ノ破産ハ更ニ恐慌ヲ再激セシメタリト而テ地方銀行ニ
 於テ非常ノ必迫行ハレシヲ記セシ後チ更ニ論シテ曰
 英國銀行ハ之ヲ直接ニシテハ地方到ル所ヨリ補助ヲ請求セ
 テレテ爲メニ必迫テ感シ之ヲ間接ニシテハ地方ノ取引銀行
 ナ救ハントスル倫敦銀行者ヨリ補助ヲ請求セラレテ爲メニ
 必迫テ感ゼリ蓋地方銀行ハ起ル可キ取付ケニ應ズルノ準備
 ナ爲サシガ爲メニ巨額ノ英國銀行紙幣ヲ要セリ而テ其取付

ケハ專ラ己レノ紙幣兌換ノ爲メニ起ルニ非ズシテ預金引出
 シノ爲メニ起リシナリ又倫敦ノ諸商家モ絶ヘズ補助ヲ英國
 銀行ニ請求シツ、アリキ二名ノ手形仲買商ハ仕拂ヲ停止シ
 他ノ二名ノ手形仲買商モ殆ド取引ヲ廢セントスルニ迫マレ
 リ是ニ於テ平倫敦ニ於ケル手形割引ノ需要ハ一ニ英國銀行
 ニ向テ注カル、ニ至レリ而テ余ガ前ニモ云ヘルガ如ク英國
 銀行ハ割引ノ需要斯ク頻繁ナリシニ拘ラズ其尋常割引セル
 如キ手形ハ一枚ヨリ拒マズシテ之ヲ割引セリ然レニ尋常
 ノ事情ニ在テハ手形仲買商ノ割引セシナル可キ巨額ノ手形
 ハ全ク割引セラル、ト能ハザリシナリ此際吾輩ハ日々刻々
 英國銀行ノ有様ニ關スル報告ヲ接手セシガ遂ニ該銀行頭取
 及副頭取ハ余輩ニ告ゲテ曰該銀行ハ之ニ向テ補助ヲ請求ス
 ル諸商家ノ爲メニ最早ヤ辨金ヲ爲ス能ハザルノ勢ニ迫マレ

リ該銀行ハ己レノ安全ヲ維持シ法律ヲ遵奉スルヲ得ザルニ
 非ズ然レニ取テ之ヲ爲サントセバ商業社會ニ一層ノ甚シキ
 必迫ヲ起スヲ免レズト而シテ此危急ノ時ニ際シ政府ガ之レ
 ニ干涉スルヲ必要トスルノ情ハ世上ノ一般ニ懷キシ所ナル
 ガ如シ苟モ商業上ノ事情ニ通曉セルモノハ皆曰政府ニ於テ
 此危急ヲ救フ可キ何等カノ處置ヲ施スニ非ズンバ最モ不幸
 ナル結果必ズ起ラザルヲ得ズト而テ吾輩ノ遂ニ採用セル策
 ナ決シテ是認セザル可シト思ハレシ人スラモ尙ホ且此ノ說
 ナ爲シタリキ政府ノ受取リタル證報ヲ見ルニ余ノ以上陳述
 セル原因ノ爲メニ甚シキ必迫ノ起リシヲ知ル可キ耳ナラ
 ズ又數多ノ人ガ巨額ノ金貨及英蘭銀行紙幣ヲ匿藏セシガ故
 ニ尋常ノ事情ニ在テハ十分ナリシナル可キ流通媒介物ノ數
 額モ又社會ノ需要ニ應ズルニ足ラザルヲ知リ爲メニ急益

必迫ノ勢ヲ加ヘシヲ知ル可キナリ蓋豫メ此事ヲ確證スル
 ハ難カリシト雖モ吾輩ガ此事件ニ干涉セシ後ニ起リタル事
 實ヲ見レバ此事歴然トシテ徵ス可キナリ十月廿五日ノ通知
 書出ツルヤ否ヤ恐慌忽チニ退キ匿藏セラレタル千萬ノ貨幣
 湧然トシテ世ニ現ハレ預金者或ハ其紙幣ヲ銀行者ノ手ニ托
 スルヲ欲セザリシト雖モ尙ホ其金匣ヲ銀行者ニ預ケ置キシ
 者アリテ今ヤ此等ノ金匣中ヨリ其紙幣ヲ取出タセリ左レバ
 開封セラレタル巨額ノ紙幣包ミ續々英蘭銀行ニ向テ返流シ
 其狀宛モ前ニ地方ニ向テ流出セシガ如クナリキ而テ紙幣増
 加ノ需要ハ實ハ極メテ微少ナリシニテ無限發行ノ權ヲ與ヘ
 シ後チ英蘭銀行ノ増發セシ全額ハ四十萬磅以下ナリキ信憑
 回復シタリケレバ匿藏セラレタル紙幣幽閉ヲ免レテ世ニ出
 プ此餘ニ又紙幣需要セラレザリシナリ何トナレバ増發セラ

レタル右四十萬磅ノ金額ノ如キハ敢テ記スルニ足ラザレバ
 ナリ(中略)吾輩ニ補助ヲ請願セル各種ノ人々皆云ハザルハ十
 シ曰「吾々ハ紙幣ヲ需要セズ唯吾々ニ信憑ヲ與ヘヨ紙幣ハ吾
 々十分ニ之ヲ有ス然レモ吾々ハ此紙幣ヲ用フ可キ信憑ヲ有
 セザルヲ如何セン閣下等冀クハ後援ヲ與ヘヨ吾々ノ請願ス
 ル所唯此一事ノミニテ足レリ要スルニ吾々ニ信憑ヲ回復セ
 シムル如何ナル處置ヲモ施セヨ若シ吾々ニ英蘭銀行紙幣
 得易シトダニ思ヒナバ吾々ハ敢テ之ヲ需要セザル可シ閣下
 等ノ欲スルニ從ヒ如何ニ高キ利息ヲモ課セヨ吾々ハ唯閣下
 等ガ爲サント欲スル所ヲ爲サント請フ(此時スプーチル氏
 ノ一々ト大呼ス)余ハノ一々ト大呼セル尊敬ス可キ紳士
 ニ謝ス然レドモ余ヲシテ何ヲ余ニ向テ云ハレシナル乎ヲ知
 ラシメラレシヲ請フ余ガ今マ陳述セシ所ハ余ニ向テ爲

タル請願ノ趣意ヲ示セルノミ即余ニ請願ヲ爲セル人々固「吾
 々チノ紙幣ヲ有セシメヨ此紙幣ノ爲メニ一割クリヒ一割二
 分タリヒ欲スル利息ヲ課セヨ利息ノ高下如何ノ如キハ吾々
 ノ毫モ顧ミル所ニ非ズ實ニ吾々ハ紙幣ヲ取ラント欲スルニ
 非ス何トナレバ吾々ハ紙幣ヲ需要セザレバナリ唯紙幣ノ得
 易キヲ吾々ニ示セヨ此一事忽チニ信憑ヲ回復ス可キノミ」ト
 吾輩ガ一二日前ニ拒ミタル處置ヲ遂ニ土曜日ニ及ンテ採用
 スルニ至リシトニ就テ如何ナル事情ノ變化アリテカ斯ク主
 義ヲ變シタルヤト質疑セシ者アリキ余之ニ答テ云ハン吾輩
 ガ木曜金曜土曜ノ三日ニ受取リシ報告ハ全ク以前ニ受取リ
 シ報告ト異ナリシニ因ルノミト吾輩カ此處置ヲ採用スルノ
 決心ヲ爲ササル可カラザルニ至リシハ土曜日ニ及ンテ初メ
 テ然リシトニシテ以前ニハ然ラザリシナリ條例ニ背戻セル

舉動ヲ許可スルヲ止ムヲ得ズト思惟セシハ此時ニ至テ初メ
 ナ然リシナリト
 此等ノ請願ヲ爲セル人々ハ大抵皆許可スベキ紙幣發行額ニ制
 限ヲ立ツルヲ必要ナリト思惟シ其制限ハ二三百萬磅ニテ可ナ
 ルベシト思惟セリ然レモ政府ハ利息相場ニ制限ヲ置ク方策
 可ナル可シト思惟シ遂ニ此方法ヲ採用セシナリ
 内閣諸相中ニテモ特ニロベルト、ピール氏ハ議院ニ出テ來リテ
 一千八百四十四年ノ條例ヲ辨護セザル可カラズト自感セシナ
 リ氏ハ己レノ受ケル攻撃ノ諸小點ニ關シテ辨解ヲ爲セシ後
 議院中ノ箇々ノ議員ヲ指摘シ之ヲシテ全議院ノ可決シタル
 處置ノ責任ヲ擔ハシメントスルハ極メテ非ナル旨ヲ切論セリ
 氏曰或ル人ハ一千八百四十四年ノ條例ハ十分ノ穿鑿ヲ經ズシ
 テ可決セラレタリト云ヘリ然レモ過クル五年間ニ於テ此問題

ヲ調査センガ爲メニ數回ノ委員相續キ總計一萬四千件以上ノ
 疑題ヲ諮問シタルコトニテ此穿鑿ハ到底際限ナキガ如ク何等
 實際上ノ結果ヲモ生ズルナクシテ止メリ最後委員ノ如キモ何
 等實際上ノ結果ヲモ生ズルナクシテ其調査ノ局ヲ結ベリ是ニ
 於テ乎遂ニ宰相ハ自カラ責任ヲ擔ヒテ一議案ヲ提出スルコト
 決心セシニ此議案ハ非常ノ大多數ヲ以テ可決セラル、所トナ
 リシナリ然レモ一千八百四十四年ノ條例ヲ修正セザル可カラ
 ザルノ理由ヲ果ノ能ク示シ得クンバ則之ヲ修正ス可キナリト
 ト氏更ニ論シテ曰
 或ハ此條例ノ目的ヲ誤解セル者アリ蓋曾テ度々起リタル恐
 慌ハ英蘭銀行ガ早ク其準備金ノ流出ヲ防クヲ急ルルニ原
 因セル者ニシテ此條例ノ計畫セル目的ノ一ハ斯カル恐慌ヲ
 豫防スルニ在ルコトハ余之ヲ拒マザルナリ余ハ假令強ヒテ此

用意ヲ爲スノ義務ヲ該銀行ニ課セザルモ該銀行ガ一千八百二十五年同三十六年同三十九年ノ實驗ニ徴シテ必スヤ自カラ此主義ヲ執ル可キヲ豫期シタリキ蓋シ此主義ハ該銀行取締役ガ自カラ正當ナリト認メ己レヲ制スルノ規則トシテ採用セシメテ幾回トナク公言セル所ナリ然ルニ諸君ヨ余ハ余ノ此豫期ニ於テ條例ノ此目的ニ於テ全ク失望セシメラント云ハザルヲ得ズ抑一千八百四十四年ノ條例ノ目的ハ時宜ニ投ノ用意ヲ施シ以テ非常過嚴ノ處置ニ出ツルノ必要ヲ豫防ス可キ法律上若クハ少ナクモ道德上ノ義務ヲ英蘭銀行ニ課セントスルニ在リキ然ルニ過般起リタル商業上ノ閉塞極メテ甚シク爲メニ斃レタル商家ノ數極メテ多カリシヲ見レハ條例ノ此目的ヲ實際ニ達シ得ザリシヲ許サザルヲ得ズ但シ余憶フニ斯ク斃レシ商家中ニハ條例實施前ニ既ニ公シ

ク身代不確實トナリ居シモアリ又其取引セル商家斃レテ其餘響ヲ受ケシモノアリ又濫ニ投機取引ニ從事セシモアリシナリ諸君ヨ余ハ英蘭銀行ノ力能ク此災害ヲ豫防スルヲ得可ク假令然ラザルモ大ニ其勢ヲ殺キ得可カリシト主張セザルヲ得ズ若シ英蘭銀行ニ紙幣ノ數額ヲ減少シ割引歩合ヲ引上ケ該銀行ガ一千八百四十四年ヨリ同四十六年マデノ間ニ許シタリシ融通ヲ多ク拒ミ以テ將サニ來ラントスル危険ニ應スルノ勇斷ヲ有セシナラシムハ若シ該銀行ニシテ斯カル準備ノ處置ヲ固執果行シテ動クコナカリシナラシムハ能ク外ヨリ之ニ干渉スルノ必要ヲ避ケ得シナル可シ即政府ガ一千八百四十四年ノ條例ニ背戻セル舉動ヲ許可スルノ必要ヲ避ケ得シナル可シ(中略)一千八百四十四年ノ條例ハ三様ノ目的ヲ有セリ其第一ノ目的ハ余ガ實際ニ達シ得ザリシコト

ナ許ス所ノモノ是ナリ即早ク漸々ニ紙幣ヲ減少セテ急激過
 嚴ノ紙幣減少ト之ニ隨起スル恐慌混亂トヲ豫防スルニ在リ
 然レハ此條例ハ其緊要ナルヲ之ニ超ユルアルモ決シテ下
 ルナキ他ノ目的少ナクモ二ヲ有セリ其一ハ紙幣ノ金貨兌換
 ナ維持シ保證スルヲニシテ其一ハ約束手形濫用ノ爲メニ不
 當ノ投機取引ヲ鼓舞スルヨリ起ル可キ困難ヲ豫防スルヲ是
 ナリ而テ余ハ信ス此二目的ニ關シテハ條例十分ニ其功ヲ奏
 セシコトヲ余ハ信ス諸君ハ紙幣兌換主義ヲ維持スルコトニ
 關シテ以前ニ決シテ有セザリシ保證ヲ有スルニ至リシコト
 余ハ又信ス諸君ガ諸種原因結合ノ爲メニ今苦ミ居ル困難ハ
 如何ニ大ナルニモセヨ要スルニ諸君ガ義ニ英蘭銀行、合資銀
 行、私立銀行ノ紙幣無限發行ヲ制限スル處置ヲ採用セザリシ
 ナラシムルハ此困難ハ更ニ幾層ノ甚シキヲ加ヘシナラシムコト

ナト

次ニロベルト、ピール氏ハ穀物凶歉ノ爲メニ巨額ノ資本破壊セ
 ラレタルト鐵道築造ノ一途ニ非常巨額ノ資本吸收セラレテ且
 此等ノ鐵道ハ未ダ利益ヲ生ズルニ至ラザリシトノ二原因ヨリ
 國內ニ起リタル真正ノ弊害ヲ最も適切ニ説明セリ氏ハ苟モ資
 本匱乏ナル間ハ低利ノ貨幣ヲ得ント期スルノ極メテ愚ナルヲ
 ナ示セリ此點ニ於テ氏ノ說ハ徹頭徹尾最モ贊稱ス可キ者ナリ
 ト雖モ其長キガ爲メニ余輩玆ニ全文ヲ掲クル能ハザルヲ惜ム
 ナリ氏ハ政府ガ夫ノ通知書ヲ發シタルハ早キニ失セズ後キニ
 失セズ能ク時機ヲ得タルヲ誠意ニ自贊セリ氏曰當時我國ノ
 蒙リ居タル弊害ノ真正ノ救治策ハ箇々人々ノ盡力ニ在リシナ
 リ即契約ヲ節減スルト苟モ猶豫シ得可キ需要ハ成ル可ク之ヲ
 猶豫スルトニ在リシナリ然ルニ若シ夫ノ通知書ヲ出タスニ早

キニ失セシナラシムハ必スヤ此等ノ必要ナル盡力ヲ怠弛セシ
 メシナル可シ然レモ此必迫ニ續ギ恐恠激發セリ是レ法律ノ以
 テ豫防シ若シハ前見シ能ハザル所又理論ノ以テ推究シ能ハザ
 ル所ニシテ政府ガ裁斷權ヲ借取シ臨機應變ノ策ヲ施スニ非ズ
 シバ之ニ當ルコト能ハザリシナリ夫ノ一千八百四十四年ノ條例
 ナ修正スルコト望マシキヤ否ヤハ後日ノ考察ニ讓ル可キノ一問
 題ナリトス余一箇ノ私見ヲ以テスレバ此條例ノ大原理ヲ維持
 セント欲スルナリ若シ當時行ハレ居タルト同一ノ制限ヲ英蘭
 銀行ニ課セズトスルモ尙ホ何等カノ制限ヲ課セザル可カラザ
 ルナリ何トナレバ既ニ一千八百二十五年同三十六年同三十九
 年ノ實驗アリタル後ニ於テ我國貨幣取引ノ無限管理權ヲ英蘭
 銀行ノ獨斷ニ任スルガ如キハ余ノ肯シズル能ハザル所ナレバ
 ナリ一千八百四十四年ニ於テハ世上一般ノ輿望ハ此權ヲ該銀

行ニ委ス可カラズト云フニ在リシナリ而テ余ハ之ニ制限ヲ課
 スルノ方法ハ一千八百四十四年ノ條例ニ計畫セル方法ヨリモ
 更ニ善キ者アルヲ知ラザルナリト蓋制限ヲ置クヲ必要ナリト
 スルニ於テハ吾輩全クロペルト、ピール氏ト意見ヲ同ウスト雖
 モ吾輩ハ一千八百四十四年ノ條例ニ計畫セル方法ハ真正ノ方
 法ニ非ズシテ最モ不幸ナル過擧ニ出ツルノ餘地ヲ英蘭銀行ニ
 殘ス者ナリト思惟スルナリ吾輩ハ有効ナラザル可カラザル一
 方法ノ或ハ工夫セラレ得可キコト後章ニ於テ示サント勉ム可
 シ
 上下兩院ノ各々任シタル委員ハ一千八百四十八年二月ニ其職
 ニ就ケリ而シテ英蘭銀行頭取モルリス氏及同副頭取ブレスコッ
 ト氏ハ兩委員ノ爲メニ長キ諮問ヲ受ケタリシニ此兩氏ハ一千
 八百四十四年ノ條例及其實際ノ運轉法ヲ口ヲ極メテ稱贊シ此

條例ノ目的ハ我國貨幣ノ有様ヲ恰モ貨幣悉ク正貨ノミナル時ノ如クナラシメントスルニ在ルヲ述ベタリ

(問)然ラハ汝ノ意見ハ恰モ貨幣悉ク正貨ノミナル時ト同一ノ方法及同一ノ度ヲ以テ貨幣減縮シ又ハ膨脹ス可シト云フニ在ル乎

(モルリス氏答)然リ余ハ此事ニ關シテハ一小疑ヲダニ懷カザルナリ

此二氏又曰此條例ノ目的ハ紙幣ノ兌換ヲ確實ニスルニ在リテ十分ニ此目的ヲ達セリ又曰英國銀行ガ一千八百四十七年ノ春季ニ於テ一層早ク割引歩合ヲ引上ケザリシハ大ニ四月ノ金融必迫ヲ起スノ原因トナリシ所ニシテ該銀行ハ此事ニ於テ全ク過テリ又曰十月二十五日ノ政府ノ通知書ハ英國銀行之ヲ求メシニ非ス又該銀行ノ爲メニ發行セラレシニ非ス該銀行ハ自

行ノ安全ニ關シテハ毫モ畏レシニ非スシテ此通知書ハ該銀行ノ確實ヲ維持センガ爲メニ之ヲ要セシニ非ス然レニ此通知書ハ商業上ノ恐慌ヲ制止スルニ於テ最良ノ結果ヲ生シタリ又曰此恐慌ハ假令一千八百四十四年ノ條例ナカラシムルモ到底之ヲ避クルコト能ハザリシナラン唯此條例ノ爲メニ恐慌ヲシテ一層早ク來ラシメ隨テ其猛烈ノ度ヲ漸カラシメタルガ如シ又曰此條例ノ大功ハ金融必迫來ルニ及ンデ英國銀行ガ尙ホ八百萬磅ノ準備金ヲ有セシト是ナリ若シ該銀行ノ舉動ヲ自由ニ任シタラシムルハ該銀行ハ曾テ屢然リシガ如ク危險ナル濫貸ノ處置ニ出デシナラン又曰政府ノ通知書ハ恐慌ヲ制止シタルニ相違ナシト雖モ假令此通知書ナカラシムルモ尙ホ恐慌ハ退キシナラシト而テ此二氏ハ地銀ヲ基礎トシテ發行シ得可キ紙幣高ノ制限狭キニ失スルヲ思惟セシト雖モ獨リ此一點ヲ除クノ外ハ

條例ヲ變更スルノ非ナルヲ熱心ニ説キタリ
 エス、ガルチー氏モ亦一千八百四十七年ノ最初三ヶ月間ニ於ケ
 ル英蘭銀行ノ舉動過アルヲ非難シ若シ該銀行ニシテ一層早ク
 減縮主義ヲ施セシナラシムハ大ニ四月ノ金融必迫テ輕カラシ
 ムルヲ得シナル可シト述ベタリ氏曰十月ニ於テ準備金速ニ減
 少セシカハ世人ハ如何ニシテ流通媒介物ヲ得ンヤトテ頼リニ
 之ニ顧慮シ爲メニ一般ノ不信憑ヲ起スニ至レリ而テ富裕確實
 ナル者ハ遙ニ必要ノ度ヲ越ヘテ已レノ爲メニ準備セント勉メ
 タリ左レバ公衆ノ手ニ存スル紙幣ハ殆ト二千一百万磅ニ達セ
 シト雖モ世人ガ毫モ英蘭銀行紙幣ヲ得ル能ハザル可シト思ヒ
 テ恐慌畏怖セシガ爲メニ其四五百萬磅ハ人ノ匿藏スル所トナ
 リ全ク世ニ効ナキニ至リタルハ余ノ疑ハザル所ナリト而テ氏
 ハ此事ヲ證センガ爲メニ土曜日即二十三日ニ於テ已レノ商家

ガ大ニ貨幣ノ取付ケヲ受ケシヲ述ベ而テ此取付ケノ起リタ
 ルハ該商家ガ信憑ヲ失ヒシニ因ラスノ世人ガ毫モ英蘭銀行紙
 幣ヲ得ル能ハザル可シト恐レシニ因ルヲ述ベタリ氏曰我商
 家ハ巨額ノ割引ヲ英蘭銀行ニ請求シタルニ悉ク承諾セラレタ
 リト雖モ該銀行ハ其割引ノ歩合一割ナラザル可カラザルヲ
 告ケタリ因テ該銀行頭取ニ諫諍シ若シ我商家ガ貨幣ノ爲メニ
 一割ノ利息ヲ仕拂ヒシト世ニ知ラル、アラバ爲メニ最惡ノ結
 果ヲ生ズ可キ旨ヲ忠告シタルニ遂ニ雙方ノ協議ニテ其歩合ハ
 九分ト定マレリ而テ我商家ハ此歩合ニテ二十萬磅ノ貨幣ヲ取
 出ダセリ然ルニ月曜日即廿五日ニ至テ需要再ヒ急ナリケレバ
 我商家ハ更ニ二十萬磅ノ補助ヲ請求セシニ此時英蘭銀行ハ一
 方ニハ準備金減少ニ一方ニハ條例ノ制限アリテ困難ヲ極メタ
 レバ其諾否ノ決午後二時マテ遅延セリ然ルニ恰モ好シ午後一

時ニ至テ條例ノ制限ヲ緩弛スル政府ノ通知書公達セラレケリ
 而テ此通知書ノ効驗ハ迅速ニシテ射ルガ如ク此朝ニ在テ顯リ
 ニ貨幣ヲ取付ケタル人々ハ今ヤ之ヲ需要セザル旨ヲ告ゲ唯用
 意ノ爲メニ仕拂ヲ求メシマデナリトノ旨ヲ通知スルニ至レリ
 左レバ此通知書出デシ後ハ我商家ハ二十萬磅ナラズシテ唯十
 萬磅ヲ要センノミ而テ恐慌忽チニ經過シ去リ此週期ノ末ニ至
 テハ我商家ハ反テ其取出シタル貨幣ヲ英蘭銀行ニ返サソフヲ
 請求セザル可カラザルニ至レリト而テガルチー氏ハ過クル二
 年ノ實驗ニ徴シテ條例ニ關スル氏ノ意見變ゼシ旨ヲ述ベ條例
 中ニ何等カノ緩弛作川ヲ設ケザル可カラズト思惟スル旨ヲ述
 ベタリ
 又チツアーストーン公ハ説ヲ爲シテ曰一千八百四十四年ノ條例
 ハ四月ノ金融必迫チ甚シカラシムル何等ノ効驗ヲモ現ハセシ

ニ非ズ一月ヨリ四月マデニ英蘭銀行ノ施シタル處置ハ極メテ
 誤レル者ニシテ公衆ノ利害ニ最モ害アリキ而テ條例ノ力ニ因
 テ始メテ之ヲ制スルヲ得タリ若シ夫レ條例ノ力ニ因テ該銀行
 ノ處置ヲ制セザリシナラシムルニハ必スヤ最モ不幸ナル結果ニ歸
 セザルヲ得ザリシナラシト
 又チジョー、カール、グリソ氏ハ説ヲ爲シテ曰條例ノ可決セラレ
 前ニ在テハ英蘭銀行ヲ發行部及銀行部ニ分ツノ策ハ之ヲ實際
 ニ試ミタキ者ト思惟シタリキ然ルニ前年ノ實驗ニ徴シテ之ヲ
 考フルニ此策ハ全ク失敗セリト
 下院委員ハ一千八百四十八年六月八日ヲ以テ其報告ヲ出ダセ
 リ此委員ハ理論上ヨリ證報者ノ説ノ當否ヲ查察スルヲ爲サズ
 レテ唯其蒐集セル證報ニ對シ緒言駢ノ一文ヲ附スルヲ以テ自
 カラ足レリトセリ然レヒ一千八百四十四年ノ條例ヲ荷モ變更

スルハ得策ニ非スト云フノ説ヲ記シテ以テ其文ヲ結ベリ
 又上院委員ハ七月ヲ以テ其報告ヲ出ダセシガ之ヲ下院委員ノ
 報告ニ比スレバ大ニ精密ナル者アリキ即此委員ハ具サニ證報
 者ノ説ヲ查察セシ耳ナラズ己レノ意見ヲモ開示シ條例ヲ修正
 シテ其制限ヲ緩弛シ外國爲替相場我國ニ利アル間ハ紙幣ノ増
 減ヲ英蘭銀行ノ獨斷ニ任センコトヲ勸告セリ
 八月廿二日ヲ以テヘルリス氏ハ議院ガ次回ノ會期ニ於テ速
 ニ右上院委員ノ報告ヲ討議ニ附センコトヲ勸議セシニ此勸議ハ
 否決セラレ又次回ノ會期ニ於テ氏ハ再ニ議院ヲシテ條例ヲ變
 更セシメント勉メタリト雖モ又其功ヲ奏セザリキ
 一千八百四十七年ノ大恐慌ニ會シテ我國商業社會ガ受ケタル
 劇烈ナル救治策ハ大ニ其効アリシコト疑フ可カラズシテ之ガ爲
 メニ數年間身代不確實ナリシ商家ヲ一掃シタルヲ以テ爾後我

商業ハ一層鞏固ナル基礎ノ上ニ立チ概シテ之ヲ云フトハ一千
 八百五十七年秋季ニ至ル迄ハ大ニ繁榮ノ狀ヲ以テ進ミケリ然
 ルニ戰爭發セントスルノ勢アリシガ爲メニ大ニ船舶ノ需要ヲ
 起シ隨テ船舶商業ニ於テ大ニ投機取引ヲ起セリ此投機取引ハ
 一千八百五十四年ノ秋季ニ於テ就中リヴァプールニ行ハレ爲
 メニ破産スル者甚多キニ至レリ而テ此破産ヨリ起リタル事實
 ニ徴シテ之ヲ考フルニ夫ノ融通手形ヲ發行スル抜ク可カラサ
 ル惡習再ヒ熾シナリシコト知ルナリ蓋此種類ノ職業ニ從事セ
 ル者ノ間ニ無數ノ融通手形ヲ發行シ而テ此等ノ手形ハ全王國
 中ニ賣買セラレタリ抑斯カル手形ヲ發行スルガ如キハ既ニ破
 廉恥ノ甚シキ者ナリト雖モ又或ハ一層破廉恥ナル手段ニ出テ
 シ者モアリキ此時ノ大破産ハ茲ニ之ヲ指示セザルモ世人ノ能
 ク知レル所ニシテ此等ノ大破産ノ爲メニ痛ク信憑ヲ毀害シ加

四	月十二日	一四、三九二、五〇〇	四
五	月三日	一四、七九一、七八五	四
同	十七日	一五、三三六、五一〇	四
同	卅一日	一六、三三七、六八五	四
六	月十四日	一七、〇五六、九四五	三
同	廿八日	一七、四二九、四三五	三
七	月十九日	一六、六三一、八九〇	三
八	月九日	一五、六〇一、五九〇	三
九	月六日	一四、三六八、〇一〇	四
同	十三日	一三、六六八、〇〇五	四
同	廿七日	一二、六九五、二五〇	五
十	月四日	一二、三六八、二五五	五
同	十八日	一一、二〇五、八五五	六

期限六十日ニ越ヘサル手形ニ對シ

十一月八日	一〇、七四一、三二〇	七
十二月六日	一〇、五八〇、五七〇	同
同 廿七日	一〇、三六九、五九五	同

前數週期間倫敦經濟雜誌ハ金融市場ノ極メテ必迫セルヲ報シタリシガ十二月廿九日ニ至テハ左ノ如キ報ヲ爲セリ曰

金融市場ハ引續キ極メテ必迫シ如何ナル手形ト雖モ英蘭銀行ヨリモ低廉ナル歩合ヲ以テ之ヲ割引スル能ハザルナリ而テ長期ノ手形ニ至テハ如何ナル歩合ヲ以テスルモ之ヲ割引スル能ハザルナリ蓋貨幣ノ需要スク引續キ急ナルヲ見レバ割引歩合騰貴ノ爲メニ未タ大ニ商業ヲ沮止スルノ効アラズシテ今日尙ホ我商業ガ適當ノ度ヲ越ヘテ擴張セラレ居ルヲ推察ス可ク而テ十一月ノ貿易報告ニ於テ我商業ノ甚大ナルヲ示スヲ見レバ此推察ノ當レルヲ證ス可キナリト

以上英蘭銀行ノ最モ正當ナル舉動ハ限リナク之ヲ稱賛スルノ外ナキ所ナリト雖モ尙ホ一派ノ人々ハ單ニ紙片ニ仕拂フ可キ約束ヲダニ記セバ據テ以テ此約束ヲ履行ス可キ正貨ナキニ拘ラズ隨意ニ貨幣ヲ造リ得可キ者ト信シ同一ノ貨幣ヲ外國ニ送りテ而シテ尙ホ之ヲ内地ニ用フルヲ得可キモノト信シ露呼シテ英蘭銀行ノ此舉動ノ非ヲ鳴セリ左レバ數週期間新聞紙ハ此甚シキ謬見ヲ開示スル所ノ投書及論文ヲ以テ滿タサレタリ蓋此類ノ謬見ハ曾テ穀價ノ問題ニ關シテ大ニ行ハレシ所ニシテアダムスミス氏ノ最モ適切ニ其誤レルヲ辨破セシ所ナリ然レハ此點ニ關シテハ近年多數ノ記者ノ說ニ最モ著シク最モ是ナル變化ヲ生ゼリ今ヤ多數ノ記者ハ割引歩合ノ高低ハ紙幣ノ真正ノ序理法ナルコトヲ會得シ英蘭銀行ガ割引歩合ヲ引上ゲテ其職ヲ盡スアルモ又罵詈惡口ヲ放テ之ヲ攻撃セズシテ一般ニ

稱賛シ其之ヲ非トスル者ノ如キハ甚稀レナルニ至レリ是レ實ニ真正經濟學ノ擴張上ニ於テ有益ナル一大進歩ナリト云フ可シ
發行銀行ガ其紙幣發行ヲ止ムルハ其三分ノ二ニ越ヘザル紙幣ヲ英蘭銀行ヲシテ發行セシムルノ權ハ一千八百四十四年ノ條例ガ女王陛下ニ托スル所ニシテ女王陛下ハ此年ノ末ニ至リ此權ヲ實用セリ抑條例ノ制定以來此時ニ至ルマデ發行銀行ノ其紙幣發行ヲ止メシ者四十七行アリテ之ニ許可セラレタル紙幣發行ノ定額ハ合計七十一萬二千六百二十三磅ナリキ是ニ於テ平一千八百五十五年十二月十三日女王陛下ハ一令ヲ發シ英蘭銀行ヲシテ國債證書ヲ抵當トシ更ニ四十七萬五千磅ノ紙幣ヲ増發セシムル旨ヲ達セリ然レハ英蘭銀行ノ紙幣發行權ノ此增加ハ條例ノ精神ニ合ヘル増加ト云フ可カラザル者アリ其故

如何ト云フニ一千八百五十四年ニ於テ交換所ハ一層改良セル方法ヲ採用セルガ爲メニ以前ニハ其取引ヲ決済センガ爲メニ平均二十萬磅ノ英蘭銀行紙幣ヲ要セシト雖モ今ヤ新制ノ下ニ在テハ此紙幣ノ用廢セラレテ全ク紙幣ヲ要セザルニ至リタルバナリ且合資銀行ガ交換所仲間ニ加入スルヲ許サレタルヲ以テ此等ノ合資銀行ハ最早ヤ從前ノ如ク他ノ銀行ノ取付ケニ應ゼンガ爲メニ巨額ノ英蘭銀行紙幣ヲ準備スルヲ要セザルニ至レリ蓋從前斯ク準備セタル紙幣ノ額ヲ五十萬磅ナリト算スルモ決シテ過算ノ恐レナカル可シ左レバ今ヤ此等ノ紙幣ハ英蘭銀行之ヲ商業上ニ用フルヲ得ルコトニシテ是レダケハ英蘭銀行ノ紙幣發行權ヲ加ヘタル者ト云フモ不可ナキナリ故テ以テ英蘭銀行ハ一千八百四十四年ノ條例制定後實際其紙幣發行權ヲ一百十七萬五千磅増加セル者ト謂フ可シ而テ爾來一千八百

五十七年二月ニ至ルマデニ紙幣發行ヲ止メタル銀行更ニ七行アリテ其紙幣發行ノ定額ハ合計十一萬一千零二十磅ナリシト雖モ一千八百六十六年ニ至ルマデハ又紙幣増發ノ權ヲ英蘭銀行ニ與ヘシテアラザリキ

一千八百五十六年ニ入りテヨリ數月間ハ金融市場引續キ大ニ必迫レ英蘭銀行ノ正金在高ハ敢テ増減ナキ姿ナリキ而テ其最モ減少セシハ四月廿六日ニ在リテ其高九百零八萬一千六百七十五磅ナリキ其後ハ次第ニ増加セルヲ以テ割引歩合モ夏季ニ至テハ約ソ四分¹/₁₀₀乃至四分¹/₁₀₀ニ下落セリ然ルニ十月ニ至リ正金在高再ヒ大ニ減少シ割引歩合ハ七分乃至八分ニマデ騰貴セリ是ニ於テ平二千八百五十五年ニ於ケルト殆ト同様ナル金融必迫起リ其年末ニ至ルマデ此有様ハ殆ト變ゼズシテ續ケリ

一千八百五十七年ノ恐慌

吾輩が前ニ考察セシ所ノ恐慌ハ商業尋常ノ順路ノ無數ニ錯亂
 セラレシコトノ避ク可カラザル結果タリシナリ蓋社會數多ノ人
 ガ鐵道ノ投機ニ從事ノ彼レノ如ク困難ニ陥リ且收穫凶歉ノ爲
 メニ大損失ヲ生シタルヲ以テ勢ヒ恐慌ヲ起ササルヲ得ザルコ
 ハ苟モ商業ノ歴史ニ通曉セル者ノ必ス前見セザル可カラザル
 所ナリ而テ夫ノ一千八百四十四年ノ銀行條例ハ最モ經驗アリ
 シ先世大家ノ説ニ從フト唱フルト雖モ實ハ全ク之ニ背戻セル
 者ニシテ此凶慌ノ爲メニ痛ク其威光ヲ挫カレシコトハ吾輩既ニ
 之ヲ示セリ抑此等ノ大家ハ英國銀行ノ紙幣發行ニ數額上ノ制
 限ヲ置クノ非ナルヲ常ニ切言セシ所ニシテ一千八百四十七年
 ノ實驗ハ一千七百九十三年同九十七年一千八百二十五年ノ實
 驗ヲ十分ニ核證シ大恐慌ノ激發スルニ際シテハ商業上ノ信憑
 ナク悉ク破壊スルノ危険ナクシテ又斯カル制限ヲ維持スル能ハ

ザルコトヲ明ナラシメタリ
 然ルニ吾輩が今茲ニ記セント欲スル恐慌ハ右ノ恐慌トハ甚其
 性質ヲ異ハセリ此恐慌ヤ最モ豫期セザル方法ヲ以テ世界ニ破
 裂セリ此恐慌ハ常ニ注意ヲ怠ラザル老練ナル人ニ非スシテ尙
 ホ能ク看破シ得ル如キ前兆ヲ毫モ示スコトナク而テ其一旦來ル
 ニ及ンデヤ商業世界ノ腐敗極メテ深カリシコトヲ示シ一千八百
 四十七年ノ恐慌ニ比スレバ一層甚シキ者アルヲ證シ以テ各人
 ナ仰天セシメタリ
 一千八百四十四年ノ條例ノ辨護者ハ一千八百四十七年ニ於テ
 此條例ノ失敗セルガ爲メニ大ニ落膽低頭シタリト雖モクリミ
 ア戦争ノ後ニ至テ再ヒ其勇ヲ恢復セリ此條例ハ商業上ノ大恐
 慌ニ會シ其効力ノ有無ヲ試験セラレ而テ失敗セリ今ヤ此條例
 ハ戦争ニ會シ再ヒ其効力ノ有無ヲ試験セラル、者ニシテ此條

例ノ反對者多クハ思ヘラク又必ス失敗セント然ルニ此豫期ニ反シテ今回ハ失敗セザリシナリ蓋クリミア戦争ノ間此條例ノ効力ハ多分ハ有益ナル者アリシナラント雖トモ而カモ此戦争ハ嚴ニ條例ノ効力如何ヲ試檢スルニ足ルノ度ニ達セザリシナリ即我國資力大ニ必迫テ告クルニ先チテ平和回復セラレシナリ

一千八百五十六年ノ秋季ニ於テ割引歩合ノ七分乃至八分ナリシトハ吾輩前ニ之ヲ示セリ然ルニ爾後次第ニ下落シテ十二月四日ニハ六分半トナリ十八日ニハ六分トナリ而テ一千八百五十七年ノ秋季マデハ此歩合ニテ續ケリ

此歩合ハ従前ノ平均歩合ニ比スレバ固ヨリ大ニ高クシテ數多ノ人ハ此事實ヲ以テ條例ヲ罪スルノ一理由ト爲セリ然レハ斯ノ如キハ實ニ條例ノ罪ニ非ズシテ反テ其功ナリトス今ヤ取締

役ハ從來ノ實驗ニ徴シテ悟ル所アリシ者ニシテ畢竟英蘭銀行ノ安全ヲ維持セシ所以ノ者ハ斯ク割引歩合ヲ引上ケタルニ因ルナリ

八月ニ於テハ世人ノ眼ヲ遮ヤル可キ事物ハ一トシテ之アラザリキ左レハ英蘭銀行頭取ノ言ニ曰當時事物略ホ靜平ニ歸シ收獲亦豐稔ノ兆アリテ商業不安定ナリトノ恐レハ毫モ之アラザリキ但シ遠見ノ士或ハ以爲ヘラク曩ニ戰費ノ爲メニ鼓勵セラレテ東方及其他ノ地方ヨリ輸入セラレタル物品ノ消費サ大ニ増加セルガ故ニ今ヤ必ス幾分ノ失墮ヲ來タサマルヲ得ズト加之或ル人ハ商人ガ前數年間ニ於テ產物ヲ輸入シテ利ヲ得シカバ其直段ノ騰貴セル今日ニ於テモ尙ホ依然之ヲ輸入シツ、アルトテ説キ私カニ恐ル、所アリキ然レハ一般世人ハ視テ以テ商業安定ナリト爲シ決シテ恐慌ノ來ル可キヲ思ハズ况ヤ恐慌

ノ近ク頭上ニ迫マレルコトニ於テチャ其毫モ思ハザリシ所ナリ
 此時ニ於テ正金在高ハ一千零六十萬六千磅、準備紙幣ハ六百二
 十九萬六千磅ニシテ最低割引歩合ハ五分半ナリキ而テ此時英
 蘭銀行ハ八月十七日ヲ以テ東印度會社ト約ヲ結ビ一百万磅ノ
 正金ヲ東方ニ送ル可キコトヲ諾セリ
 九月中旬米國鐵道會社ノ株券大ニ下落セリトノ新聞達スルニ
 及ビ我國ノ事情ハ實ニ斯ノ如クナリキ而テ此新聞達スルニ及
 ビ米國鐵道會社ガ多年間最モ濫ナル取扱ヒヲ爲シ營業利ナク
 シテ尙ホ大ナル割賦ヲ爲シ居シテ發見セラレタリ而テ此取引
 遂ニ失敗セシチ以テ勿論其株券ノ驚ク可キ下落ヲ起シ其下落
 殆ト二割ニ及ベリ而テ英國ニ於テ此等ノ株券ヲ有セシテ無慮
 八千萬磅ノ多キニ及ビシレバ此下落ノ結果ハ極メテ甚シキ者

アル可シト想像セラレタリ八月二十五日「チハイチ、ライフ、エン
 ド、トラスト、コムパニー」會社ハ一百二十萬磅ノ預金ヲ以テ仕拂
 ナ停止セシカバ恐慌全合衆國ニ普及シ割引歩合一割八分乃至
 二割四分ニマデ騰貴セリ而テ十月十七日ニ至リペンシルヴァニ
 ア、マリイラシド、ヴアルシニア、ロッド、アイランドノ百五十ノ銀行
 仕拂ヲ停止セリトノ新聞達セリ是ニ於テ平英蘭銀行ヨリ正金
 ノ流出スルコト甚シキニ至レリ八日ニ於テハ該銀行ノ正金在高
 ハ九百七十五萬一千磅、準備紙幣四百九十三萬一千磅ニシテ割
 引歩合六分ニ引上ゲラレタリ十二日ニ於テハムホルグノ割引
 歩合ハ七分^{3/4}ナリキ而テ正金紐育ニ向テ流出セシチ以テ英蘭
 銀行ハ更ニ其割引歩合ヲ七分ニ引上ゲタリ又此頃ニ至リ痛ク
 「ウエスタルン、バンク、チフ、スコットランド」銀行ノ信憑ヲ害スル如キ
 風聞大ニ行ハレタレバ十九日ニ至リ割引歩合更ニ八分ニ引上

ゲラレタリ而テ此際米國ニ於テハ商業上ノ災害日ニ益甚シキ
 ナ加ヘ又佛蘭西銀行ハ僅ニ一週期間ニ於テ一百萬磅以上ヲ損
 セリ左レバ英蘭銀行ノ正金在高ハ八百九十九萬一千磅ニ減少
 シ其準備紙幣ハ四百十一萬五千磅ニ減少セリ此時巴里ノ割引
 歩合ハ七分半ニ引上ゲラレハムボルグノ割引歩合ハ九分ニ引
 上ゲラレタリ二十六日ニ至リ「ウエスタルン、パンク、チフ、スコットラ
 ヲド」銀行ハ一代理人ヲ派シテ英蘭銀行ニ補助ヲ求メタリト雖
 モ英蘭銀行ハ斯カル大事業ヲ引受クルヲ恐レテ諾セサリキリ
 ヲ「フール」ノ「ポロー、パンク」銀行亦困難ニ陥リケレバ英蘭銀行
 ハ暫時熱慮ノ後チ遂ニ該銀行ガ若シ閉店スルニ於テハ百五十
 萬磅ノ額マデハ補助ヲ與フ可キ旨ヲ諾セリ然レモ該銀行ハ此
 約束ノ尙ホ全ク成ラザルニ先チテ既ニ閉店シタルヲ以テ此約
 束ハ水泡ニ歸シテ止メリ

紐育ノ諸銀行ハ己レノ安全ヲ維持センガ爲メニ止ムヲ得ズ嚴
 ナル減縮政略ニ出テ之ガ結果トシテ十月十三日ニ至リ此等ノ
 諸銀行ニ對シテ一般ノ兌換迫促起レリ而テ此等ノ銀行中十八
 行ハ忽チニ仕拂ヲ停止シ其後直ニ六十三行ノ銀行亦困難ニ沈
 ミ其中纒ニ仕拂ヲ維持シ得タルハ一行ノミナリキ左レバ此事
 ハ米國ト取引ノ關係厚キ「フール」及「グラスゴ」ニ忽チニ
 波動ヲ及ボシ十月十九日頃ヨリ我國ニ於テモ破産ノ數甚多キ
 ニ至リ倫敦ニ於テモ不安ノ情大ニ加ハ、レリ而テ二十八日ニ
 至リ屈指ノ手形割引商ハ其要スル如何ナル補助ヲモ與フルノ
 保証ヲ爲サントテ英蘭銀行ニ請求セリ又三十日ニ至リ一使者
 來リ蘇格蘭ノ一銀行ノ爲メニ十七萬磅ノ補助ヲ請求シ内五萬
 磅ハ金貨ヲ以テセンヲ請求シ又愛爾蘭ノ爲メニ八萬磅ノ幫
 助ヲ請求セリ十一月五日ニ至リ割引歩合九分ニ引上ゲラレ七

日ニ至リテノスタウンノ一大商家殆ト二百萬磅ノ負債ヲ以テ仕拂ヲ停止シ九日ニ至リ「ウエスタルン、パンク、チラ、スコット」ト銀行其戸ヲ閉ヂテリ而テ倫敦ニ於テモ破産速ニ増加シ株券ノ賣買驚ク可ク行ハレテ曾テ其例ヲ見ザルノ多キニ達セリ又英國銀行ノ正金在高ハ七百七十一萬九千磅ニ減少シ其準備紙幣ハ二百八十三萬四千磅ニ減少シ九日ニ至リ割引歩合一割ニ引上ケラレタリ又十一月十日一大割引商ハ四十萬磅ノ補助ヲ英國銀行ニ請求セリ佛蘭西銀行ハ其割引歩合ヲ一月期ノ手形ニ對シテハ一割ニ引上ケタリ英國ノ他ノ一銀行又補助ヲ請求セリ「セント、ト、チラ、グラスゴ」銀行此時仕拂ヲ停止セリ此日ニ於テ英國銀行ノ割引ノ高ハ一百十二萬六千磅ナリヤ而テ十日及十一日ニ於テ一百萬磅以上ノ金蘇格蘭ニ送ラレ愛爾蘭ヨリノ需要

モ亦大ナリキ十一日ニ於テ大ナル手形仲買商「サンデルソン」會社ハ三百五十萬磅ノ預金ヲ有シテ仕拂ヲ停止セリ十二日ニ於テ英國銀行ノ割引ノ高ハ二百三十七萬三千磅ナリキ又十一日ニ於テ蘇格蘭及愛爾蘭ヨリ斯ク俄然需要アリシガ爲メニ正金在高ハ六百六十六萬六千磅ニ減少シ準備紙幣ハ一百四十六萬二千磅ニ減少シタリ倫敦ニ於テ破産愈甚シキヲ加フルニ從ヒ割引ハ愈減縮セラレタリ蓋彼レノ如クニ數多銀行ノ仕拂ヲ停止セル新聞續々達セシガ爲メニ銀行上ノ恐慌ヲ起シ私立銀行ノ如キハ全ク割引ヲ廢止スルニ至レリ故ニ割引ノ唯一ノ泉源ハ英國銀行ヲ外ニシテ又アラザルナリ然レニ到底一千八百四十七年ノ先例ニ依ラザル可カラザルハ世人及取締役ノ能ク知レル所ニシテ取締役ハ直接ニ條倒ノ停止ヲ政府ニ請願セザリシト雖モ尙ホ絶

ヘズ銀行ノ有様ヲ政府ニ報告シ恰モ條例ノ停止セラレザル可カラザルヲ必期セシカノ如クニ依然トシテ割引ヲ爲シ來レリ
 遂ニ一私人ハ最早ヤ割引ヲ得ル能ハザリケレバ其預金ノ引出シヲ迫促スルニ至レリ而テ一般ノ破産將サヨ來ラントスルニ瀕シ遂ニ政府ハ十一月十二日ヲ以テ一書ヲ英蘭銀行ニ達シタリ曰ク該銀行若シ一千八百四十四年ノ條例ニ制定セル紙幣發行ノ制限ヲ犯スコトナクシテ確實ナル手形ニ對スル割引及貸付ノ需要ニ十分ニ應ズル能ハズトセバ假令該銀行ガ此制限ヲ犯シテ紙幣ヲ發行スルアルモ政府ハ爲メニ消罪條例ヲ議院ニ動議スルノ覺悟ナリト然レモ條例ノ此一時ノ緩弛ニ乗シ必要ノ度ヲ越ヘテ紙幣ヲ増發スルコトヲ防カンガ爲メニ割引歩合ハ現時ノ割合即一割以下ニ引下ク可カラズト達セリ
 此通知書ノ達セラルハヤ忽チニ世上ノ激騒ヲ制止セリ然レモ

十二日ノ夕ニ至リ英蘭銀行本支店ノ銀行部準備金ノ總額ハ僅ニ五十八萬一千磅ニ減少セリ下院委員ト英蘭銀行頭取トノ左ノ問答ニ徴シテ此時ノ狀ヲ察ス可キナリ
 (問)若シ茲ニ云フ通知書彼ノ日ニ發セラレザリシトスルモ英蘭銀行ハ十三日ノ朝ニ於テ依然其割引ヲ續ク得可カリレ乎
 (答)否々決シテ然ラズ
 (問)左レバ該銀行ハ最早ヤ商業上ノ手形ヲ割引スル能ハザル旨ヲ揭示セザル可カラザルニ至ル可カリシ乎(答)然リ殆ト茲ニ至リシナラン
 (問)若シ英蘭銀行ニ於テ割引ヲ止ムル旨ヲ揭示シタラントハ爲メニ倫敦商業社會ノ恐慌ヲ一層激セシメシナラント思惟セザル乎(答)然リ實ニ然リ
 (問)商業社會ニ於テ恐慌増加セバ隨テ諸銀行者ヘノ需要増加

セシナラント思惟セザル乎(答)斯ノ如キコアラハ忽チニ破産
 ナ起セシナル可シ而テ手形中全ク價值ヲ失ヘル者アリテ隨
 テ割引ヲ請求スル手形ノ數減少セシナル可シ
 (問)姑ク手形ヲ別ニシテ之ヲ云フキハ諸銀行者ヘノ需要増加
 シ隨テ諸銀行者ハ英蘭銀行ヨリ其預金ノ一部ヲ引出サハル
 可カラザルニ至リシナラント思惟セザル乎(答)余ハ幾分カ此
 事アリシナラント確信ス
 英蘭銀行頭取ハ該銀行ノ如何ナル有様ニ陥リシ乎ヲ示サンガ
 爲メニ一書ヲ委員ニ呈セシガ其中十一月十一日及十二日ノ準
 備金ノ有様ヲ示ス所ノ左ノ表アリ
 十一月十一日即水曜日ニ於テ該銀行ノ準備金ハ左ノ項目ヨ
 リ成レリ
 倫敦本店紙幣在高 三七五、〇〇五

各地支店紙幣在高	五八二、七〇五	計	九五七、七一〇
倫敦本店金貨在高	三一〇、七八四		
各地支店金貨在高	九七、六六五	計	四〇八、四四九
倫敦本店銀貨在高	四四、〇四六		
各地支店銀貨在高	五一、九四八	計	九五、九九四
準備金通計			一、四六二、一五三
十一月十二日即水曜日ノ夜ニ於テ該銀行ノ準備金ハ左ノ項 目ニ成レリ			
倫敦本店紙幣在高	六八、〇八五		
各地支店紙幣在高	六二、五四五		

倫敦本店金貨在高	二七四、九五三	計	一三〇、六三〇
各地支店金貨在高	八三、二五五		
倫敦本店銀貨在高	四一、一〇六		
各地支店銀貨在高	五〇、八〇七		
計			九一、九一三

準備金通計

五八〇、七五一

即十二日ノ夕ニ於テ倫敦本店ノ準備金ハ僅ニ三十八萬四千一百四十四磅ニ過ギザリシナリ嗚呼英國銀行ガ十三日ノ朝ニ於テ以テ其營業ヲ開始ス可キ資金ハ實ニ此ノ如クナリシナリ該銀行頭取ガ全ク割引ヲ止メザル可カラザルニ至リシナラント云ハルハ眞ニ然ル所ニシテ若シ之ヲ止メタラシムハ忽チニ該

銀行ニ對シテ取付ク起リシナル可シ而テ諸銀行者ノ差引尻ノミニナモ五百四十五萬八千磅アリシヲ以テ該銀行ハ一時間ヲリ其門戶ヲ開キ居ルヲ能ハザリシヤ知ル可キノミ

英國銀行頭取云ヘルアリ曰一千八百五十七年ノ恐慌ハ一千八百四十七年ノ恐慌ノ如クニ大ナラザリシト雖モ而カモ商業上ノ眞ノ必迫ハ一層激烈ナリキト而テ前年ニ在テハ通知書出ツルヤ否ヤ恐慌忽チニ退キ通知書出テレガ爲メニ全ク紙幣ノ需要ヲ止メ全困難ニ當ランガ爲メニ僅ニ四十萬磅ノ紙幣ヲ増發セシ耳ニシテ條例ノ制限ヲ越ヘテ紙幣ヲ増發スルヲ要ヒザリシト雖モ一千八百五十七年ニ於テハ政府ノ通知書出テシ後モ辨金ノ需要尙ホ止マザリシヲ見レバ右頭取ノ言眞ニ然ルヲ證ス可キナリ蓋條例ノ制定セル所ニ據レバ證券類ヲ抵當トシテ發行シ得可キ紙幣ノ制限ハ一千四百四十七萬五千磅ニシテ此

制限ヲ越ヘテ發行セル紙幣ノ數額左ノ如クナリキ

十一月		十一月	
十三日	一八六、〇〇〇	廿三日	三九七、〇〇〇
十四日	六二二、〇〇〇	廿四日	三二七、〇〇〇
十六日	八六〇、〇〇〇	廿五日	八一、〇〇〇
十七日	八三六、〇〇〇	廿六日	二四三、〇〇〇
十八日	八五二、〇〇〇	廿七日	三四二、〇〇〇
十九日	八九六、〇〇〇	廿八日	一八四、〇〇〇
二十日	九二八、〇〇〇	三十日	一五、〇〇〇
廿一日	六一七、〇〇〇		

議院開會セラル、ニ及ヒ一條例ヲ制定シ若シ取締役ニ於テ割引歩合ヲ一割以下ニ引下ゲザル限リハ一千八百五十八年二月一日マデハ一時銀行條例ヲ停止スルヲ許可セリ然ルニ取締

役ハ十二月廿四日ニ及ヒ其割引歩合ヲ八分ニ引下ゲシガ故ニ茲ニ至テ條例再ヒ其制束ノ効力ヲ恢復セリ
 一千八百五十八年ニ於テ前年大破壊ノ避ク可カラザル結果生シタリ巨大ノ偽妄ノ取引一掃シ去ラレタルヲ以テ隨テ貨幣英蘭銀行ニ流入シ此年ノ末ニ至ルマテ該銀行ノ正金在高絶ヘズ次第ニ増加セリ而テ今ヤ該銀行ハ自カラ悟ル所アリテ従前ヨリモ高ヤ割引歩合ヲ採用スルニ至レリ左レバ一千八百四十七年ニ於テハ正金在高一千萬磅以下ナルニ當テ割引歩合ハ五分ナリシト雖モ一千八百五十八年ニ於テハ正金在高一千五百萬磅以上ナリシニ拘ラズ尙ホ割引歩合ハ五分ナリキ蓋斯カル主義ヲ採用スルニ至レルハ是レ實ニ正確ナル原理ノ一大進歩ナリトス
 余ノ經濟學ノ辭書ハ此大恐慌後久シカラズシテ出版セシ所ニ

シテ該書ノ英國銀行篇中ヨリ左ノ一節ノ文ヲ茲ニ引出ス
 此年(一千八百五十八年)ハ人々尙ホ一千八百五十七年ノ懲戒
 ナ忘レザリシヲ以テ大ニ靜平ナル有様ニテ經過セリ然レモ
 從前ノ實驗ニ徴シテ之ヲ考フルニ冒險ナル精心幾時ナラズ
 シテ再ヒ起ル可キハ吾輩ノ決シテ疑フ能ハザル所ナリ吾輩
 ハ投機者流ガ如何ニシテ次回恐慌ノ種子ヲ播ク可キ乎ヲ求
 メンガ爲メニ今ヤ熱心ニ疑思焦慮シツ、アルコトヲ疑フ能ハ
 ザルナリ而テ金錢上ノ取引ヲ管理ス可キ地位ニ立ツ者ハ斯
 カル計畫ノ苟モ發見セラル、毎トニ直ニ之ヲ制センガ爲メ
 ニ常ニ注意シテ怠ラザルヲ以テ其義務トス可キナリ而テ次
 回ノ恐慌ハ如何ナル者ナラント云フハ是レ今日ニ於テ最モ
 趣味アル銀行上ノ疑問ナリトス
 歲月ハ此疑問ニ對シテ答解ヲ與ヘズリ蓋爾後數年間ハ特ニ吾

輩ノ注意ヲ引ク可キ者毫モ之アラザリキ一千八百五十九年及
 同六十年間ニ於テハ概シテ割引歩合ハ左マデニ騰貴セシコト
 ラザリキ一千八百六十一年二月ニ於テ暫時八分ニ騰貴セシト
 雖モ直ニ再ヒ下落セリ此時米國ニ於テ不幸ナル内亂今ニモ破
 裂セントスルノ勢ナリシカバ隨テ世人ハ我綿花ノ供給如何ア
 ル可ギ乎ト配慮シ且此事ハ金融上ノ攪擾ヲ起ス可キハ大抵ノ
 人ノ能ク前見シ得シ所ナリ然レモ此等ノ結果ハ此時起ラズ
 後年ニ讓ラレタリ一千八百六十一年及六十二年ハ概シテ云フ
 トハ金融市場極メテ豐溢ナリキ是レ交戰國政府ガ紙幣ヲ發行
 センガ爲メニ避ク可カラザルノ結果トシテ正金ヲ我國ニ驅逐
 セシニ因ル者ニシテ之ガ爲メニ商業驚ク可ク繁榮シ利息相場
 甚低廉ナリキ
 一千八百六十三年十月マデハ事情此ノ如クニシテ進ミケルガ

此時ニ及ンテ各人金融市場ニ攪擾ノ起ル可キヲ前見スルニ至
 レリ第一ニハ米國南部諸州ヨリ綿花ノ供給絶ヘシテ以テ其直
 段速ニ騰貴シ甚シキ高點ニ達セリ故ニ全世界ニ就テ之ヲ供給
 ス可キ地ヲ求メザルヲ得ズシテ東印度、埃及、ブラズイル其他諸地
 方ヨリ巨額ノ綿花輸入セラレタリ此巨額ノ取引ハ俄然トシテ
 起リシガ故ニ吾輩ガ爲替篇ニ於テ説明セルガ如ク現金ヲ以テ
 之ガ代價ヲ仕拂ハザルヲ得ザリキ是ニ於テ乎巨額ノ銀東方ニ
 向テ流出シ此等ノ銀ハ其供給ヲ巴里及ハムボルクニ仰ゲリ蓋
 巴里及ハムボルクノ銀ノ大市場タルハ猶ホ倫敦ノ金ノ大市場
 タルガ如クナレバナリ又此時伊太利政府ハ國債ヲ募レリ
 之ト同時ニ有限責任ノ法律實施セラレ之ヲ遵奉シテ數多ノ新
 會社創立セラレタルヲ以テ爲メニ不安ノ情ヲ起セリ佛蘭西銀
 行ハ巨額ノ正金ヲ失ヒ英國銀行ハ一週期間ニ二回其割引歩合

ヲ引上ゲ五分ヨリ六分トシ更ニ又七分トセリ佛蘭西銀行亦其
 割引歩合ヲ七分ニ引上ゲ且五十法紙幣ヲ發行スル旨ヲ告ゲタ
 リ又英國銀行ハ十二月二日ヲ以テ其割引歩合ヲ七分ニ引上ケ
 三日ニ至リ更ニ八分ニ引上ゲタリ加フルニ露國政府ノ或ル計
 畫成功セザリシガ爲メニ同國取引所ニ於テ國債ノ下落ヲ起セ
 リ而テ此等諸事情ノ結果トシテ英國銀行ノ準備金ハ暫時ノ後チ
 大ニ強キヲ致セリ然レモ一千八百六十四年一月ニ至リ正金ノ
 流出再ヒ起リ五月ノ中旬若クハ下旬マデハ甚シク流出シテ止
 マザリケンバ割引歩合ハ八分ヨリ七分トナリ六分トナリシト
 雖モ今ヤ再ヒ九分ニ引上ゲラレタリ五月ニ於テ英國銀行ハ一
 週期間中二回其割引歩合ヲ九分ニ引上ゲタリ而テ時々小浮沈
 ナキニ非ザリシト雖モ要スルニ此大必迫ハ夏季ヲ通シテ引續
 ケリ割引歩合ハ六月ニ至リ一旦六分ニ下落シタリト雖モ再ヒ

次第ニ騰貴シテ九月ニハ又九分トナレリ然ルニ其後ハ漸々下落シテ遂ニ一千八百六十五年六月ニハ三分トナレリ有限責任ノ主義ニ從テ數多ノ新會社創立セラレシガ爲メニ一千八百六十四年三月ノ頃ニ在テ既ニ大ニ不安ノ情ヲ起セリ蓋此時マデニ創立セラレタル新會社ノ數ハ二百六十三ニシテ其豫定資本ノ總額ハ七千八百十三萬五千磅ナリシガ如シ而テ此中二十七ハ銀行ニシテ十四ハ割引會社ナリシナリ而テ一千八百六十四年八月ノ頃ニ至リ新立會社ノ引受ケタル長期ノ手形漸ク市場ニ溢ルニトナリ以テ一千八百六十六年ノ恐慌ノ基礎ヲ置ケリ又英蘭銀行ハ四月ヲ以テ交換所ノ仲間ニ加入シ之ガ爲メニ更ニ銀行紙幣ノ用ヲ節省セリ

九月八日英蘭銀行ハ其割引歩合ヲ九分ニ引上ゲタリシニ此處置ノ爲メニ正金ノ外出ヲ止メ外國商品ノ直段ヲ下落セシメ該

銀行ノ準備ヲ豐厚ニセリ又綿花ノ直段、米國ニ於テ平和回復ノ見込ミアリシガ爲メニ大ニ下落シ且右割引歩合ノ騰貴ハ既ニ衰色アリシ市場ヲ更ニ挫折セシガ故ニ百般ノ取引何レモ大ニ退縮セリ

一千八百六十六年五月ノ大恐慌

一千八百六十五年六月廿日ニ於テ割引歩合ハ其最低點即三分ニ下落セリ而テ八月五日ニ四分ニ引上ゲラレ其後ハ時々小浮沈ナキニ非ザリシト雖モ要スルニ絶ヘズ次第ニ騰貴シ遂ニ一千八百六十六年五月ノ恐慌ニ至テ其最高點ニ達セリ

十一月ニ至リ正金ノ流出大ニ起リ爲替相場下落セリ而テ此有様ハ一千八百六十六年一月ニ至テ愈甚シキヲ加ヘシカバ英蘭銀行ハ同月六日ニ於テ其割引歩合ヲ八分ニ引上ゲタリ左レバ此事ハ正金ノ流出ヲ止ムルニ於テ幾分ノ効アリシト雖モ未ダ

外國より正金ノ供給ヲ引クニ足ラザリシナリ此頃「ナシヨナル、
 アロヴィンシアル、バンク」銀行ハ倫敦ニ於テ銀行事務ヲ營ムニ至
 リシカバ法律ニ從ヒ其紙幣發行ヲ止メザルヲ得ズシテ其發行
 定額ハ四十四萬二千三百七十一磅ナリシナリ又曩ニ英蘭銀行
 ガ其紙幣發行ヲ増加スルコトヲ許可セラレシ以來種々ノ他ノ銀
 行ニ於テモ紙幣發行ヲ止メシガ故ニ今ヤ英蘭銀行ハ証券類ヲ
 抵當トシテ發行ス可キ紙幣ヲ一千五百萬磅ニ増加スルコトヲ許
 可セラレタリ而テ我國ニ於テ利息相場高カリシガ爲メニ巨額
 ノ外國貨幣我長期ノ手形ニ放下セラル、ニ至レリ
 五月ノ恐慌ヲ起セシ所ノ困難ハ一月ノ末ニ當テ其端ヲ開ケリ
 然レモ期望セラレシガ如ク議院ニ於テ此恐慌ノ事情ヲ調査セ
 シメザリシガ故ニ此恐慌ノ事情ハ決シテ十分ニ説明セラレザ
 リキ唯概シテ之ヲ云ヘハ夫ノ新立ノ金融會社割引會社等ニ於

テ鐵道其他ノ大企業ヲ支ヘンガ爲メニ巨額ノ貨幣ヲ貸出セシ
 ニ此等ノ大企業ハ其竣工スルニハ數年ヲ要シ而テ其竣工スル
 迄ハ毫モ費用ヲ償フ能ハザルガ故ニ遂ニ此恐慌ヲ起セシコナリ
 抑此時第一ニ破産セシハ「ジョイント、ストック、ドイスカウント」會社ニ
 シテ是レ實ニ二月ニアリキ而テ此一事ハ大ニ恐慌ノ情ヲ傳播
 セシメタリ何トナレバ此會社ノ舉動ノ如キハ數多會社ノ從事
 セル巨額ノ取引ノ一例タルニ過キザレバナリ又三月ニ至リ
 ヲ「ブール」ノ「バルネツド」銀行ハ三百五十萬磅以上ノ負債ヲ以
 テ其仕拂ヲ停止シ又大ナル鐵道企業者ノ其仕拂ヲ停止セシ者
 多ク之アリテ隨テ之ト金融上ノ取引ヲ爲スト知ラレタル諸會
 社ノ信憑ヲ破壊セリ
 五月三日ニ至リ英蘭銀行ハ其割引歩合ヲ七分ニ引上ゲタリ是
 ニ於テ乎各人ハ其久シク畏怖セシ所ノ恐慌今ヤ遂ニ來レルヲ

知レリ左レバ斯カル恐慌ノ風聞世上ニ充滿シ大災害ノ破裂スルハ數週期若クハ數日ノ間ニ在ルコトハ今ヤ各人ノ知ル所トナレリ五月八日英蘭銀行ハ其割引歩合ヲ更ニ八分ニ引上ゲタリ而シテ銀行條例ノ辨護者ハ其通常ノ語氣ヲ以テ決シテ條例ノ停止ス可カラザル旨ヲ宣言シ條例停止ノ如キハ決シテ思フ可カラザル旨ヲ主張セリ此際信憑ハ踰跟トシテ將サニ斃レントスルノ有様ナリシガナポレチン三世ガオーセルノ會合ニ於テ一千八百十五年ノ條約ヲ嫌惡スル旨ヲ演說セリトノ風聞違スルニ及ヒテ更ニ一大撃ヲ受ケタリ蓋當時歐洲大陸ニ於テハ政治上ノ激騒ノ爲メニ人心燃ユルガ如クナリシヲ以テナポレチン帝ノ此言ハ帝ガ開戰ニ決心セルヲ示ス者ト解釋セラルタレバナナリ

英蘭銀行ハ其銀行部ニ於テ十分ノ準備紙幣ヲ有シ又其發行部

ニ於テ巨額ノ正金ヲ有セシガ故ニ此畏怖ノ情ハ或ハ經過シ去ルヲ得シナル可シ然ルニ五月九日ニ至リ大恐慌ヲ生ス可キ新事件起リ又此日該銀行ハ割引歩合ヲ九分ニ引上ゲタリ其事如何ト云フニ「ミド、ウエールス」鐵道會社ハ六萬磅ノ爲替手形ヲ引受ケシ此等ノ手形ハ「ベートマン」會社、「サツァーレンド、ガルチー」會社、「ナシヨナル、ドスカウント」會社ノ三會社ニ於テ之ヲ有セリ然ルニ此「ミド、ウエールス」鐵道會社ハ右手形ノ仕拂ヲ拒却セシヲ以テ以上ノ三會社ハ該會社ヲ相手取リテ訴訟ヲ起セリ而テ不幸ニシテ此訴訟ノ判決ハ五月九日人心ノ最モ洶々タリシ際ニ宣告セラレタリ蓋「コムモン、ブリース」裁判所ハ諸判事異議ナク判決ヲ下シテテ曰元來此鐵道會社ハ斯カル手形ヲ引受ケス可キ權ヲ有スル者ニ非ズ故ニ此等ノ手形ハ全ク無効ニシテ廢紙タルニ過ギズ「ト抑」チツァーレンド、ガルチー」會社ガ近來鐵道企業者及其

他ノ人ト深ク取引セルコトハ世ニ知ラレシ所ニシテ且該會社ハ
 他ノ商社ノ巨額ノ偽造手形ヲ有セリ左レハ該會社ノ株券ハ競
 テ市場ニ賣出サレ其相場益下落セリ而テ其株券斯ク下落セル
 ガ爲メニ該會社ノ預金ハ次第ニ引出サル、ニ至レリ然ルニ今
 ヤ「ミド、ウエールス」鐵道會社ニ關スル訴訟判決セラレタルガ爲メ
 ニ人々爭テ「チヴァー」レンド、ガルチ「會社」ニ向テ仕拂ヲ督促スル
 コトナリ遂ニ木曜日即五月十日ノ午後ニ至リ此大會社ガ一千
 萬磅以上ノ負債ヲ以テ其仕拂ヲ停止セリトノ畏ル可キ凶報倫
 敦中ニ傳播スルニ至レリ是レ實ニ倫敦府ニ於テ曾テ起リタル
 最モ驚ク可キ破産ナリトス此新聞ハ銀行ノ營業時間後ニ傳播
 セント雖モ之ガ爲メニ翌朝如何ナル結果ヲ生ス可キ乎ハ何人
 ト雖モ能ク前見シ得ル所ナリ出納局長ハ翌日ノ夕下院ニ於テ
 言テ曰我倫敦政府ノ故老ノ説ニ據レバ斯ノ如キ激騒ハ曾テ其例

ナキ所ナリト云ヘリ云々」ト而テ此夕出納局長ハ政府ガ條例ノ
 制限ヲ越ヘテ紙幣ヲ發行スルコトヲ英蘭銀行ニ許可シタルヤ否
 ヤヲ質問セラレシニ出納局長ハ尙ホ之ヲ許可セザリシ旨ヲ答
 ヘタリ然レド此事ニ關シテ私立銀行者ヨリ請願ヲ受ケ又合資
 銀行ヨリモ之ヲ受ク可シト期スル旨ヲ請レリ而テ果シテ豫期
 ノ如ク直ニ合資銀行ヨリモ請願ヲ出シタルバ内閣員ハ暫時委
 員室ニ退キテ商議セシ後テ遂ニ議院ニ報シテ曰政府ハ一千八
 百四十七年及同五十七年ノ先例ニ從ヒ若シ英蘭銀行ガ條例ノ
 制限ヲ越ヘテ紙幣ヲ發行スルヲ便宜ナリト思惟シテ之ヲ發行
 スルアレバ政府ハ爲メニ消罪條例ヲ動議ス可キ旨ヲ該銀行ニ
 通知シタリ」ト而テ宰相ノ之ヲ議院ニ報ズルヤ歡聲四方ヨリ起
 リテ滿場ヲ震動セシメヨリ又出納局長ハ此日英蘭銀行ガ四百
 萬磅ヲ貸出セシ旨ヲ述ベタリ

銀行條例停止ノ報出ツルヤ翌朝忽チ最良ノ結果ヲ生シタリ
 英蘭銀行ハ其割引歩合チ一割ニ引上ゲ萬事凡テ靜平ニ歸セリ
 而テ其後尙ホ破産起ラザリシニ非ズト雖モ世人英蘭銀行ガ確
 實ナル手形ニ對シテ貸付ヲ爲スノ力アルヲ知リシガ故ニ恐慌
 大ニ減退セリ五月十八日出納局長ハ英蘭銀行ガ五日間ニ一
 千二百二十二萬五千磅ヲ貸出セシ旨ヲ述ベタリ而テ此恐慌ノ際
 ニ諸店ヨリ拂出セシ金額ノ如キハ決シテ知ルヲ能ハザル可シ
 ト雖モ必スヤ信シ難キ程ニ大ナリシナラシ吾輩ハ如何ナル證
 據ニ基ク乎チ知ラズト雖モ一説ニ從ヘハ或ル大銀行ノミニテ
 モ六時間ニ二百萬磅ヲ拂出シタリト云ヘリ又仕拂ヲ停止セル
 諸會社ト其最近ノ資産負債一覽表ニ據リ其負債ノ額ト示ス
 左ノ如シ尤モ其負債ハ恐慌ノ間ニ大ニ減少セシヤ必然ナリ

拂込資本

準備金

負債

「チヴァーレンソド、ガルチー」會社	1,500,000	1,000,000	1,000,000
「イングリッシュ、ジョイント、スト ツク」銀行	1,500,000	600,000	不詳
東洋商業銀行	3,750,000	490,000	同
「ニュー、ズイーランド」銀行	800,000	160,000	1,360,000
「ハルレット、ナムマンチー」會社	238,000
「イムベリアル、メルカソタイル、 クレディット」會社	500,000	...	不詳
印度商業銀行	1,000,000	338,800	同
「ユーロピアン、バンク」銀行	大四百萬九〇	三三三,500	三二二,八三八
「ロビソン、セリトン」會社	不詳
「アリアンス、フィナンシャル」會社	200,000	...	同
「バンク、チフ、ロンドン」銀行	400,000	三三三,三三四	四三三,五八七
「コンソリデーテッド、バンク」銀行	600,000	七二,八〇八	三八一七,九九九
「アグラ、エンド、マスターマン」 會社	1,500,000	500,000	一五,五八二,〇〇二

以上破産セル諸會社ノ外ニ東洋トノ取引ニ關係セル種々ノ銀行ハ巨大ノ損失ヲ蒙レリ例セハ「印度支那日本銀行」ト稱スル一銀行ハ其勘定報告書ニ利益ハ二萬三千四百八十五磅ニシテ損失ハ八萬七千七百九十六磅ナルヲ記シ更ニ七萬磅ノ損失ノ見込ミアルヲ記セリ又亞細亞銀行ハ其利益ハ六萬一千四百九十四磅ニシテ其損失ハ十四萬二千磅ナルヲ記シ又「キーン」スランド銀行ハ其利益ハ一萬零三百七十三磅ニシテ其損失ハ二萬二千零七十一磅ナルヲ記セリ其他諸銀行ガ如何ナル損失ヲ蒙リシ乎ハ吾輩之ヲ知ルノ手段ヲ有セズト雖モ其損失甚大ナリシナラント思ハル、ナリ

利息貴キ時ハ外國ヨリ正金ヲ吸引スト云フノ原理ハ此恐慌ノ時實際ニ其驗ナキガ如クナリシハ吾輩第七章ニ於テ既ニ之ヲ示セリ而テ之ガ爲メニ數多ノ人ハ全ク此原理ヲ拒ムニ至レ

リ抑該章ニ記セシ所ノ文ハ恰モ此恐慌ノ時ニ際シテ之ヲ記セシ者ニシテ論者ノ云フガ如ク此原理實際ニ行ハレザリシニ非ズシテ唯他ノ原因ノ爲メニ一時其効力ヲ妨ケラレシ者タルハ該文ヲ一讀シテ之ヲ知ル可キナリ而テ吾輩ハ有名ナル銀行者フウレル氏ノ説ノ爲メニ吾輩ノ此意見確證セラレシヲ記スルヲ喜ブナリ氏ノ説ニ曰

高キ利息ヲ課スルハ爲メニ金ヲ英蘭銀行ニ吸引シ貨幣ノ平準ヲ回復スルノ効アリト云フ説ハ往時ニ於テハ兎モ角モ要スルニ此時ニ於テハ決シテ實際ニ其驗ナカリシナリトハ今日論者ノ主張スル所ナリ蓋此疑問ハ吾人事實上ヨリ之ヲ考察セザル可カラズ而テ余ガ記セシガ如ク此時ニ於テモ從前ニ於ケルガ如ク正金各地方ヨリ流入セシナリ唯異ナル所ハ此時ニ於テハ爲替相場ノ上ニ期望セラレタル結果ヲ生セ

ソガ爲メニ従前ニ於ケルヨリモ一層長キ時間ヲ要セシト是
 ナリ左レバ事實ハ通常ノ結果生ゼザリシト云フニ非ズシテ
 唯其結果ノ來ルヲ通常ヨリモ遅カリシト云フニ過キザルノ
 ミ且吾人が最モ之ヲ需要セルニ當テ米國ヨリ巨額ノ正金ヲ
 得シトシ忘ル可カラザルナリ而テ此正金來リシハ專ラ倫敦
 恐慌ノ新聞紐育ニ達セシニ原因ストセザルモ又一部ハ之ニ
 原因セシトニシテ是レ實ニ緊要ノ點ナリトス然レモ要スル
 ニ「ナヴァー」レンド、ガルチ「會社」及ビ其他大商家ノ破産セルガ
 爲メニ英蘭證券類ノ信憑毀害セラレ隨テ尋常一割ノ利息ナ
 レバ大陸ヨリ吸引スルヲ得可カリシ正金モ其流入ヲ全ク沮
 妨セラレ若クハ其來ルヲ大ニ遅延セシヤ疑ナキナリ故ニ之
 ガ自然ノ結果トシテ恐慌ヲ脱シ貨幣ノ供給ヲ豊ニスルヲ
 如キモ豫期セラレシヨリモ遅延セシナリト

左レハ吾輩ハ真正ノ原理ハ實驗ニ因テ證明セラル、トナ知ル
 ナリ此原理ハ一千八百五十六年此書ノ第一版ニ於テ吾輩ノ初
 メテ論示セシ所ニシテ一千八百六十六年以來ノ銀行ノ歴史ハ
 十分ニ此原理ノ當レルヲ證セリ而テ此原理ヤ爾來明敏ナル
 人ノ凡テ容ル、所トナレリ夫ノ佛國ニ於テハ佛蘭西銀行ナシ
 テ此原理ヲ採用スルヲ得セシメシガ爲メニ故テ利息制限法
 テ修正シ該銀行ハ小心翼々トシテ此原理ヲ遵奉セシガ爲メニ
 其紙幣ハ不換ナルニ拘ラズ正貨ト殆ト同一ノ價值ヲ有シテ流
 通セリ實ニ今日世界ノ各銀行ハ悉ク此原理ニ從テ其營業ヲ管
 理スル者ト云フ可シ
 吾輩ハ此點ニ至ルマテ銀行ノ歴史ヲ記述シ來リタルヲ以テ更
 ニ爾後ノ事件ヲ詳述スルヲ必要ナリト思惟セザルナリ抑吾輩
 ガ上記述シ來リタル歴史ノ大目的ハ原理ヲ確證スルニ在リ

吾輩ハ銀行及紙幣ニ關シテ行ハレタル諸種ノ主義ノ精密ナル
 歴史ヲ與ヘ遂ニ信憑及紙幣ヲ管理スル真正ノ方法ハ割引歩合
 ノ高低ニ在ルヲハ學術上ノ理論及實際上ノ經驗ノ共ニ確證ス
 ル所タルヲ示セリ吾輩ハ此大真理ノ漸次ニ銀行社會及商業社
 會ニ確立セラレ、ニ至リタル次第ヲ十分ニ詳述セリ今日此原
 理ノ明敏ナル人ノ間ニ確立セラレタルハ恰モニュートンノ重力
 説ノ學者間ニ確立セラレタルガ如クニシテ更ニ銀行ノ歴史ヲ
 續記スルモ新原理ヲ表出スルノ利ナクシテ唯幾回トナク右ノ
 一原理ヲ證明スルニ過ぎズ故ニ之ヲ續記スルハ其目的ナクシ
 テ徒ラニ紙幅ヲ費ヤス者ナリ

第十二章 蘇格蘭銀行ノ起元及進歩ノ歴史

銀行ノ業ヲ營ム可キ特別ノ目的ヲ以テ一私人ヨリ組織セラレ
 全ク己レノ資本ニシテ依頼シテ毫モ政府ニ關係ナキ如キ合資

銀行ハ全世界中蘇格蘭銀行ヲ以テ其第一例ト爲ス此銀行ハ常
 時ニ存在セル如何ナル他ノ銀行トモ其種類ヲ異ニセリ蓋英蘭
 銀行ノ創立成功セシガ爲メニ蘇格蘭ニ於テモ一銀行ヲ創立ス
 ルヲ計畫セラル、ニ至レリ倫敦ノ一商人ジョン、ホルランド氏ハ
 此計畫ノ發起者ニシテ氏ハ十一名ノ蘇格蘭商人ヲシテ此計畫
 ニ加入セシムルヲ得タリ是ニ於テ平氏及此等ノ商人ハ會社創
 立ノ許可ヲ蘇格蘭ノ議院ニ請ヒケルニ遂ニ議院ハ一千六百九
 十五年七月十七日ヲ以テ一條例ヲ制定シ會社創立ノ免許狀ヲ
 之ニ與フルノ權ヲ國王ニ委テタリ此條例ノ要點即左ノ如シ
 第一、合併資本ハ蘇貨一百廿萬磅(即英貨十萬磅)タル可シ而テ
 應募者一人ニ付蘇貨一千磅(即英貨八十三磅六志八片)ヨリ少
 ナカラズ蘇貨二萬磅(即英貨六千六百六十六磅十三志四片)ヨ
 リ多カラザル資本ヲ募集シ且各應募者ヨリ其應募高ノ一割

ニ當ル預金ヲ受取ルコトヲ或ル人々ニ許可ス
 第二、右ノ人々ハ動産若クハ不動産ヲ抵當トシ六分ニ越ヘザ
 ル利息ヲ以テ貸付ケテ爲スヲ得借者万一反濟ヲ誤ルキハ其
 抵當物ヲ公賣スルヲ得
 第三、右ノ人々ハ自由ニ其株券ヲ賣買讓與シ又ハ遺言ヲ以テ
 之ヲ讓與スルヲ得
 第四、總會ノ承諾ヲ經ルニ非ズンバ決シテ割賦ヲ行フ可カラ
 ス
 第五、合併資本ハ此銀行創立後二十一年間ハ貨幣ニ關スル一
 切ノ租稅ヲ免除セラル、者トス
 第六、此銀行創立後二十一年間ハ他ノ會社ニ於テ銀行事務ヲ
 行フテ不法トス
 第七、此銀行ノ受取ル可キ負債ヲ速ニ且有効ニ取立ツルヲ得

セシメシガ爲メニ種々ノ特權ヲ與ヘタリ
 第八、合併資本中ヨリ幾分ノ金額ヲモ扣除スルヲ禁ス
 第九、此銀行ハ利息ヲ取リテ貨幣ヲ貸借シ及爲替手形ヲ賣買
 スルコトノ外ハ直接間接ヲ問ハス他ノ何等ノ商賣取引ニ於テ
 モ其資本若クハ利益金ヲ使用ス可カラズ
 第十、此銀行ハ土地若クハ遺物ヲ買入レ又ハ議院ヨリ供給ス
 可キ金額ヲ當テ込ミテ政府ニ貨幣ヲ貸付クルコト能ハス若シ
 犯スルハ其金額ニ三倍スル罰金ヲ課シ其五分ノ一ハ之ヲ皆
 發者ニ與フル者トス但シ議院ヨリ供給ス可キ金額ヲ抵當ト
 シテ國債ヲ募集スルコトヲ議院ニ於テ特ニ認可セル場合ハ此
 限リニ非ズ
 第十一、合併資本ヲ融出セル外國人ハ一切ノ點ニ關シテ歸化
 セル者ト見做ストセリ又資本ノ三分ノ二ハ常ニ蘇格蘭ニ

居住スル人ノ所有ニ屬セザル可ラザルトセリ而テ蘇格蘭
 ニ於テ募集セル金額ハ蘇貨八十萬磅(即英貨六萬六千六百六
 十六磅)ニシテ一千六百九十五年十一月ニ其募集ニ着手シ十二
 月ノ末ニ完了セリ又英蘭ニ於テ募集セル金額ハ蘇貨四十萬
 磅(即英貨三萬三千三百三十三磅)ニシテ一日間ニ倫敦ニ於テ其
 應募者滿員シ且其應募者ハ大半蘇格蘭人ナリキ當時蘇格蘭
 人ハ銀行事務ニ關シテハ何事ヲモ知ラザル者ト想像セラレ
 シガ故ニ數年間ハ此銀行ノ頭取及十二人ノ取締役ハ英蘭人
 タラザル可カラズ又副頭取及十二人ノ取締役ハ蘇格蘭人ヲ
 ラザル可カラズト制定セラレタリ然レモ其實蘇格蘭人ハ最
 モ巧ミナ銀行家タルヲ直ニ發見セラレシガ故ニ此制ハ變
 更セラレテ取締役ハ凡テ蘇格蘭人ヲ以テスルトナリ又倫
 敦ニ於ケル取引及事務ヲ管理セシメンガ爲メニ十三名ノ委

員ヲ選ムトナレリ

此銀行ノ一千六百九十六年ヲ以テ創立セラレ、ヤ否ヤ亞非利
 加商會ハ此銀行ノ特權ヲ侵シテ銀行ノ事務ヲ營マント試ミタ
 リ此亞非利加商會ト云フハ則有名ナル「ダリエン」會社ニシテ英
 蘭銀行創立者ノ一人ナルウィルレム、パテルソン氏ノ創立セシ所
 ナリ蘇格蘭銀行ノ頭取ハホルランド氏ナリト雖モ該銀行ハ
 世人ノ爲メニ敢テ屬目セラル、トナク國民擧ケテ亞非利加商
 會ニ醉狂セシガ故ニ該銀行ハ之ニ對シテ其特權ヲ主張シ肯ン
 ゼザリシ程ナリシト雖モ而カモ此亞非利加商會ハ遠ニ悲ム可
 キ終極ニ歸セリ然レモ兎ニ角ニ當初ハ斯カル次第ナリケレバ
 蘇格蘭銀行ハ其資本ノ十分ノ二ヲ徵收シテ其地位ヲ鞏固ニス
 ルヲ以テ自カラ足レリトセザル可カラザルノ有様ナリキ
 然レモ亞非利加商會ハ銀行事務ニ從事シ爲メニ其手ヲ燒ケリ

蓋該商會ハ蘇格蘭銀行ト競争スルニ鋭意ナリシカバ前後ヲ
 顧ミスノ其株主及其他ノ人々ニ濫ニ紙幣ヲ貸付ケ之ガ爲メニ
 大損失ヲ蒙リテ遂ニ墮跌ヲ招クニ至レリ此頃ニ至リテ蘇格蘭
 銀行ハ爲替ノ取引ヲ始メタリト雖モ箇々ノ商人ト競争スル能
 ハザルヲ發見シテ之ヲ擲棄シタリ又該銀行ハ一千六百九十
 六年ニ於テグラスゴー、アベルアイン、ダンデー、モントローズニ
 支店ヲ開キシト雖モ利益ノ報ヒザルヲ發見シテ之ヲ閉ヂタリ
 而テ一千六百九十八年五月ニ至リ亞非利加商會ノ競争ハ遂ニ
 全ク止ニシタリ以テ該銀行取締役ハ其獲ニ徵收シタル十分ノ二
 ノ資本ヲ返付ヒリ蓋此資本ハ其營業上ニ要スル所ニ越ヘタル
 パナリ
 該銀行ハ當初世人ヨリハ預金ヲ受取ラズシテ專ラ拂込資本ヲ
 基礎トシテ己レノ紙幣ヲ發行スルヲ主トヒリ此等ノ紙幣ハ百

磅、五十磅、二十磅、十磅、五磅ノ諸種アリキ而テ該銀行ガ何時ヨリ
 一磅紙幣ヲ發行スルニ至リシ乎ハ諸説ノ一ナラザル所ナリ蓋
 一千七百二十八年ヲ以テ該銀行ノ爲メニ出版セラレタル一小
 冊子ニハ該銀行ガ一千七百年一月ヨリ一磅紙幣ヲ發行スルニ
 至リシヲ記スルト雖モ該銀行取締役ノ一人タリシキンニ
 ル氏ハ下院委員ニ對シテ左ノ如キ説ヲ述ベタリ曰該銀行ニ對
 シテ一磅ノ證券ヲ流通セシム可キノ議ヲ立テシ者多カリシト
 雖モ該銀行ハ一千七百四年ニ至ルマアハ常ニ斯カル新奇ナル
 經驗ヲ採用スルヲ猶豫シタリト斯ノ如ク諸説一ナラズト雖モ
 何レカ果シテ是ナルヤハ吾輩之ヲ判スルノ手段ヲ有セザルナ
 リ而テ此銀行ハバリーリヤメント、クロース小議院ニ在リシニテ一
 千七百一年ノ大火ノ時此邊ハ其災ニ罹リシト雖モ該銀行ノ現
 金及貨物等ハレンツェン侯悉ク無難ニ之ヲ城堡ニ運ベリ候ハ該銀

行ノ頭取ニシテ又城堡ノ頭取タリシナリ
 今一説ニ據レバ該銀行ガ一磅紙幣ヲ發行セシ後チ直ニ即一千
 七百四年十二月ニ至テ樞密院ガ正貨ノ價值ヲ増加セントスト
 ノ風聞全王國ニ傳播シタルガ故ニ該銀行ニ對シテ正貨ノ取付
 ケ起リ爲メニ遂ニ仕拂ヲ停止セザル可カラザルニ至レリト云
 フ是ニ於テ乎株主ノ總會ヲ開キケルニ此總會ニ於テ之ヲ仕拂
 ラマデ凡テ其紙幣ニ利息ヲ附ス可キヲ議決セリ又取締役ハ
 該銀行ノ帳簿ヲ檢査ス可キ委員ヲ任ゼンヲ極密院ニ請願セ
 リ而テ此委員ハ該銀行ノ有様最モ確實繁榮ニシテ當時其紙幣
 ハ下落セスシテ流通セルヲ報告セリ又取締役ハ資本十分ノ
 一ヲ徵收シ未ク五ヶ月ナラズシテ利息ヲ附シテ其紙幣ヲ仕拂
 ヘリ

英蘇 英蘭及合同ノ條例ニ因リ蘇格蘭ノ貨幣ヲ英蘭ノ貨幣ト畫

一ナラシメ且之ガ爲メニ私人ノ受クル損失ハ此等ノ目的ノ
 爲メニ募集セラレタル「エクイヴァレント、ファンド」ト稱スル國債ヲ
 以テ之ヲ償フ可キ旨ヲ約セリ而テ蘇格蘭銀行ハ五厘ノ手数料
 ヲ取り己レノ紙幣若クハ新貨幣ヲ以テ舊貨幣ヲ交換シ以テ此
 事務ヲ助ケタリ此事務ハ毫モ擾擾ヲ起スヲナク甚満足ス可ク
 成功セリ

一千七百十五年九月ニ叛亂起リ之ガ爲メニ忽チニ該銀行ニ向
 テ貨幣ノ取付ケヲ來タセリ且取締役其人ノ如キモ貨幣ヲ叛亂
 人ノ手ニ入ラシメザラント欲シ速ニ之ヲ取付ケンヲ主張
 セリ然ルモ該銀行ハ王家ニ屬スル貨幣三萬磅ハ之ヲ城堡ニ預
 ケ置キ而テ其仕拂ヲ停止セリ又該銀行ハ幾ニ一千七百四年ニ
 於テシタルガ如クニ凡テ其紙幣ニ利息ヲ附ス可キ旨ヲ揭示セ
 リ然レモ一千七百十六年五六七ノ三ヶ月間ニ於テ凡テ其紙幣

ヲ引揚ケ以テ之ヲ仕拂ヒタリ而テ免許狀ヲ以テ該銀行ニ與ヘタル銀行營業ノ專權ハ此年ニ至リ其期限盡キシト雖モ更ニ之ヲ繼續ヒシムルヲ爲サバリキ

此時ニ至ルマテ該銀行ノ利益ハ甚大ナリシガ如シ其反對者ノ手ニ出デシ一小冊子ニ據レバ該銀行ノ割賦金ハ三割五分ヨリ四割乃至五割ナリト云ヘリ其利益斯ク大ナリシカハ吾人ノ能ク豫期シ得可キガ如ク爲メニ反對者ノ心ヲ引クニ至レリ而テ該銀行ヲ非難スル者嚮々其非ヲ鳴ラシテ曰該銀行ハ貸附ヲ爲スニ於テ吝嗇ニ過ギテ該銀行ハ過高ノ利息ヲ貪ホレリ該銀行ハ小ニ過ギテ世用ニ應ズルニ足ラズト

一千七百十九年十二月ニ至リ該銀行ト夫ノ「エクイザレント、フアン」國債ノ所持人ト合併シ更ニ二十五萬磅ヲ加ヘテ該銀行ノ資本ヲ三十五萬磅ニ増シ且年々一萬磅ノ下附金(即此二十五萬

磅ノ四分ニ當ル)ヲ七分ノ二ト七分ノ五トノ割合ヲ以テ分ツ可シトノ議ヲ立テシ者アリキ然レトモ該銀行ノ資本中既ニ拂込マレシハ唯十分ノ一ナリシヲ以テ若シ右ノ議ノ一致セラル、ニ於テハ「エクイザレント、フアン」國債ノ所持人ハ其加入資本ノ十分ノ九即二十二萬五千磅ヲ紙幣ヲ以テ該銀行ヨリ引出ダスノ都合ナリキ故ニ銀行ノ營業上ニ使用ス可キ加入資本ハ差引キ三萬五千磅トナルヲナリ

此議ニ對シテ該銀行ノ答ヘシ所左ノ如シ第一該銀行ノ資本ハ條例ヲ以テ十萬磅ニ制限セラレシガ故ニ該銀行ハ「エクイザレント、フアン」國債ノ所持人ト合併ス可キ權利ヲ有セザルヲ第二該銀行ノ株券ハ少ナクモ一割ノ利益ヲ生ズルガ故ニ四分利國債ノ所持人ト平等ヲ以テ合併スルハ其欲セザルヲ第三該銀行ノ資本ハ十分ニ大ナルヲ以テ能ク世用ニ應ズルニ足レリ而テ

該銀行若シ之ヲ増加セント欲セハ更ニ株主ヨリ徴收シテ以テ之ヲ増加シ得可キヲ而テ該銀行ハ此三ヶ條ノ理由ノ外ニ此議ノ愚ナルヲ證ス可キ他ノ計算ヲモ示セリ

右國債所持人ノ申込ミ拒絶セラル、ヤ否ヤ更ニ他ノ一組ノ人ハ該銀行ニ加入センガ爲メニ再ヒ粗ナル媚策ヲ献スルニ至レリ即「エジソンパロイ、ソサイト」會社ハ火災保險ノ業ヲ營ムト唱ヘテ創立セラレシ所ナルガ今マ蘇格蘭銀行ト合併センヲ求メテ之ヲ試ミタリト雖モ又拒絶セラレシカバ該銀行ニ對シテ取付ケテ起シ以テ其仇ヲ復センヲ勉メタリ左レバ該會社ハ該銀行ノ紙幣八千四百磅ヲ集メ且取付ケノ風聞ヲ世ニ傳播セシメタリ然レニ此策ハ其功ヲ奏セズシテ其後直ニ夫ノ偽計條例制定セラレ而テ該會社ハ此條例ニ觸ル、不法ノ會社タルヲ發見セラレシカバ遽ニ解散セザルヲ得ザルニ至レリ又次キニ

「ロンドン、アッシュレーンズ、コムパニー」ト稱スル一會社該銀行ニ合併センヲ申込ミタリト雖モ又同シク拒絶セラレタリ

抑英蘇合同ノ時ニ當リ文官武官等ノ數多ノ人々ハ政府ノ債主タリシナリ而テ合同ノ條例ニ約セラレタル夫ノ「エクイヴァレント、フアン」國債ハ以テ悉ク此等ノ債主ニ仕拂フニ足ラザリキ左レバ一千七百十四年ニ至リ此等ノ債主ハ之ニ對スル政府ノ負債ヲ公認確立スル所ノ議院ノ一條例ヲ得タリ然レニ一千七百十九年ニ至ルマデハ議院ハ此等ノ負債ヲ仕拂フ可キ何等ノ制定ヲモ爲サザリシガ此年ニ至リ年々一萬磅ノ金額ヲ特ニ此目的ニ供シ以テ此等ノ負債ヲ仕拂フ可キ旨ヲ制定セキ又此年ノ條例ハ特許狀ヲ發シ此國債ノ所持人ヲシテ共同躰ヲ組織セシムル權ヲ國王ニ與ヘタリ此共同躰ハ右國債ノ元金及ハ國王ガ右ノ特許狀ヲ以テ與フルヲ約ス可キ年々ノ下附金ヲ關シテ

正當ニ之ニ屬スル一切ノ事ヲ爲スノ權ヲ有ス可キトトセリ而
 テ社會ノ各階級ヲ渾包スル所ノ右國債ノ所持人ハ此條例ニ從
 ヒ一千七百二十四年ヲ以テ共同躰ヲ組織セリ又國王ハ右ノ特
 許狀ニ於テ其正當ニ與ヘ得可キ他ノ權力特權ヲ時々此共同躰
 ニ與フ可キ旨ヲ約セリ
 此共同躰ハ則吾輩ガ前ニ述ベシ如ク蘇格蘭銀行ト合併セソ
 ヲ求メタル國債所持人ヨリ組織セラレシ者ナリ而テ該銀行ノ
 爲メニ合併ノ議ヲ拒絕セラル、ニ及ビ此共同躰ハ國王ガ其正
 當ニ與ヘ得可キ如何ナル權力ヲモ與フ可シトノ約束ヲ履行シ
 蘇格蘭ニ於テ銀行事務ヲ營ム可キ權ヲ之ニ與ヘソテ請願ス
 可キニ決心セリ是ニ於テ平國王ニ請願シテ曰此會社ノ社員中
 一千七百二十七年「ミケールマス」祭九月二日以前ニ其資本ヲ銀行
 ノ業ニ歸スル者ノミニ限リ蘇格蘭ニ於テ銀行ノ業ヲ營ム可キ

權ヲ之ニ與フ可シト而テ此請願ヲ出ダスヨハ一千七百二十六
 年ニ於テ蘇格蘭銀行ノ聞ク所トナリシヲ以テ該銀行ハ勿論百
 方ニ力ヲ盡シテ之ニ抵抗セリ左レバ該銀行ハ「ハノーヴル」家ニ
 敵スル者ナリ其貸付金ニ對シテ過高ノ利息ヲ貪ル者ナリ抵當
 ヲ選擇スルニ於テ狹キニ失スル者ナリ己レノ株券ニ對シテ貸
 付ヲ爲ササル者ナリ等ノ非難世ニ煽起セラレシガ該銀行及其
 一友人ハ此等ノ攻撃ニ對シテ精密ナル答辨ヲ爲シ一國ニ二銀
 行ヲ並立スルガ如キハ曾テ聞カザル所ニシテ若シ蘇格蘭ニ二
 銀行ヲ置カザル可カラズトセバ英國ニハ十銀行ヲ置カザルヲ
 得ザル可シト論ゼリ而テ此時該銀行ハ其資本ノ十分ノ三即三
 萬磅ヲ徵收シ此資本ハ蘇格蘭ニ要セラル、一切ノ信憑ヲ流通
 セシムルニ足レリト主張セリ該銀行ハ此問題ニ關シテ或ル正
 確ナル意見ヲ有セリ曰何トナレバ一ノ銀行ニ於ケル紙幣ノ多

寡ハ一國ニ存スル正金ノ多寡ニ準ゼザル可カラズシテ其正金ノ多寡ハ久シキ實驗ニ因テ知了會得セラル、所ナレバナリ一國ノ正金減少スルアレバ假令紙幣ノ額ヲ釀出セラレタル資本ノ額マデニ擴張スルモ爲メニ銀行ノ信憑ヲ維持スルノ効ハ毫モ之アルナク紙幣ノ多寡ハ決シテ資本ノ多寡ニ準ス可キ者ニ非ザレバナリ云々」ト

蘇格蘭銀行ガ此時徵收セル資本ハ一部ハ該銀行ノ紙幣ヲ以テ釀出セラレシテ恰モ英蘭銀行ガ其新資本ヲ募集スルニ當リ一部ハ該銀行ノ下落セル紙幣ヲ以テ釀出セラレシガ如クナリキ而テ世人驚々此事ヲ非難シタリト雖モ該銀行ノ一友人ハ此非難ニ對シテ左ノ如キ適當ナル答辨ヲ爲セリ曰然レハ難者ハ毫モ此點ヲ考察セザルナリ蓋資本中多クハ正貨ヲ以テ拂込マレ又資本トシテ拂込マル、其ハ銀行紙幣ト雖モ正サテ正貨ニ同

一ナリト見做ス可キナリ向トナレバ銀行紙幣ヲ以テ拂込マル、其ハ隨テ銀行ニ對スル要求ヲ減少スレバナリ」ト氏又曰市場ニ於テ仕拂ヲ爲シ又下等人民ノ間ニ通用ヒシメンガ爲メニ幾分ノ正貨國內ニ流通スルヲ要ス而テ斯ク正貨ヲ要スル取引ハ銀行ノ信憑ニ基キタル紙幣ヲ以テスル取引ニ對シテ適當ノ比例ヲ保ツ者ナリ」ト此等ノ秀絶ナル原理ハ蘇格蘭ノ議院ヲシテ夫ノ土地ヲ基礎トシ紙幣ヲ發行スルチャムベルレーン氏及ロー氏ノ妄計ヲ拒絕セシメタル原理ト精密ニ相符合スル者トス

蘇格蘭銀行ノ之ニ抵抗セシニ拘ラズ遂ニ一千七百二十七年五月卅一日ヲ以テ銀行營業ノ權ヲ與フル所ノ免許狀夫ノ「エクイヴァレント」會社ニ與ヘラレタリ其六月十一日ニ至リ國王崩セシノ故ヲ以テ右免許狀ハ一時遲延セシト雖七月八日ニ至リ此免許狀遂ニ鈴懸セラレタリ此會社ハ帝國銀行ノ名稱ヲ附シ一千

七百廿七年十二月八日十五萬一千磅ノ資本ヲ以テ開業セリ
 在來銀行即蘇格蘭銀行ニ對スル攻撃ハ凡テ虛妄無據ノ者タル
 ハ吾輩之ヲ許スト雖也而カモ該銀行專權ノ存續ヲ許サレザリ
 シハ吾輩之ヲ賀セザルヲ得ズ何レノ銀行ニモ黨ヒズシテ局外
 ニ立ツト自唱セル一記者ハ在來銀行ノ爲メニ著サレタル一論
 文ニ對シテ答辨ヲ爲シ此正當ノ點ニ論及セリ曰余ハ信ズ專權
 ノ如キハ排却ニ歸シタル一主義タルヲ(中略)如何ナル國ト雖
 モ曾テ專權銀行ヲ永遠ニ存セシメ若クハ二十一年ヨリモ永ク
 存セシメシ者アル乎又若シ斯カル實例ヲ示シ得可シトスレバ
 斯ノ如キハ果シテ正當ノ處置ナル乎(中略)蘇格蘭銀行若シ之ニ
 答ヘテ吾儕ハ既ニ此專權ヲ有セリ而テ吾儕ハ曾テ此專權ヲ奪
 ハル、ニ足ル如キ過失ヲ行ヒシコトアル乎ト云ハ、此疑問ニ對
 スル答辨ハ更ニ左ノ疑問ヲ以テシテ甚明ナリトス即他ノ臣民

タル吾人ハ銀行營業ヲ除カル可キ如何ナル過失アリシ乎如何
 ナル法律ニ因リ吾人ハ汝ノ享有セル利益ヨリ除カル、乎ト云
 フニ是ナリ云々「下次ニ此記者競争セル二銀行ヲ比較セシ後チ
 更ニ論シテ曰此二銀行ノ比較ヨリシテ直ニ喚起ス可キ感想ハ
 此等ノ廉直公平ナル商人ガ又己レニ利益アル如クニ取引ヲ行
 ヒタリト云フニ是ナリ(斯ノ如キハ固ヨリ正當ナリトス)彼輩ガ
 國民ノ爲メニ盡ス勤勞ニ對シテ十分ノ報酬ヲ受ケシト云フニ
 是ナリ而テ彼輩若クハ其他如何ナル一組ノ人ト雖モ銀行營業
 ノ永遠不滅ナル專權ヲ享有ス可キ如何ナル權利ヲ有スル乎ハ
 解シ難キ所ナリ(中略)我議院ハ夫ノ英蘇合同ノ時ニ於ケルガ如
 ク頗ル請願者ノ要求ヲ容ル、ニ銳意ナリト雖モ銀行營業ノ永
 遠ナル專權ノ如キハ其大害アルヲ極メテ明瞭ニシテ如何ナル
 人ト雖モ斯カカ事ヲ求メザル可シ然ルニ況ンヤ堂々タル議院

〇於テヤ蓋如何ナル議院ト雖モ斯カル事ヲ許可スル程ニ無
 〇分〇別〇ナル〇者〇ハ〇ア〇ラ〇ザ〇ル〇可〇キ〇ナ〇リ〇ト〇然〇ル〇ニ〇ト〇ウ〇イ〇ド〇以〇南〇ニ〇於〇テ
 ハ百三十年以上ノ久シキ間一會社ニ銀行營業ノ專權ヲ與フル
 程ニ無分別ナル議院アルナリ而テ之ヨリ生ゼル結果ハ以テ此
 銳敏ナル蘇格蘭人ノ説ノ當ルヲ確證セリ
 「エクシヴレント」會社ノ取締役ハ株主ニ就キテ其資本金ノ半額マ
 テ徴收スルヲ許サレシト雖モ其融出ヲ強ユルノ手段ハ其融
 出セラルマデハ割賦金ヲ抑ヘ置ク一事ノミニシテ此外ニハ
 之ヲ強ユルノ手段許サレザレキ然レモ該會社ハ國王ヨリ二萬
 磅ノ預金ヲ受取り以テ大ナル補助ヲ得テ抑此金額ハ利息ヲ
 取リテ漁獵者及製造人ニ貸付シ以テ其業ヲ獎勵セシトノ目的
 ニテ政府ヨリ出ダセシ所ナルガ帝國銀行取締役ノ數人ハ此資
 金ヲ取扱フ可キ委員中ニ在リシガ故ニ遂ニ此資金ヲ己レノ銀

行ニ托セシムルヲ請フ起シテナリ又免許狀ハ紙幣無限發行ノ
 權ヲ此帝國銀行ニ與ヘタリ而シテ新銀行創立ノ爲メニ起リタ
 ル驚愕及嫉妬ハ幸ニシテ速ニ消滅シ去レリ何トナレバ新銀行
 ノ創立ハ舊銀行ノ利益ヲ害セザル耳ナラズ反テ雙方ノ繁榮ヲ
 増進セシムルノ結果アルヲ發見セラレケレバナリ蓋此ノ如キ
 ハ必至ノ結果ニシテ商業上ノ經驗ニ富メル者ノ能ク前見シ得
 可キ所ナリトス左レバ蘇格蘭銀行ノ株券ハ四十割騰貴シ帝國
 銀行ノ株券亦大ニ騰貴セリ
 帝國銀行ノ創立後僅ニ二ケ年ヲ經テ該銀行ハ更ニ銀行事業ヲ
 發達セシムルノ新方法ヲ工夫セリ此新方法ハ蘇格蘭ノ富源ヲ
 開發シ其農業上及商業上ノ繁榮ヲ進捗セシムルニ於テ遂ニ他
 ノ諸原因ニ超出スルノ大功アリシトハ該國ノ事情ヲ知レル者
 ノ擧テ然リトスル所ナリ此新方法トハ則チ所謂保證貸若クハ
 カツクレイト

保證貸勘定ノ制度ナル者はナリ而テ此制度ヤ最モ深ク講究セザル可カラザル所ナリ何トナレハ此制度ハ全ク夫ノ融通手形ト同性質ノ者ニシテ此融通手形ハ英國ニ於テハ其甚シク濫用セラレシガ爲メニ非常ノ賤惡ヲ受ケタレバナリ余ハ既ニ第六章ニ於テ保證貸制度ノ事ヲ記述セリ一千七百三十一年ニ於テ蘇格蘭銀行ハ再ヒグラスゴー、アベルデーン、ダンディーニ於テ支店ヲ開カントテ試ミタリト雖モ二ケ年ノ實驗ヲ經テ後チ遂ニ之ヲ廢止セザル可カラザルニ至レリ而テ爾後一千七百七十四年ニ至ルマデハ又之ヲ試ミザリキ

相競争セル二銀行共ニ約束手形無限發行ノ權ヲ有セルコトナルガ故ニ其未タ十分ノ實驗ヲ經ザルニ當テ大ニ之ヲ濫發セルハ避ク可カラザルノ勢也左レバ蘇格蘭銀行ハ且ハ競争者ノ攻撃ヲ防キ且ハ此濫發ノ結果ヲ防カンガ爲メニ取締役ノ隨意ヲ

以テ請求後六ケ月ニ其紙幣ヲ仕拂フコトアル可ク此場合ニ於テハ其六ケ月間法律制限通りノ利息ヲ附ス可キ旨ヲ其紙幣面ニ記入セリ而テ此事ヤ凡テ他ノ銀行ノ倣フ所トナレリ蓋銀行事業ノ大利アルコト著シク顯ハレシカバ蘇格蘭銀行專權ノ盡キレ後ハ銀行各地方ニ興起シ各々其紙幣ヲ濫發シテ以テ全國ニ溢レシメタレバナリ故ニ若シ紙幣ノ所持人ニシテ其仕拂ヲ請求スル所ハ銀行取締役ハ所持人が其請求ノ一部ヲ以テ満足スルニ非ズンバ六ケ月後ニ仕拂フ可キ旨ノ箇條ヲ實用セントテ告ゲ以テ其請求ヲ拒ムナリ且紙幣ノ額面金額ニ何等ノ制限モアラザリシヲ以テ數多ノ銀行ハ十志紙幣五志紙幣加之五志以下ノ紙幣ヲ濫發行セリベルス、シヤーンニ於テハ一志紙幣加之一片紙幣行ハレ夫ノ「ベルス」銀行ノ如キハ一部ハ此害物即小紙幣ヲ除クノ目的ヲ以テ創立セラレシナリ故ニ之ガ必至ノ結果起リ

此等ノ紙幣ハ凡テ金銀ヲ國外ニ驅逐シ倫敦ニ對スル爲替下落
 セリアダム、スミス氏曰倫敦及カーリス間ノ爲替ハ平均然ニ
 在リシニ拘ラズ倫敦及ダムフリース間ノ爲替ハダムフリース
 ニ不利ナルト時トシテ五分ニ及ベリ抑此ダムフリーストカー
 リスルトノ距離ハ僅ニ三十英里ニ足ラズト雖モ尙ホ斯ノ如ク
 ナリキ蓋カーリスルニ於テハ手形ヲ仕拂フニ金銀ヲ以テシダ
 ムフリースニ於テハ之ヲ仕拂フニ蘇格蘭ノ銀行紙幣ヲ以テセ
 リ而テ此等ノ紙幣ヲ金銀ニ兌換シ得ルノ不定ナルヨリシテ
 斯クハ其價值ヲ正貨ノ價值ヨリモ四分下落セシメタルナリト
 抑當時英國ノ貨幣ノ劣悪ナリシガ爲メニ外國爲替英國ニ不利
 トナリ金ノ市價ハ一匁ニ付四磅ナリシニ尙ホ此貨幣ニ對シテ
 蘇格蘭紙幣ノ更ニ下落セルト此ノ如クナリシヲ見レバ實ハ約
 シ六分五厘ヲ下落セルトナリ左レバ蘇格蘭紙幣ノ割引ヲ生ゼ

ル當時ニ於テ其ノ紙幣ハ實ハ不換紙幣ナリシヲ知ル可シ即請
 求後六ヶ月拂ノ紙幣ナリシヲ知ル可シ是ニ甚緊要ナル事情ニ
 シテ特ニ茲ニ之ヲ記セザル可カラズ何トナレバ此時ノ事情ハ
 ロールト、ピール氏ガ一千八百四十四年ノ銀行條例ヲ提出スル
 ニ當テ説示セル例證ノ一ナレバナリ
 左レバ之ガ當然ノ結果起レリ蓋紙幣過發セラル、キハ常ニ然
 ルガ如ク凡テ金ヲ國外ニ驅逐シタルヲ以テ諸銀行ハ一分半乃
 至二分ノ損失ヲ冒シ倫敦ニ代理人ヲ用ヒテ絶ヘス己レノ爲メ
 ニ正貨ヲ蒐集セシメザルヲ得ザリキアダムスミス氏曰
 此等ノ正貨ハ車ヲ以テ之ヲ運送シ其運送者ハ更ニ千分ノ七
 半即百磅ニ付十五志ノ入費ヲ出シテ保險ヲ附セリ然レモ此
 等ノ代理人ハ其委託者ノ金庫竭盡スルニ當テ每チニ必スシ
 モ之ヲ補給スル能ハザルナリ故ニ其之ヲ補給スル能ハザル

場合ニ於テハ諸銀行ノ依ル可キ手段ハ倫敦ノ取組盟約者ニ
 對シテ其要スル金額丈ケノ爲替手形ヲ振出スニ在リキ而テ
 其後此等ノ取組盟約者ガ其利子及手数料ト共ニ右ノ金額ヲ
 取付ケンガ爲メニ銀行ニ宛テ手形ヲ振出スヤ諸銀行中或ハ
 紙幣過發ノ爲メニ困難ニ苦メルヲ以テ更ニ倫敦ノ同一若ク
 ハ他ノ取組盟約者ニ對シテ第二ノ爲替手形ヲ振出スニ非ズ
 シバ他ニ其取付ケニ應スルノ手段ヲ有セザル者アリ斯クシ
 テ同一ノ金額若クハ率口適當ニ云ヘハ同一金額ニ對スル手
 形ハ二三回以上ノ往來ヲ爲シ而テ負債者タル銀行ハ其合計
 金額ニ對シテ常ニ利子ト手数料トヲ仕拂フナリ且蘇格蘭ノ
 銀行中其無謀ヲ以テ有名ナラザル者ト雖モ尙ホ時トシテハ
 此損失多キ手段ニ依ラザルヲ得ザリキ
 英蘭銀行又ハ蘇格蘭ノ諸銀行ガ其紙幣中國内流通上ノ需要

ニ越ユル部分ト兌換シテ拂出セシ所ノ金貨ハ又齊シク國內
 流通上ノ需要ニ越ユル者ナルガ故ニ或ハ貨幣ノ形ヲ以テ外
 國ニ輸出セラレシトアリ或ハ鑄解セラレシ後チ地金ノ形ヲ
 以テ外國ニ輸出セラレシトアリ或ハ鑄解セラレシ後チ一
 ニ付四磅ノ高價ヲ以テ英蘭銀行ニ賣付ケラレシトアルナリ
 而テ注意シテ全貨幣中ヨリ撰出シテ外國ニ輸出セラレ若ク
 ハ内國ニ於テ鑄解セラル、者ハ最も新シク最も重ク最も良
 キ貨幣ノミナリキ蓋貨幣ノ姿ヲ有スルキハ此等ノ量目重キ
 貨幣ノ如キモ量目輕キ貨幣ニ過グルノ價值アルニ非ズト雖
 モ之ヲ外國ニ輸出シ若クハ内國ニ於テ鑄解シテ地金トナス
 所ハ爲メニ一層多額ノ價值ヲ得レバナリト
 此說ハ余輩ガ摘出セルアリストフアチス氏ノ說ヲ能ク證明スル
 者ニシテ未ダ「アッシュナリ」紙幣ノ行ハレシニ當リ佛國ニ起リシ事

實及紙幣兌換停止ノ際英國ニ起リシ事實ハ十分ニ此説ヲ證明
 スルナリ
 此時ニ當リ蘇格蘭ノ諸銀行ハ紙幣ニ關スル真正ノ原理ヲ會得
 セズ紙幣ノ過發ハ外國爲替相場ヲ下落セシメ金ノ流出ヲ起ス
 ノ結果アルヲ思ハズ紙幣過多ナルニ際シテ金ヲ國內ニ吸收
 スルハ恰モ儲ニ水ヲ注クガ如ク又ハダナイデスノ辛苦ノ如ク
 事全ク徒勞ニ屬スルヲ悟ラザリシヨリ最モ驚ク可キ有様ニ
 陷レリ諸銀行ハ保證貸ヲ許スニ於テ極メテ濫ニ失シ特ニ之ニ
 應用ス可キ規則ヲ守ルヲナクシテ其保證貸ヲシテ滯貸タラシ
 メタリ而テ一千七百四十六年ヲ以テシェームス黨ノ最後ノ叛亂
 鎮定セラレ蘇格蘭ヲシテ永遠ニ内亂ノ患ヲ免レシメシニ當リテ
 ハ各事各物何レモ事態ノ急迫ルヲ證セザルナキガ如ク加フル
 ニ數多ノ新會社組織セラレテ既ニ過多ナル貨幣ヲ更ニ過多ナ

ラシメタリ(按)ダナイデストハダナリスノ五十人ノ女子ノ稱ニ
 之ヲ罰セシメシメテ其女子中ハ永久ニ孔多キ者アルトハダナリス
 器ニ水ヲ盛ラシメテメクリ云々ト鬼神傳ニ見ユ
 左レバ危險ヲ共ニスルノ故ヲ以テ二大銀行ハ互ニ其勢力ヲ合
 シテ相謀リ遂ニ此有様ヲ救治ス可キ一條例ヲ發セシムルヲ得
 タリ即一千七百六十五年第四十九號ノ條例發セラレ之ニ因テ
 二十志以下ノ紙幣ヲ廢止シ請求後六ヶ月ニ仕拂フノ自由ヲ以
 テ紙幣ヲ發行スルヲ禁止シ紙幣ハ請求次第所持人ニ仕拂フ
 可キ者ナラザル可カラザル旨ヲ制定セリ又此二大銀行ハ大ニ
 其保證貸ヲ節減シ且新ニ資本ヲ徵收セリ左レバ此等種々ノ處
 置ノ爲メニ銀ハ直ニ返流シテ流通上ニ現ハレ蘇國貨幣ノ價值
 平均點ニ回復シ一千八百四十五年マデハ該國銀行紙幣ノ發行
 ハ全ク自由ナリシト雖モ爾來今日ニ至ルマデ蘇格蘭紙幣ノ價
 值ハ曾テ平均點ヲ去リシコトアラザリキ

一千八百四十六年マデハ免許ヲ受ケシ銀行ハ依然蘇格蘭銀行ト帝國銀行トノ二行ニ止マリシガ此年ニ至リ麻布製造ノ業ニ從事シ且之ニ關スル銀行事務ニ從事スルノ目的ヲ以テ大英麻布會社ナル者組織セラレタリ而テ此會社ハ幾時ナラズシテ其營業中麻布製造ノ方ハ之ヲ廢止シ獨リ銀行事務ノ方ニノミ從事スルノ利ナルヲ發見セリ而テ爾後此會社ハ蘇格蘭諸銀行中ノ最モ有力富裕ナル者ノ一トナリシト雖モ該會社ハ蘇格蘭ノ銀行事業ニ何等ノ新形狀ヲモ導カザリキ

吾輩ノ知ル所ヲ以テスレバ商業上擾亂ノ必然ナル先驅者タル夫ノ惡ム可キ融通手形ノ制度ガ六ニ行ハレタルハ此頃ヲ以テ初メトナス蓋蘇格蘭ノ諸銀行ハ實踐ニ因リ甚有益ナル救戒ヲ得タル者ト見ヘ慎ンテ其紙幣發行ヲ適當ノ度ニ減縮シタリケレバ此事ハ數多ノ投機者冒險者ノ輩ニ非常ノ心痛ヲ與ヘタリ

左レバ諸銀行ガ削引ヲ爲スニ於テ斯ク節制ヲ加ヘシコトハ此等ノ企業者ヲ最モ驚カシメシ耳ナラズ又甚シク之ヲ憤怒セシメタリアダムスミス氏曰

彼輩(投機者)云フノ困難ヲ來シタルハ諸銀行ガ謹慎ニシ且必要ナル此節制ヲ加ヘシコト之ガ近因タルヤ疑ナキ所ニシテ彼輩ハ已レノ困難ヲ以テ國家ノ困難ナリト稱シ此國家ノ困難ハ全ク諸銀行ガ無智小膽其措置宜シキヲ得ズシテ國家ノ美ヲ加ヘ之ヲ改良シ之ヲ富マサンガ爲メニ盡力スル人々ノ活潑ナル企業ニ向テ十分ニ寛大ナル補助ヲ與ヘザルニ原因スト爲セリ彼輩乃チ爲以ヘラク時日如何ニ長キニ亘ルモ金額如何ニ多キニ上ルモ彼輩ノ借ラント欲スルニ從テ之ヲ貸スハ則諸銀行ノ義務ナリト然レ諸銀行ガ既ニ過度ノ信憑ヲ許シタル人々ニ更ニ信憑ヲ許スコトヲ斯ク斷然拒絕セルハ當時

在テ據テ以テ能ク已レノ信憑ヲ維持シ又國家公共ノ信憑
 ナ維持スルヲ得可カリシ唯一ノ手段ヲ採リシ者ト謂フ可シ
 斯ノ如ク物情騒然トシテ困難甚シキニ際シ公然國家ノ此困
 難ヲ救フテ目的トシテ新ニ一銀行蘇格蘭ニ創立セラレタリ
 此銀行ノ目的ハ大度ナリシト雖モ其事ヲ處スル謹慎ヲ欠ク
 所アリテ且其救ハント欲スル困難ノ性質原因ノ如キモ十分
 ニ之ヲ解セザリシニ似タリ此銀行ハ保證貸ヲ許シ爲替手形
 ノ割引ヲ許スニ於テ敢テ戒ムル所ナク其寛大ナリシハ曾テ
 他ノ銀行ニ例ヲ見ザリシ程ナリキ左レバ爲替手形ニ關シテ
 ハ殆ト毫モ真正手形ト融通手形トノ間ニ區別ヲ爲サズシテ
 二者平等ニ之ヲ割引セシ者ノ如シ抑此銀行ノ公唱セシ所ノ
 主義ハ相當ノ抵當物ニ對シ例セハ土地改良ノ如ク收益ヲ得
 ルノ最モ速キ所ノ諸改良ニ使用ス可キ資本ノ全額ヲ貸附セ

ントスルニ在リキ加之斯ノ如キ改良事業ヲ獎勵スルハ愛國
 ノ情ニ出テ實ニ此銀行ヲ創立シタル目的ノ主重ナル者ナリ
 ト稱セリ而テ此銀行ハ斯ノ如ク寛大ニ保證貸及手形割引ヲ
 許シテ許スル所ナカリシカバ大ニ己レノ銀行紙幣ヲ發行ス
 ルニ至リタルハ固ヨリ疑ヲ容レザルナリ然レモ其發行セル
 紙幣ノ大半ハ該國ノ流通上ニ容易ニ吸收セラレ使用セラレ
 得可キ金額ニ超過セルヲ以テ其發行セラル、ヤ直ニ金銀ト
 兌換セラレシガ爲メニ該銀行ニ返流セリ而テ該銀行ノ金庫
 ハ決シテ十分ニ豊富ナラザリキ蓋シ是ヨリ先キ二度ノ募集
 ニ於テ該銀行ニ騰出セラレタル資本ハ總額十六万磅ナリシ
 ガ此内現ニ拂込マレシハ唯其八割ナルノミ且此拂込資本ノ
 如キモ數回ニ之ヲ拂込ミシ者ナリ而テ株主ハ大抵第一回ノ
 出金ヲ拂込ムヤ自カラ該銀行ニ於テ保證貸勘定ヲ開キ且取

締役ハ其株主ヲ待ツニ總テ他人ヲ待ツト同様ノ寛大ヲ以テ
 セザル可カラズト思惟セシガ故ニ數多ノ株主ニ對シテハ其
 株主ガ爾後數回ニ拂込ミタル金額ヲ保證貸勘定ニ於テ悉ク
 之ニ貸出スヲ許シタリ故ニ其資本ノ拂込ミタルヤ唯瞬時
 間前ニ他ノ金庫中ニ在シ者ヲ取出シテ之ヲ一人ノ金庫ニ移シ
 タルニ過キザルナリ又假令該銀行ノ金庫曾テ十分ニ充盈シ
 タリトスルモ其紙幣過發ノ爲メニ忽チ之ヲ竭盡セシメザ
 リシヲ得ズシテ夫ノ倫敦ニ宛テ、手形ヲ振出シ而テ其手形
 ノ仕拂期日到レバ其利子及手数料ヲ合シテ之ヲ仕拂ハンガ
 爲メニ更ニ同所ニ宛テ、他ノ手形ヲ振出スノ苦計ニ出ツル
 ニ非ズンハ又他ニ之ヲ補給スルノ手段ナカリシナラン然ル
 ニ其金庫ノ空乏ナル前隙ノ如クナリシヲ以テ該銀行ハ開業
 後未ク數月ヲ出デズシテ早クモ此方法ニ依ラザル可カラザ

ルニ至リシト云フ但シ該銀行株主ノ所有地ハ數百萬磅ノ價
 値アル者ニシテ彼輩ハ該銀行ノ創立契約書ニ調印セルニ因リ
 該銀行負債ノ仕拂ニ應ヘンガ爲メニ眞ニ其所有地ヲ以テ之
 ガ抵當トナセル者ナリ左レバ斯ノ如ク抵當ノ大ナルハ必ス
 信憑ノ大ナルヲ致サズンバアラズシテ之ガ爲メニ該銀行ハ
 其措置ノ濫恣ニ失シタルニ拘ラズ尙ホ能ク二年以上ノ久シ
 キニ亘リテ其營業ヲ維持スルヲ得タリ然レド其終ニ閉店セ
 ザルヲ得ザルニ及ンデ世上ニ流通セル該銀行紙幣ハ約ソニ
 十萬磅ナリキ又該銀行ハ發行スルヤ否ヤ直ニ返流スル所ノ
 其紙幣ノ流通ヲ維持セシガ爲メニ絶ヘス倫敦ニ宛テ、爲替
 手形ヲ振出スヲ以テ常手段トナシ且此等ノ爲替手形ハ枚數
 金額共ニ絶ヘズ愈増加シ來リシガ故ニ其閉店スルニ及ンデ
 其金額六十萬磅以上ニ達セリ故ニ此銀行ハ二年小餘ヲ出デ

ザル間ニ五分ノ利子ヲ以テ八十萬磅以上ノ金額ヲ諸人ニ貸付セシメナリ而テ其銀行紙幣ヲ以テ流通セシメタル二十萬磅ノ金額ニ關シテハ其五分ノ利子ハ取扱費ノ外ハ他ニ扣除セラル、所ナキ純然タル利益ナリト見做シテ可ナルベシト雖モ其常ニ倫敦ニ宛テタル爲替手形ヲ振出シテ得シ所ノ六十萬磅以上ノ金額ニ關シテハ該銀行ハ利子及手数料トシテ八分以上ヲ仕拂ヒ居シガ故ニ其取引總高ノ四分ノ三餘ニ對シテハ三分以上ノ損失ヲ蒙リシ者ナリ

此銀行ノ經營ハ之ヲ計畫シ之ヲ管理シタル人々ノ初メ希圖セシ所ニ全ク反對セル結果ヲ生セシガ如シ蓋此等ノ人々ハ當時國內各地方ニ着手セシラレタル其稱シテ活潑ナル企業トナセシ所ノ者ヲ支持シ且銀行事務ノ全部ヲ己レノ一手ニ占メテ蘇格蘭ノ他ノ諸銀行就中手形ノ割引ニ勇敢ナラザルガ

爲メニ世人ノ咎責ヲ受ケタルエヂンバローノ諸銀行ヲ壓倒セント希圖シタルガ如シ而テ此銀行ハ此等ノ企業者ニ一時ノ補助ヲ與ヘ之ヲシテ然ラザレバ能ク維持シ得可カリシヨリモ更ニ二年前後ノ久シキニ亘リテ其企業ヲ維持スルヲ得セシメタルハ疑ナキナリ然レモ是レ唯彼輩ヲシテ愈深ク負債ニ沈ムヲ得セシメタルニ外ナラザレバ一朝災害ノ來ルニ及ンデハ彼輩及其債主ヲシテ困難ヲ感セシムル一層大ナリキ故ニ此銀行ノ經營ハ此等ノ企業者ガ己レ及國家ノ上ニ來シタル災害ヲ救ハズシテ其實竟ニ之ヲシテ一層大ナラシメタリ左レバ此等ノ企業者ハ其現ニ斃レシヨリモ寧ロ二年前ニ於テ早ク斃レザルヲ得ザリシナランニハ己レニ取リ其債主ニ取リ將テ又國家ニ取リテ遙ニ優レリトセシナラン然レモ此銀行ガ此等企業者ニ與ヘタル一時ノ補助ハ則他ノ蘇

國諸銀行ノ爲メニ真正且永遠ノ補助タリシコトヲ證セリ蓋融
 通手形ヲ取引セル諸商人ハ他ノ諸銀行ガ手形ヲ割引スルニ
 彼レノ如クニ躊躇シケルヲ以テ相率ヒテ此新銀行ニ向テ其
 割引ヲ求メタルニ此銀行ハ大手ヲ廣ゲテ悉ク其割引ヲ許セ
 リ故ヲ以テ他ノ諸銀行ハ若シ此銀行アラザリセバ著大ノ損
 失ヲ蒙リ又幾分カ其信憑ヲ失フコトナクシテハ困厄ヲ脱スル
 コト能ハザリシナラント雖モ此銀行アリシガ爲メニ甚容易ニ
 之ヲ脱スルヲ得タリ

故ニ畢竟此銀行ハ其救ハント期セシ國家真正ノ困厄ヲ反テ
 助長シ而テ其壓倒セント期セシ己レノ諸競爭者ヲシテ反テ
 此大困厄ヲ免レシメタル者ト云フ可シ

當初此銀行ノ創立セラル、ニ當リ人或ハ以爲ヘラク該銀行
 ノ金庫假令如何ホド速ニ竭盡スルアルモ其紙幣ヲ貸附セル

人々ノ抵當物ニ對シテ貨幣ヲ借入シ以テ容易ニ之ヲ補充ス
 ルヲ得可シト然レモ余ハ信ズ此輩ノ人々ハ斯カル方法ヲ以
 テ貨幣ヲ借入スルハ甚遅緩ニシテ其目的ニ應スルニ足ラザ
 ルコトヲ速ニ實驗ニ徴シテ覺知セシナラント當初ヨリ十分
 ニ充實セサルコト彼レノ如ク加フルニ速ニ竭盡セルコト彼レノ
 如クナル金庫ハ倫敦ニ宛テ、手形ヲ振出し而テ其仕拂期日
 達スルハハ累積セル利息及手数料ヲ加ヘテ更ニ同地ニ宛テ
 、他ノ手形ヲ振出し以テ之ヲ仕拂フノ損失多キ手段ニ依ル
 ニ非ズンバ又他ノ方法ヲ以テ之ヲ補充スル能ハザルコトヲ覺
 知セシナラント且假令彼輩ニシテ右第一ノ方法ニ因リ其
 要スルニ從ヒ速ニ貨幣ヲ募ルヲ得タリトスルモ彼輩ハ斯カ
 ル取引ヲ爲ス毎トニ利ヒズシテ反テ必ズ損セザリシヲ得ズ
 故ニ到底一ノ商業會社トシテハ斃レザルヲ得ズシテ唯一層

損失多キ振出及再振出ノ手段ニ依ルヨリモ幾分カ久シキニ保ツテ得タランノミ而テ彼輩ハ尙ホ其紙幣ノ利息ヨリ何等ノ利益ヲモ得ルコト能ハザリシナラン何トナレバ其紙幣ハ國內ノ流通上ニ吸収セラレ使用セラレ得可キ額ニ超過ヒシガ故ニ之ヲ發行スルノ即時ニ忽チニ返流シ來リテ金銀貨トノ兌換ヲ追求セラル可ク而テ之ヲ仕拂ハンガ爲メニ絶ヘス貨幣ヲ借入セザルヲ得ザリシナル可ケレバナリ左レバ彼輩ハ利益ヲ得ル能ハザル耳ナラズ此貨幣ヲ借入センガ爲メニ代理人ヲ使用シア之ヲ貸サント欲スル人ヲ索メシメ之ト談判ヲ爲シ相當ノ借入證書ヲ製スル等ノ一切ノ入費ハ其自カラ負擔セザル可カラザル所ニシテ是レ實ニ其損益勘定中ニ現ハル、所ノ純然タル損失ヲラザルヲ得ザリシナラン故ニ斯カル手段ニ因テ金庫ヲ補充セントスルハ恰モ一池ヲ有スル

人が其水絶ヘズ流出スルト雖モ絶ヘズ之ニ流入スルノ水ナキヨリ其涸渴ヲ防カンガ爲メニ常ニ數多ノ人ヲ數里ノ遠キニ派シテ一井ノ中ヨリ水ヲ吸ミ來ラシメ以テ之ヲ補充セント勉ムルガ如シ且此方法ハ單ニ行ヒ得可キニ止ラズシテ一ノ商業會社タル此銀行ニ取リテ利益アリシトスルモ尙ホ蘇國ハ之ガ爲メニ何等ノ利益ヲモ得ル能ハザル耳ナラズ反テ大ナル損失ヲ蒙ラザルヲ得ザル也蓋此方法タルヤ貸付ヒラル可キ貨幣ノ額ヲ毫毛モ増加スルコト能ハスシテ唯此銀行ヲシテ全國ノタメニ一般貸付會社タルガ如キ地位ニ立タシムルニ過ギズ即貨幣ヲ借入セント欲スル者ハ貨幣ヲ此銀行ニ貸付セル各箇人ニ就キテ之ヲ借レズシテ此銀行ニ就キテ之ヲ借レザル可カラザルニ至ルノミ而テ凡ソ銀行ノ貨幣ヲ貸付スルヤ其借者

恐ラクハ五百人ノ多キニ達シ大抵ハ取締役ノ知ラザル所ノ人ニ係ルト雖モ之ニ反シテ金貸ヲ業トセル一箇人ハ自カラ能ク其人ト爲リテ知り其着實節儉ナル舉動ニ十分ノ信ヲ置ク所ノ僅々ノ人ノミニ貸付スルナリ故ニ銀行ガ其借者ヲ鑑別スルハ箇々ノ貸金者ニ如クテ能ハザル可シ左レハ余ガ以上就キテ論シ來リシ如キ銀行ノ負債者ハ大抵ハ融通手形ノ振出人及再振出人タル空企業者ニ非サルハナクシテ此輩ハ法外ナル事業ニ貨幣ヲ投シ假令其受ケ得可キ幫助ヲ悉ク受クルモ到底其事業ヲ成就スルハ決シテ能ハザル可ク又之ヲ成就スルトモ其眞ニ費ヤセシ所ヲ償フ能ハザル可シ即之ニ使用セラレタルト同量ノ勤勞ヲ維持スルニ足ル丈ケノ資本ヲ生ズルヲ能ハザル可シ之ニ反シテ箇々貸金者ノ着實節儉ナル負債者ニ至テハ必ス其資本額ニ相應スル所ノ確實ナル

事業ニ其借入金ヲ使用シ此等ノ事業ハ壯大奇異ナラズト雖而カモ鞏固有益ニシテ之ニ費ヤセシ所ヲ償フ耳ナラズ更ニ利潤ヲ生シ斯クシテ之ニ使用セラレシヨリモ遙ニ多キ勤勞ヲ維持スルニ足ルノ資本ヲ生ズ可シ故ニ右企業者ノ事業ノ如キハ假令能ク奏功スルアルモ毫モ蘇國ノ資本ヲ増加スルコトナク唯着實ニシテ且利益アル事業ヨリ多額ノ資本ヲ取リテ不着實ニシテ且不利益ナル事業ニ之ヲ移スニ過キザルノミト

以上ノ長キ引出文ニ云フ所ノ銀行ハ則夫ノ有名ナル「エーヤ」銀行ニシテ現存諸銀行ノ吝嗇ナル舉動ヨリ起リタリトスル所ノ困厄ヲ救ハンガ爲メニ創立セラレシ所ナリ此銀行ハハミルトン侯及其他數多ノ富裕ナル地主ヲ含メル一會社ノ起セシ所ニシテ其株主ノ資本及財産ハ確實ナルガ故ニ下落ハ患ナクシテ

幾何ノ紙幣ヲモ發行シ得可シトノ謬見ニ基ケル者ナリ是レ實
 二シヨ、ロ一ノ貨幣説ト同クシテ此銀行ハ則此説ノ誤レルコ
 ノ明證ノ一ナリトス而テ吾輩ガ蘇格蘭銀行ニ關シテ前コ引證
 セシ所ノ一小冊子ハ既ニ此説ノ誤レルコヲ看破シテ且之ヲ非
 難セリ蓋該小冊子中ニ左ノ如キ正當確實ナル説ヲ載セタリ曰
 銀行資本ノ多少如何ヲ問ハズ其能ク流通セシメ得ル紙幣ノ額
 ハ必ス國內ニ存ズル正貨ノ額ニ對シテ一定ノ比例ヲ有セザル可
 カラズ而テ此比例ハ實驗ニ因テ始メテ之ヲ知ルヲ得可シト抑
 此説ヤ實ニシヨ、ロ一ノ主義ノ根本ヲ擊破セル者ナリ何トナレ
 バシヨ、ロ一ノ主義ハ銀行紙幣ハ唯財產ヲ代表スル者ナレバ其
 財產ノ額マデハ如何ニ之ヲ増發スルモ下落ノ患ナレト云フノ
 謬見ニ基ケバナリ而テ此主義ノ結果ハ夫ノ「アッセンナ」紙幣ノ歴
 史ニ於テ之ヲ見ル可キナリ然レハ眞正ノ理ト事實トヲ擧グレ

ハ銀行紙幣ハ決シテ何等ノ財產ヲモ代表スル者ニ非ズシテ銀
 行紙幣其物ハ則獨立セル一種ノ實物ナルナリ而テ他ノ獨立セ
 ル實物ト同シク正貨ニ對シテ一定ノ比例ヲ維持シテ始メテ能ク
 其價值ヲ維持シ得可キナリ且又アダム、スミス氏ガ銀行事業ハ
 一國ノ資本ヲ増加スル者ニ非スト云ヘルハ決シテ正當ナル説
 ニ非ズシテ經濟學上之ヨリモ甚シキ謬見ハ又非ザルナリ蓋銀
 行事業ガ彼レノ如クニ危險ナル所以ノ者ハ畢竟彼レノ如クニ
 速ニ資本ヲ増加スルガ故ナルニ銀行紙幣ノ増加急ニ失スル
 事ハ爲メニ現存正貨ノ價值ヲ下落セシムル所以ノ者ハ銀行ノ
 信憑ハ約束手形タル姿ヲ有スルト小切手タル姿ヲ有スルトニ
 拘ラズ全ク資本ヲ増加セシト同シクシテ資本ト同一ノ職業ヲ
 行フニ因ルノミ夫ノ「エーヤ」銀行及「ロンドン」ノ主義ノ不幸ナル
 謬誤ハ銀行事業ノ爲メニ資本増加セラレ得可シト思惟セルニ

坐○セ○ズ○シ○テ○其○増○加○ノ○眞○正○當○然○ノ○境○界○ヲ○悟○ラ○ザ○リ○シ○ニ○坐○ス○ル○シ○
 ○ミ○即○眞○正○ノ○境○界○ハ○紙○幣○ト○金○銀○貨○幣○ト○ノ○間○ニ○平○價○ヲ○維○持○ス○ル○ニ
 存○ス○ル○コト○ヲ○悟○ラ○ザ○リ○シ○ニ○坐○ス○ル○ノ○ミ○而○テ○此○不○幸○ナ○ル○「エーヤ」銀
 行○ハ○其○開○業○後○未○タ○二○週○期○ナ○ラズ○シ○既○ニ○其○身○代○不○確○實○ナ○リ○シ○者
 ト○想○像○セ○ラ○レ○タリ○其○誤○レ○ル○舉○動○ノ○爲○メ○ニ○投○機○取○引○ヲ○煽○起○シ○此
 時○ヨリ○今○日○ニ○至○ル○マ○テ○常○ニ○商○業○上○恐○慌○ノ○原○因○タリ○シ○所○ノ○融○通
 手○形○ノ○取○引○法○ハ○當○時○此○銀○行○及○他○ノ○投○機○者○ニ○於○テ○之○ヲ○鼓○舞○セ○シ
 所○ナリ○而○テ○此○取○引○法○ハ○一○千○八○百○五○十○七○年○ニ○於○ケル○「ウエスタルン」
 「パソク」銀○行○及○之○ヲ○圍○繞○セ○ル○數○多○投○機○者○ノ○舉○動○ノ○先○例○ヲ○成○セ○シ
 者○ナリ○抑○一○千○七○百○七○十○一○年○及○七○十○二○年○ノ○輸○出○ハ○非○常○ノ○巨○額○ニ
 達○シ○以○前○曾○テ○斯○カ○ル○例○ナク○以○後○モ○一○千○七○百○八○十○七○年○マ○デ○ハ○又
 タ○斯○カ○ル○例○ナカリ○シ○程○ナリ○キ○而○テ○商○業○此○ノ○如○ク○盛○大○ナ○ル○外○觀
 チ○呈○セ○レ○ト○雖○モ○實○ハ○病○ニ○罹○リ○テ○腫○脹○セ○ル○者○ニ○シ○テ○針○ノ○一○刺○能

ク○之○ヲ○衰○縮○セ○シ○ム○ル○コ○足○ル○ノ○有○様○ナリ○キ○蓋○一○千○七○百○七○十○二○年
 六○月○十○日○ヲ○以○テ○倫○敦○最○大○會○社○ノ○一○ナ○ル○「ニール」會○社○ノ○一○社○員○深
 ク○公○債○ノ○投○機○取○引○ニ○從○事○シ○三○十○萬○磅○ヲ○棄○ヒ○テ○逃○亡○セ○リ○此○人○ハ
 「ソルダイト」稱○シ○蘇○格○蘭○人○ニ○シ○テ○該○國○ノ○商○人○ト○大○ニ○關○係○アリ
 ケ○レ○バ○此○等○ノ○商○人○ハ○倫○敦○ノ○代○理○人○ノ○斯○ク○失○敗○セ○ル○ガ○爲○メ○ニ○其
 餘○響○ヲ○蒙○リ○是○ニ○於○テ○平○商○業○上○ノ○恐○慌○激○發○セ○リ○而○テ○夫○ノ○「エーヤ」
 銀○行○ハ○エ○ヂ○ン○ポ○ロ○ー○及○ダ○ム○フ○リ○ー○ス○ニ○支○店○ヲ○有○セ○シ○ガ○一○千○七
 百○七○十○二○年○六○月○十○七○日○ヲ○以○テ○エ○ヂ○ン○ポ○ロ○ー○ノ○支○店○ニ○對○シ○テ○取
 付○ケ○起○リ○遂○ニ○二○十○五○日○ニ○至○リ○數○多○ノ○投○機○者○ト○共○ニ○其○仕○拂○ヲ○停
 止○セ○リ○故○テ○以○テ○蘇○格○蘭○全○國○ハ○其○基○礎○ヨリ○震○搖○セ○ラ○レ○タリ○此○時
 「エーヤ」銀○行○ノ○紙○幣○流○通○高○ハ○八○十○萬○磅○ニ○達○セ○リ○蓋○夫○ノ○「ダリエン」
 計○畫○ノ○失○敗○後○ハ○以○前○曾○テ○之○ニ○等○シ○キ○大○災○害○起○リ○シ○コト○ナク○且○「ウエ
 スタルン」
 「パソク」銀○行○ノ○破○産○マ○デ○ハ○以○後○モ○亦○之○ニ○等○シ○キ○大○災○害

起リシトアラザリキ加之他ノ諸銀行ノ信憑モ殆ト地ニ墜チ能ク厄難チ免レテ其存立ヲ維持セシ者ハ三ノ共立銀行ヲ外ニシテ唯三ノ私立銀行アリシ耳ナリキ而テ腐敗セル信憑ノ泡沫ヲ直接ニ破裂セシメタル者ハ一ノ蘇格蘭人ナリシヲ以テ倫敦ノ諸新聞ハ蘇格蘭ノ各事各物ヲ凌辱侮慢スルノ語ヲ以テ滿タサレタリ

當時或ル記者ハ一ノ新聞ニ於テ融通手形ノ取引法ハ此時始メテ起レルヲ論セリ即一千七百七十二年七月八日ノ「パブリック、アドヴェルト」セル新聞ノ投書中ニ曰銀行ハ全國中殆ド到ル所ニ起リタリ而テ融通ト稱スル新方法ニ因リ何等真正ノ取引モナクシテ手形ヲ發行スルヲ行ハレ爲メニ爲替手形大ニ増加セラレタリト然レドアダム、スミス氏ハ融通手形ノ起元ヲ更ニ早キニ置ケリ氏ハ諸銀行ガ投機者ノ請求セシ丈ケノ割引ヲ拒ミ

シトナ記シ且曰此等商人中或ハ一種ノ手段ニ依頼セシ者アリテ此手段ハ一層入費多シト雖モ尙ホ一時ノ間ハ銀行ノ信憑ヲ極度ニ擴張セルト同様ニ能ク其目的ヲ達スルナリ此手段タルヤ他ナシ夫ノ世ニ能ク知ラレタル振出及再振出ノ詭計是ナリ而テ此詭計タルヤ不幸ナル商人ガ破産ノ淵ニ瀕シテ往々ニ依頼スル所ナリ此方法ニ從ヒ貨幣ヲ募ルノ手段ハ英蘭ニ於テハ久シク知ラレシ所ニシテ先回ノ戰爭ノ際商業大利アリシガ爲メニ過度ノ取引ヲ獎勵セシニ當リ此手段大ニ行ハレシト云フ而テ此手段ハ英蘭ヨリ蘇格蘭ニ輸入セラレテ忽チニ行ハレ此國商業ノ狹隘ニシテ資本ノ寡少ナル割合ニハ曾テ英蘭ニ於テ行ハレシヨリモ一層大ニ行ハル、ニ至レリ此振出及再振出ノ手段ハ各實業者ノ甚能ク知ル所ナルヲ以テ之ヲ説明スルハ恐ラクハ無用ナリト思惟セラル可シト然ルニ一人ノ敬重ス可キ

證報者即一千八百五十八年ノ下院委員ノ諮問ニ應センガ爲メニ
 ニタブリソン私立銀行者ノ總代人トシテ出デタルトイテ氏ガ
 融通手形ノ制度ハ一千八百四十四年ノ銀行條例ノ制定セラレ
 シニ當テ尙ホ存ゼザリシ所ノ一新元素ヨリ起レリ而テ茲ニ
 謂フ新元素トハ預金ニ利息ヲ附スル合資銀行ノ手ニ巨額ノ預
 金積集セシト是ナリトノ説ヲ爲セシハ豈驚ク可キコ非ズヤ
 吾輩ハ當時主張セラレタル一説ヲ茲ニ記スルヲ可トスベシ且
 此説ハ一千八百五十七年ノ恐慌ニ際シテ再ヒ蘇格蘭ニ起リシ
 ガ故ニ一層茲ニ之ヲ記スルヲ可トスベシ蓋蘇格蘭ニ於テハ免
 許ヲ受ケタル三銀行即蘇格蘭銀行帝國銀行大英麻布會社ノ三
 銀行ハ有限責任ノ銀行ナリトハ舉世ノ人若クハ大抵ノ人ノ思
 像セル所ナリ加之此事ハ一千八百二十六年ノ上下兩院ノ報告
 書中ニ明記セラレヨリ然レモ近時ニ至リテ帝國行及大英麻布

會社ノ二銀行ニ關シテ此事世ノ疑問トナレリ英蘭銀行取締役
 ノ一人ナルホッグソン氏ハ前回委員ノ諮問ニ應シ證報ヲ與ヘテ
 曰余ノ信スル所ヲ以テスレバ蘇國ニ存スル銀行中有限責任ノ
 者ハ唯獨リ蘇格蘭銀行アルノミ夫ノ帝國銀行及大英麻布會社
 ニ關シテハ余ハ大ニ其有限責任ナルコトヲ疑フナリ余ハ信ス蘇
 格蘭銀行ハ英蘭銀行ト同様ニ完全ナル免許狀ヲ有スルコト而
 テ余ガ右ニ掲ゲタル他ノ二銀行ノ如キモ或ル特典ヲ與フル所
 ノ免許狀ヲ有スルト雖モ其特典中ニ有限責任ヲ含ムヤ否ヤハ
 甚疑ハシキナリトケレト氏問テ曰此二銀行ノ如キモ有限責
 任ナリトノ思想一般ニ蘇格蘭ニ行ハレザル乎トホッグソン氏答
 テ曰此思想ハ蘇格蘭ニ於テ耳ナラズ英蘭ニ於テモ行ハレ又二
 銀行ノ得意者中ニモ行ハレタリ然レモ此思想ハ近時大ニ弱ハ
 メラレ余ハ蘇國最高民事裁判所ノ判事ノ如キモ今日此二銀行

ハ有限責任ニ非ストノ説ヲ懷クコト信ズルナリト然レモ一千七百七十二年六月廿二日ノ「パブリック、アドヴェルティゼ」新聞ニ斯ル事ニ通曉セル人ノ手ニ出ヂシト思ハル、一投書アリテ蘇格蘭銀行ノ株主ハ一切該銀行負債ノ責ニ任スル者ニシテ其株主ノ財産ハ數百萬磅ノ價值アルコトヲ記シ英蘭銀行ガ蘇格蘭銀行ヲ補助セザル可カラザル強キ一理由トシテ此事ヲ力言セリ今若シ此説ニシテ信ナラシムハ是レ實ニ世論ニ一大驚愕ヲ與フル所タルヤ必セリ而テ以上何レノ銀行ニ關シテモ此疑問ガ實際上ニ緊要ナル結果ヲ生スルコトアルマテニハ或ハ久シキヲ經過スルアラシ

一千七百七十四年ニ於テ同年第三十二號ノ條例發セラレ之ニ因テ蘇格蘭銀行ハ其資本ヲ一倍スルコトヲ許可セラレ又株主人ノ有シ得ル株數ノ制限ハ四十株ニ増加セラレタリ此年該銀

行ハ再ヒ支店ヲ設立シシニ能ク其功ヲ奏シ爾來支店ヲ置クハ蘇格蘭銀行事業ノ著明ナル一要點トナレリ一千七百八十四年ニ至リ同年第十二號ノ條例ヲ以テ該銀行ノ資本ハ更ニ三十萬磅ニ増加セラレ株主一人ノ有シ得ル株數ノ制限ハ全ク廢止セラレタリ而テ一千七百九十二年ニ至リ同年第二十五號ノ條例ヲ以テ其資本更ニ六十萬磅ニ増加セラレ又一千七百九十四年第十九號ノ條例ヲ以テ更ニ一百万磅ニ増加セラレ又一千八百四年第二十三號ノ條例ヲ以テ更ニ一百万五百萬磅ニ増加セラレ其内一百万磅ハ既ニ徵收セラレタリ而テ該銀行ノ資本ハ今日マテ此有様ニテ續ケリ

次回ノ商業上ノ大恐慌ハ一千七百九十三年ニ起リテ此恐慌モ亦蘇國全部ニ普及セリ而テ當時ノ有識ナル記者ハ此恐慌ノ原因ヲ地方銀行ノ非常ノ増加ト革命戰爭ノ破裂トニ歸セリ就中

最モ甚シク此恐慌ヲ感シタルハグラスゴロニ在テ商業上及製造上ノ最モ富裕ナル數多ノ會社斃レタリ而テ該府ノ最モ古キ銀行ノ一ナル「グラスゴロ、アイムス」銀行ハ三月十四日ヲ以テ其仕拂ヲ停止シ英蘭ノ地方銀行ノ四分ノ三ハ大ニ震搖セラレタリ英蘭銀行ハ諸方ヨリ補助ヲ懇求セラレシト雖モ悉ク之ヲ拒絶セシガフランシス、ペーリソング氏及地金報告書ハ痛ク英蘭銀行ノ此舉動ヲ難責セリ而テ英蘭銀行既ニ斯カル頑固ナル主義ヲ採用セシヲ以テ一般ノ破産將サニ來ラントスルガ如クナリキ然ルニ此時シヨ、シノクレイル氏ハ夫ノモンタギューガ出納局證券ヲ發行シテ世上ノ信憑ヲ維持セタル先例ヲ記慮シ同様ノ策ヲ此恐慌ニ施ス可キヲ唱ヘタリ是ニ於テ平ピット氏ハ此目的ノ爲メニ案ヲ起サンコトヲ氏ニ求メシニ因リ氏ハ四月十六日ヲ以テ其案ヲ出ダセリ而テ此件ヲ調査セシメシガ爲メニ下

院ノ委員直ニ任セラレタリ又此際帝國銀行ノ一取締役ハ蘇國ヨリ最モ驚ク可キ新聞ヲ携ヘテ來レリ即該國ノ諸共立銀行ハ若シ己レノ安全ヲ謀ラント欲セバ商家及地方銀行ヲ補助セシガ爲メニ必要ナル融通ヲ毫モ爲ス能ハザル旨ヲ告ゲタリ此等ノ共立銀行ニ政府ヨリ補助ヲ受クルニ非ズンバ一般ノ破産忽チニ來ル可ク十分ニ確實ナル數多ノ商家ト雖モ若シ一時ノ補助ヲ受クル能ハザルニ於テハ斃レザルヲ得ザル可キ旨ヲ告ゲタリ而テグラスゴロノ國會議員マクドウェル氏ハ商家及製造者ガ信憑ノ全ク破壊セラレタルガ爲メニ至大ノ困難ヲ蒙レルコトヲ記シ而テ此困難ハグラスゴロ、ペイスレー、グリーノ諸銀行ガ金貨ト兌換セラレシガ爲メニ己レノ紙幣ノ取付ケラレシヲ恐レテ割引ヲ拒絕セルニ原因スルコトヲ記セリ然レ政府小額面ノ出納局證券ヲ發行スルコトニ一致シ而テシヨ、シノクレイル氏

右證券ノ發行ヲ豫期シテグラスゴーニ貨幣ヲ送ラシムルニ盡力セシカハ之ガ爲メニ此恐慌鎮定セラレタリ
 此時ノ恐慌ノ極メテ甚シカリシトハウイレルム、フォルベス氏が己レノ店舗ノ歴史ニ關シテ記セル有味ナル覺書ヲ一讀シテ之ヲ知ル可キナリ氏ハ定期預金ニ關シテ記シテ曰

尋常ノ時ニ於テハ拂出サル、金額ト拂込マル、金額トハ殆ド相平均セリ然ルニ此時拂出高ノ拂込高ニ超過セルヲ左ノ如シ

同	一千七百九十二年十二月中	一〇、六七〇 ^磅
同	一千七百九十三年一月中	一六、九一六
同	二月中	一一、五六一
同	三月中	五二、九六一
同	四月中	一〇五、〇七五

同

五月廿三日マテ

六六、五四一

合計

二六三、七二四

又當坐積金ノ差引尻モ之ト同様ノ割合ニテ減少シ拂出高ノ拂込高ニ超過セシヲ殆ト此ノ如クナリキト
 英蘭銀行ガ紙幣兌換ヲ停止シタルノ新聞ハ三月一日特別通信ヲ以テエヂンボローニ達セリ而テ此新聞ノ達スルヤ直ニ諸銀行ニ向テ取付ケ起レリ左ノ諸共立銀行ノ支配人ハ禮儀ノ如キハ棄テ、一向ニ顧ミル所ナク何レモウイレルム、フォルベス氏ノ店舗ニ會合シテ如何ナル處置ニ出ツ可キ乎ヲ協議セリ而テ遂ニ英蘭銀行ノ先例ニ倣ヒ凡テ正貨ノ仕拂ヲ停止スルノ議ニ決セリ又此時プロテスト公ハ重モナル府民ヲ招集シテ會議ヲ開キ最高民事裁判所ノ判事長、出納局裁判所ノ判事長、大滄事、エヂンボロー府ノ州長等モ之ニ參會セリ而テ此會議ニ於テ右諸銀

行ノ信憑ヲ維持シ正貨トシテ其紙幣ヲ受取ル可キヲ全會一
 致ニテ決議セリ此決議ハ諸新聞ニ之ヲ廣告シ且特別通信ヲ以
 テ國內ノ重モナル市府ニ之ヲ報道セリ
 正貨仕拂ノ停止ハ混亂騷擾ノ最モ恐ル可キ狀ヲ喚起セリ群民
 諸銀行ノ門戸ニ蟻集シテ豁然紙幣ヲ金銀ニ兌換センコトヲ請求
 セリ而テ下等人民中ニ於テ小額ナル鈞錢ノ需要最モ切ニ遂
 ニ一磅紙幣ヲ二片若クハ四片ニ切斷シテ之ヲ通用スルノ策ヲ
 採ルニ至レリ造幣局ニ於テ刻印セラレタル西班牙弗銀貨ハ四
 志六片ノ價值ヲ以テ發行セラレ又義ノ四分ノ一ニ當ル貨幣鑄
 造セラレタリ又特ニ一條例ヲ發シ從來紙幣ヲ發行シ來リタル
 諸銀行ニ於テ一定ノ期限間五志紙幣ヲ發行スルコトヲ許可セリ
 是ニ於テ平恐慌鎮定セラレ信憑速ニ恢復セラレタリ諸銀行ハ
 正貨ヲ以テ紙幣ヲ兌換スルコトヲ拒ミシニ拘ラズ世人ハ從前ノ

如ク容易ニ紙幣ヲ受取リタリ蓋世人強ヒテ諸銀行ヲシテ正貨
 ナ仕拂ハシメント勉ムルコトナク議院ノ條例ヲ以テ毫モ諸銀行
 ナ保護セザリシニ拘ラズ曾テ諸銀行ニ對シテ訴訟ヲ起セシ者
 一モアラザリシハ稍々奇ナリト云フ可シ而テ幾時ナラズシテ
 商業ハ以前ヨリモ一層繁榮ノ狀ヲ以テ進メリ
 吾輩ガ次ニ配ス可キ事件ハ一千八百十年ニ於テ商業銀行ノ創
 立セラレシコト是ナリ此事件ハ政治上ノ事件ナリト思惟セラレ
 シ所ナリト雖モ吾輩茲ニ之ヲ記シテ可ナルベシ蓋當時保守黨
 ノ主義最モ振ヒテ繁榮ヲ極ハメ諸銀行ノ如キモ其營業上ニ保
 守黨ノ主義ヲ施ス者ト稱セラレタリ是ニ於テ乎改進黨ハ保守
 黨ニ拮抗ス可キ一銀行ヲ創立センコトニ決心シ此銀行ヲ稱シテ
 商業銀行ト云ヘリ而テ此銀行ハ在來諸銀行ノ何レニ比スルモ
 決シテ劣ラザルノ聲價ヲ世上ニ博シタリ其拂込資本ハ一百萬

磅ニシテ近頃該銀行ノ取締役ハ其株主ニ向テ未ダ毫モ此資本
 金ニ手ヲ觸レザルコトノ満足ス可キ保證ヲ與ヘタリ且此資本金
 ノ外ニ準備金トシテ利益金中ヨリ積立テタル四十萬磅ヲ有セ
 リ其後此銀行ハ免許狀ヲ得タリト雖モ其株主ノ責任ノ無限ナ
 ルコトハ特ニ明告セラレタリ
 一千八百十八年ニ於テ數多ノ外國人ガ蘇格蘭銀行ノ株券ヲ買
 テ以テ本國人ノ籍ニ入ルノ特許ヲ利用セルコト發見セラレシカ
 ハ該銀行ノ最初ノ條例中其株券ヲ有セル外國人ヲ歸化セル者
 ト見做ス一條ハ廢止セラレタリ
 英蘭ニ於テ畏ル可キ銀行破産ノ續々起レルハ重モニ英蘭銀行
 ノ專權ニ原因スル所ナリト雖モ世人ハ其原因ヲ地方銀行ガ一
 磅紙幣ヲ發行スルニ歸セシテ以テ一千八百廿六年ノ宰相ハ英
 蘭ニ於テ一磅紙幣ヲ廢止セシムルト同時ニ蘇格蘭及愛爾蘭ニ

於テモ亦之ヲ廢止セシメシト欲セリ然レド之ガ爲メニ蘇蘭ニ
 於テハ大ニ民心ノ激動ヲ起セシカバ遂ニ宰相ハ此事ヲ調査セ
 シメノガ爲メニ上下兩院ノ委員ヲ任ズルコト一致セザル可カ
 ラザルニ至レリ而テ其調査ノ結果ハ蘇蘭銀行制度ノ非常ニ可
 ナルコトヲ證スルニ在リケレバ爾後又之ニ干涉セントセシコト
 ラザリキ上院委員ノ報告書中ニ曰
 英蘭ニテ法律上小額紙幣ノ發行ヲ許可セザリシ時期即チ一
 千七百六十六年ヨリ一千七百九十七年マデノ時期ニ於テ蘇
 格蘭ニテ五磅以下ノ仕拂ニ用ヒラレシ貨幣ハ依然トシテ殆
 ト全ク一磅紙幣及一磅一志紙幣ヨリ成リシト雖モ二國ノ貨
 幣斯ク異ナレルガ爲メニ曾テ何等ノ不便ヲモ起サザリシコ
 ト記セザル可カラズ而テ就中此事情ハ貨幣ノ統一ハ如何ニ
 望マシトスルモ又避ク可カラザルノ必要ニ非ザルコトヲ證ス

ル者ナリ又免許銀行ト合資銀行ト私立銀行トニ論ナク凡テ
 蘇格蘭ノ諸銀行ハ二百年以上ノ間委員ガ銀行史上未ダ其例
 ナシト信ズル所ノ堅固確實ナル狀ヲ示セシ事、此等諸銀行ハ
 一千七百九十七年ヨリ一千八百十二年ニ至ルマデ英蘭銀行
 及愛爾蘭銀行ノ如クニ兌換停止條例ノ保護ヲ受ケテ正貨仕
 拂ノ義務ヲ免ル、コナクシテ尙ホ能ク已レテ支ヘ來リシ事、
 前回ノ貨幣上ノ攪擾ニ際シテ敢テ金ノ需要起ラザリシ事、該
 國銀行ノ始メテ創立セラレシヨリ今日ニ至ルマデ其破産セ
 シ例ハ僅ニ二三アリシニ過キザル事ハ證報及文書ノ證スル
 所ナリ而テ此時期間其發行紙幣ノ大部ハ殆ト全ク一磅若ク
 ハ一磅一志以下ノ紙幣ヨリ成リシヲ見レハ蘇格蘭ノ諸銀行
 ニ關シテハ此種類ノ紙幣ヲ發行スルハ能ク極度ノ確實ト兩
 立ニ得可キ者ナリト論斷スルニ於テ最モ強キ理由アルヲ知

ル可シ故ニ荷モ諸銀行ガ現時ノ制度ニ從テ管理セラレ、間
 ハ彼レノ如ク久シキ間十分ニ維持セラレタル確實ヲ更ニ加
 ヘンガ爲メニ其制度ノ更革ヲ謀ルガ如キハ十分ノ理由ナキ
 所ナリト云ハザル可カラス」ト
 又下院委員ノ報告書ニ於テモ法律ヲ以テ蘇國ノ銀行制度ニ干
 渉スルノ非ナルヲ論ジタリ
 左レハ一千八百四十五年ニ至ルマデハ蘇國ノ銀行制度ニ何等
 ノ干渉ヲモ加ヘシコアラザリヤ然レモ此年ロベルト、ピール氏
 ハ殆ト毫モ抵抗ヲ受ケスシテ其英蘭銀行條例案及合資銀行條
 例案ヲ通過セシメタルヲ以テ同様ニ蘇格蘭及愛爾蘭ノ銀行ヲ
 モ規制セント決心セリ而テ其蘇國ノ銀行ニ關スル條例即一千
 八百四十五年第三十八號條例ノ要點左ノ如シ
 第一、一千八百四十四年第三十二號條例ヲ以テ同年五月六日

後新ヲ合衆王國內ニ於テ紙幣ヲ發行スルコト各人ニ禁シ
 ヲリ而テ蘇格蘭ニ於テ一千八百四十四年五月六日ヨリ一千
 八百四十五年五月一日マデノ間法律ニ從テ紙幣ヲ發行シ居
 ヲル人ハ其紙幣ヲ發行セル店舗及場所ノ名稱ヲ印税及租税
 委員ニ證明ス可シ
 第二、右委員ハ一千八百四十五年五月一日前一週年間ニ流通
 シ居タル各銀行者ノ紙幣ノ平均高ヲ確定ス可シ
 第三、此等ノ銀行者ハ其四ヶ月ノ平均ニ於テ右委員ノ確定セ
 ル平均高ニ超ヘザル紙幣ヲ流通セシムルヲ得可シ且此外ニ
 同四ヶ月間ニ於テ其所有セル正貨ノ平均高ニ一様ナル紙幣
 ヲ流通セシムルヲ得可シ而テ其正貨中四分ノ三ハ金ニシテ
 四分ノ一ハ銀ナラザル可カラズ
 第四、銀行ガ其法律上ノ制限ニ超過シテ紙幣ヲ發行セル場合

於テハ其超過セル紙幣ヲ沒收セラル、者トス
 第五、若シ二行以上ハ銀行合併スルアルキハ其合併銀行ハ各
 銀行發行定額ノ合計ニ當ル紙幣及其合併銀行ノ所有セル正
 貨ノ額ニ一様ナル紙幣ヲ發行スルヲ得
 第六、英蘭銀行ノ紙幣ハ蘇格蘭ニ於テハ法貨ヲラザル者トス
 讀者ハ英蘭ノ銀行ト蘇格蘭ノ銀行ト其制限ニ甚著明ナル異點
 アルコトヲ知ル可シ何トナレバ英蘭ノ銀行ハ其紙幣發行高ニ一
 定動カス可カラザルノ制限アリト雖蘇格蘭ノ銀行ハ同額ノ正
 貨ヲダニ有ヒバ其法律上ノ制限ヲ越ヘテ幾何ノ紙幣ヲモ發行
 スルコトヲ許可セラルレバナリ且蘇格蘭ニ於テハ幾何ノ銀行合
 併スルモ其合併銀行ハ各銀行發行定額ノ合計ニ當ル紙幣ヲ發
 行スルヲ得ルト雖モ英蘭ニ於テハ合併銀行ノ社員六人ニ越ユ
 ルキハ全ク紙幣發行ノ權ヲ失ハザルヲ得ザルナリ銀行社員ノ

數ニ關スル此愚ナル制限ハ蘇格蘭ニ於テハ何等ノ効力ヲモ有セザルナリ

一千八百五十七年ハ「エーヤ」銀行ノ閉店ヲ除キ曾テ其例ナキ大災害ノ起リシガ爲メニ著名ナリトス其大災害トハ「ウエスタルン」銀行及「シトイ」、チフ、グラスゴー「銀行」ト稱スル二大合資銀行ノ仕拂ヲ停止セシメ是ナリ尤モ「シトイ」、チフ、グラスゴー「銀行」ハ其後營業ヲ再始シ其事情ヲ調査スルニ及ンデ八十萬磅ノ資本中約ソ七萬磅ヲ失ヒシヲ發見セラレタリ故ニ尙ホ多額ノ拂込資本ニハ手ヲ觸レザリシヲナレバ以テ其營業ヲ再始シタリ而テ吾人ハ該銀行ガ此嚴ナル懲戒ヲ受ケレガ爲メニ將來ハ一層正確ナル主義ニ從テ其營業ヲ管理ス可キヲ望ムナリ然レモ「ウエスタルン」銀行ニ至テハ其拂込資本一百五十萬磅ノ全部ヲ失ヒシ耳ナラズ此外ニ殆ト之ト同額ノ損失ヲ蒙リシヲ發見セラレタリ

抑此銀行ハ一千八百三十二年ニ創立セラレシ者ナレバ廿四年間ニ於テ三百萬磅ノ貨幣ヲ失ヒシ者ナリ而テ夫ノ「エーヤ」銀行ハ二年半ニシテ四十萬磅ヲ失ヒシ者ナレバ此二銀行中「エーヤ」銀行ノ損失ヲ以テ一層大ナリトスル也然ルニ「ウエスタルン」銀行ノ破産ハ蘇國銀行制度ノ全躰ニ向テ最モ酷ナル攻撃ヲ喚起セシガ吾人ハ此攻撃ノ全ク價值ナキヲ知ル可キナリ何トナレバ一千八百五十八年ノ下院委員ニ差出サレタル證報ヲ見ルニ該銀行ハ其存續中絶ヘズ他ノ蘇國諸銀行ノ尋常ノ進路ト全ク反對セル進路ヲ取リシヲ最モ明瞭ニ證セラレタレバナリ

此「ウエスタルン」銀行ハ一千八百三十二年ヲ以テ開業シ翌年ニ於テハ二十萬九千一百七十磅ノ拂込資本ヲ有シ爾後年々増加シテ一千八百四十九年ニハ一百七十九萬二千八百五十磅トナレリ而テ一千八百五十二年マデハ其資本ハ此額ニテ續ギシガ

此年所有者ノ破産身代限等ノ爲メニ若干ノ株券該銀行ノ手ニ入リシヲ以テ此等ノ株券ニ對スル金額ヲ其資本中ヨリ扣除セリ故ニ其資本ハ一百五十萬磅ニ減少セラレ該銀行閉店ノ時ニ至ルマデ此類ニテ續ケリ而テ該銀行ノ採用セシ營業法如何ト云フニ當初ヨリシテ蘇國銀行事業ノ尋常ノ方法ニ從ハザリシ也何トナレバ一千八百五十八年ノ委員ヨリ諮問セラレタル證報者ノ説明セルガ如ク蘇國銀行法ノ一大要點ハ其取引スル倫敦ノ銀行ニ預金ヲ爲シ若クハ政府ノ證券類ヲ買入レ以テ巨額ノ準備金ヲ倫敦ニ置クニ在リト雖モ「ウエスタル」銀行ニ至テハ專ラ其資金ヲ地方ノ融通上ニ使用シ倫敦ニハ甚不十分ナル準備金ヲ置キ現ニ一千八百三十四年ニ於テハ其倫敦代理店ナル「ロイド」會社ハ該銀行ノ振出シタル手形ヲ拒却セシ程ナリケレバナリ左レバ他ノ蘇國諸銀行ハ該銀行ノ紙幣ヲ受取ルヲ否ミ

該銀行ニ向テ其營業法ノ不可ナルヲ諫諍セリト云フ而テ一千八百三十四年十月三十日ヲ以テ該銀行取締役ハ此諫諍ニ答ヘ再ヒ斯カル事ノ起ルヲ妨クルニ足ル可キ金額ヲ賣買シ易キ證券類ニ放下スルヲ決セル旨ヲ他ノ諸銀行ニ通知セリ而テ取締役ハ翌年一月ヨリ此目的ヲ達スルニ必要ナル手續ニ着手シ遲クトモ四月マデニハ之ヲ完成セシメテ約セリ又十分ナル資金ヲ得シガ爲メニ割引ヲ節減シ且爾後引續キテ之ヲ節減ス可キ旨ヲ約セリ斯ノ如ク將來ニ於テ善良ナル管理法ヲ施サシメテ約セシヲ以テ三ノ免許銀行ハ右ノ證券類ヲ購入スルヲ得セシメシガ爲メニ十萬磅ヲ「ウエスタル」銀行ニ貸付セリ然ルニ「ウエスタル」銀行ノ取締役ハ忽チニ其約ヲ破リ再ヒ從前ノ營業法ヲ圖襲セリ而テ一千八百三十八年ニ至リ該銀行取締役ハ免許狀ノ下付アラシコトヲ商務局ニ請願セシニ此時蘇國若干ノ他

ノ銀行ハ相連署シテ之ヲ非トスルノ上申書ヲ出ダセリ即此上申書ニ於テ若シ此等銀行ガ默シテ斯カル請求ヲ是認スルアラバ是レ實ニ公衆及此等銀行ノ社員ニ對スル義務ニ背ク者タル旨ヲ述ベタリ此上申書中辨シテ曰

過グル五十年間ニ於テ英蘭ノ銀行中ニハ定時ニ商業上ノ激動起リ之ガ爲メニ數百ノ破産ヲ起セシト雖モ蘇格蘭ニ於テハ概テ常ニ一般ノ平靜ヲ維持シ此間破産セシハ僅ニ三四ニ過ギズシテ而カモ甚小ナル者タリシコトハ閣下ノ能ク知了スル所ノ事實ナリ是レ第一ニハ蘇國ノ諸銀行ニ用ヒラル、資本ノ大ナルニ原因シ第二ニハ其採用セル營業法ニ原因スルコトハ著明ナル所ナリ近時英蘭ニ於テ實驗セラレシガ如ク唯資本ノ大ナル耳ニテハ營業ノ度ヲ擴張シ徒ラニ害ヲ増加スルニ過ギザルコトアラン之ト同シク株主ノ多キハ到底ノ損失

ニ對シテ公衆ヲ保護スル者ナルモ其會社ノ信憑ヲ加フルガ爲メニ又其會社ノ害ヲ爲スカチモ加フルナリ然リ而テ蘇國銀行制度ノ以テ安全ナルヲ致ス所以ノ者ハ如何ナル時ニ於テモ如何ナル事情ニ於テモ容易ニ貨幣ニ變シ得ル如キ政府ノ證券類ニ其資本及預金ノ大部ヲ放下スルノ方法ヲ一般ニ採用セルニ因ルナリ此方法ヲ採用スルキハ損失ナキヲ得ズ何トナレバ政府ノ證券類ハ利息低廉ニシテ且困難ノ時ニ際シテ之ヲ賣ラント欲セバ損失ヲ蒙ラザルヲ得ザレバナリ然レド此方法ハ蘇國ノ銀行ニ十分ナル安全ヲ與ヘ之ヲシテ信憑ノ大ニ破壊セラレタル時期ヲ無難ニ通過スルヲ得セシムルナリ

左レバ蘇國諸銀行ハ其英蘭トノ營業上ノ關係親密ナルニ拘ラズ此等ノ災害ヨリ已レテ免レシメシ所ノ此銀行制度ヲ愛

重スルハ固ヨリ不理ナラザルナリ而テ他國ニテハ銀行ノ理如何ニ關シテ疑惑ノ存スル今日ナレバ茲ニハ蘇國ニ創立セラレタル銀行制度ハ能ク其實功ヲ奏シ決シテ之ヲ援擧ス可カラズト云フヲ以テ足レリトス可シ

「ウエスタルン」銀行ハ一千八百三十二年ヲ以テ創立セラレタリ而テ其公然準據スト唱フル所ノ主義ハ其資本及資産中成ル可ク多額ヲ割引及貸付ニ使用シ唯當坐ノ契約ニ應スルニ足ル丈ケノ現金ヲ準備スルニ在リ

資金ヲ割引及貸付ニ放下スルハ政府ノ證券類ニ放下スルヨリモ一層利益アルヲ以テ投機者若クハ無經驗ノ人ニ取テハ常ニ此主義ヲ採用ス可キ強キ誘惑アルナリ而テ其結果唯彼輩ニノミ及ボス者ナラソニハ是レ小事タル可シト雖モ不幸ニシテ銀行事業上ニ於テハ此事決シテ然ラザルナリ全制度

ハ一ニ信憑ニ基クノミ故ニ管理宜シキヲ得ザル一會社ノ破産ハ之ト組織ヲ異ニセル他ノ諸會社ニ其影響ヲ及ボスナリ

斯カル會社ハ繁榮ナル時ニ當テハ大膽ニ其營業ヲ擴張シ且斯カル時ニ當テハ商業上ノ手形ヲ割引スルノ甚容易ナルヲ見ルヨリ商業上ノ手形ニ資金ヲ放下スルハ發見シ得可キ最良ノ方法ニシテ最モ容易ニ貨幣ニ變シ得ル者ナリト速斷スルニ至ルナリ

速謀アル銀行ハ斯カル豫期ノ全ク慮妄ナルヲ知ルガ故ニ此不智ナル擴張ノ結果ニ應ゼンガ爲メニ自カラ準備金ヲ増加セザルヲ得ザルナリ而テ一朝困難ノ來ルニ及ンデハ破裂ヲ防カンガ爲メニ己レノ競争者ヲ補助セザル可カラズ然ラズソハ大損失ヲ冒シテ己レノ證券類ヲ賣放サルヲ得ザルナリ

「ウエスタルン」銀行ハ斯カル主義ニ基キテ處置セシテ以テ其倫
 敦ニ對スル取引ヲ不規則極マレル有様ニ陥ラシメ遂ニ其代
 理店タル敬重ス可キ「ロイド」會社ハ之ニ驚愕シ一千八百三十
 四年ニ於テハ該銀行ノ振出セル手形ヲ拒却スルニ至レリ是
 ニ於テ平蘇格蘭銀行、帝國銀行、大英麻布會社ノ三銀行ハ該銀
 行ヲ幫助セザル可カラザルノ勢ニ迫リ巨額ノ貸付金ヲ之ニ
 許セリ而テ此事ハ金融市場ノ甚緩漫ナルニ當テ起リシヲ見
 レハ斯カル取引法ノ極メテ危險ナルヲ知ル可キナリ故ニエ
 ザンボローノ諸銀行ハ該銀行ガ一層正確ナル管理法ヲ採用
 シ他日ノ危難ニ應ズルニ足ル程ノ金額ヲ政府ノ證券類ニ放
 下セシメテ之ニ諫告セリ而テ該銀行取締役ハ多ク討議セシ
 後テ遂ニ一千八百三十四年十月三十日附ノ決議ヲ以テ此諫
 告ニ一致セタリト雖モ該銀行ノ資金ハ大ニ他ノ用途ニ停滯

シテ直ニ此目的ヲ達ス可キ資金ヲ得ルニ由ナカリケレバエ
 ザンボローノ諸銀行ハ此目的ノ爲メニ十萬磅ヲ該銀行ニ貸
 付セリ左レハ該銀行ハ一時或ハ此約ニ從テ處置セシナラシ
 ト雖モ忽チ利益ノ誘惑ハ其遠謀ノ心ヲ奪ヒタル者ト見ヘ
 今ヤ全ク此約ヲ擲棄セリ
 斯ノ如キ方法ヲ以テ其全資金ヲ使用シ得ル如キ銀行ハ其競
 爭者ヨリモ一層多額ナル利益ノ割賦ヲ爲シ若クハ一層低廉
 ナル利息ヲ以テ取引ヲ行ヒ得ルヲ甚明ナル可シ而シテ吾輩
 ハ反覆之ヲ云ハン若シ此事ノ結果ニシテ唯相競争セル會社
 ノ割賦金ヲ増減スルニ止マラバ此事ヤ左マデ重大ナラズト
 雖モ其結果決シテ此ノ如キニ止マラズノ國內各銀行ノ存立
 ト社會大部分ノ身代トテ危險ナラシムル者タルヲ吾輩ハ
 信ス現ニ前陳ノ如キ事アリシ後ニ於テ若シ該銀行ニ免許狀

下付セラル、アラバ是レ政府ガ蘇國ノ銀行制度ニ背戻セ
ル新奇ニシテ且有害ナル主義ヲ是認翼賛スル者タルトテ
茲ニ考フ可キハ政府ガ銀行ニ對シテ新クニ制束ヲ加フ可キ
ヤ否ヤノ疑問ニ非ズシテ從來ノ銀行制度ヲ守ラントナ約シ
ナガラ今日實際之ニ背戻シ而テ尙ホ此際ニ在テ免許狀ノ下
付テ請求スル如キ一銀行ニ位格ト特權トヲ與ヘテ以テ從來
ノ銀行制度ニ背戻スルトテ獎勵ス可キヤ否ヤノ疑問ニ在リ
トス

此上申書ニハ蘇格蘭銀行、大英麻布會社、「コムメルシアル、エンド、
ナシナル」銀行等モ署名セリ而テ「ウエスタルン」銀行ノ免許狀ハ決
シテ與ヘラレザリキ
倫敦ニ於テ彼レノ如キ小額ノ準備金ヲ有スルノ方法ハ果シテ
右ノ上申書ニ前見セル如キ結果ヲ生シタリ蓋「ウエスタルン」銀行

ハ一千八百四十七年ニ至リ困難ニ遭遇シ同年十一月及十二月
於テ英蘭銀行ヨリ三十萬磅ノ補助ヲ受ケシガ翌四十八年三
月ニ於テ之ヲ返済セリ爾來該銀行ガ其營業法ヲ變セシ時ナル
一千八百五十二年ニ至ルマデハ車ロ一層謹慎ナル進路ヲ取レ
リ然レモ吾輩ノ信スル所ヲ以テスレバ他ノ蘇國銀行ノ慣例ト
全ク反スルノ處置ニ出テタリ即該銀行ハ手形ヲ再割引セリ左
ノ一表ハ一千八百四十七年ヨリ一千八百五十二年マデニ該銀
行ノ爲シタル割引及再割引ノ額ヲ示ス者ナリ

割引	再割引
一千八百四十七年	一五、七二一、四三八 磅
一千八百四十八年	一二、〇八八、六四三
一千八百四十九年	一〇、五二二、〇二二
一千八百五十年	一二、〇四八、六六九
	再割引
	六五六、〇七七 磅
	三七四、七〇七
	二四九、九五七
	二九〇、八一三

一千八百五十一年 一三、三三二、七五三 五八八、二四七
 一千八百五十二年 一三、五二五、三三三 四〇七、一四三
 此時ニ於テ該銀行ハ期限過ノ手形三十五萬六千磅ヲ有シ且此
 外ニ其資本ノ停滯セル者甚多クシテ一ノ場合ニ於テハ十二萬
 磅ノ資本停滯シ該銀行ハ之ニ對シテ其負債者ノ生命保險金ヲ
 抑ヘシガ其閉店セシ時マデニ之ガ保險料トシテ三萬三千五百
 十二磅ヲ拂込ミタリ然ルコソフレミンク氏ノ說ニ曰ク然レモ此
 時ニ於テヌラ尙ホ該銀行ハ融通手形ヲ製造セル數多ノ人々ニ
 圍繞セラレ之ト取引ヲ爲セリト左レハ同氏ノ說ニ據レハ此年
 ニ於テ該銀行ノ有様ハ既ニ満足ス可キ者ニ非ザリシト云フ
 一千八百五十二年ニ於テ其營業法ヲ變シタリ而テ其再割引ノ
 取引如何ニ増加セシ乎ヲ示サンガ爲メニ吾輩ハ左ノ一表ヲ掲
 ク可シ

	割引	再割引
一千八百五十三年	一四、九八七、七四〇 ^磅	一、六八二、三三〇 ^磅
一千八百五十四年	一八、五九六、七〇四	四、八五六、二九二
一千八百五十五年	一九、八三五、七八一	四、九六九、六六九
一千八百五十六年	二〇、四一〇、八八四	五、四〇七、三六三
一千八百五十七年 ^{十一月九日迄}	二〇、六九一、四一五	四、八八一、三二一

左レハ吾輩ハ以上數年間ニ於テ此最モ危險ナル取引ノ驚ク可
 ク増加セルヲ見ルナリ苟モ斯カル取引ヲ大ニ行フ如キ會社ハ
 之ガ手形ノ購買者ノ意志、變心若クハ其購買者ニ關シテ起ル可
 キ事變等ノ爲メニ忽チニ顛覆ノ災ヲ免レザルナリ
 然レモ該銀行ノ不注意ナル營業法ノ例ハ唯此一事ノミニ止マ
 ラザルナリ他ノ諸困難ノ外ニ特ニ後日ノ災害ヲ來タスノ原因
 トナルル四項ノ勘定アリ吾輩今一千八百五十二年及一千八百

五十七年ニ於ケル此四勘定ノ有様ヲ示ス可シ即其一千八百五十二年ニ於ケル有様ハ左ノ如シ

	勘引	當坐貸越
「マクドナルド」會社	一〇七、一二六 ^磅	、
ニ對スル勘定	八三、七七九	三、五二三
「メンタイス」會社同	一八、一四四	、
「ウアルノース」會社同	八九、六七八	一、一五四
「パットyson」會社同	一八八、七二七	四、六七七
計		
左レバ一千八百五十二年ニ於テ以上四會社ハ合計十九萬三千三百九十四磅ノ負債ヲ擔ヘルヲ知ル可シ而テ一千八百五十七年ニ至テハ此四勘定ノ有様左ノ如シ	割引	當坐貸越
	四〇八、七二六 ^磅	五、六三六 ^磅
		期限過手形
		八、五二六 ^磅

「メンタイス」會社	三七六、七九九	六七、六三五	九三、一二九
「ウアルノース」會社	二二七、四六四	、	、
「パットyson」會社	三三六、九九六	六七、二五三	一一、五七一
計	一、三四九、九七五	一三五、五二四	一二三、二二六

左レバ該銀行ノ還ニ斃ル、ニ當リテ單ニ此四會社ノミニ對スル貸付ト雖モ既ニ一百六十零萬三千七百二十五磅ニ達セリ而テ其斃ル、ニ當リテ「マクドナルド」會社ノ爲メニ割引シ居タル手形四十零萬二千七百十六磅ノ中其三十九萬八千三百四十九磅ハ期限到リテ拒却セラレ又「メンタイス」會社ノ爲メニ割引シ居タル手形三十七萬六千六百九十九磅ノ中二十六萬九千七百二十六磅ハ拒却セラレ又「ウアルノース」會社ノ爲メニ割引シ居タル手形二十三萬六千七百四十一磅ノ中二十零萬九千五百三十四磅ハ拒却セラレ又「パットyson」會社ノ爲メニ割引シ居タル手形

三十三萬六千九百九十六磅ノ中十五萬零七百四十九磅ヲ拒却セラレタルヲ見レバ亦以テ此等手形ノ性質如何ヲ知ル可キナリ

一千八百五十七年六月ノ株主總會後直ニ取締役ハ該銀行ノ帳簿ヲ檢査セシメテ他人ニ求メタリ因テ其托ヲ受ケシ人ハ之ヲ檢査セシメ該銀行ノ當坐勘定ヲ凡テ確實ナル者ト許シ以上四會社ニ對スル勘定ノ如キヲモ確實ナル者ト許スモ尙ホ此外ニ五十七萬三千三百磅ノ滯貸ヲ帳簿上ニ於テハ確實ナル者ト見做シアリシヲ發見セリ而テ此金額中ヨリ滯貸準備金二十四萬六千磅ヲ扣除スルルハ該銀行ハ其資本中三十二萬七千磅ヲ失ヒシ者タルヲ發見セリ又七千六百二十六ノ該銀行ノ株券ヲ有スル株主ニ貸付セル金額九十八萬八千四百八十七磅ニ及ベルヲ發見セリ一千八百五十七年九月ニ至リ取締役ガ一時該銀

行ヲ管理セシメテ求メシ人ナルフレンミンク氏ハ嚴密ニ此等ノ巨額ナル勘定ノ性質ヲ吟味スルヲ着手セシメ七日ニ至リ「ウァルレノース」會社ハ其融通手形ヲ取引シ居タルヲ自カラ明言セリ又氏ハ「マクドナルド」會社ノ如キモ「ウァルレノース」會社ト同一ノ人ニ宛テ、手形ヲ振出シ居タルヲ見レバ同ク融通手形ヲ取引シ居ルニ相違ナキト思惟セリ而テ「マクドナルド」會社ハ百二十四人ノ引受人ニ宛テ、手形ヲ振出セシガ其中ニ就キ唯三十七人ヲ取リテ吟味セシニ其二十一人ハ非常ニ世評ノ惡シキ人ナリシヲ發見セラレタリ且該會社ガ宛テ、手形ヲ振出シタル六七十ノ人々ハ少許ノ手数料ヲ取テ手形ヲ引受ケスルヲ常業トセル輩ニシテ實ニ該會社ハ倫敦ニ於テ一ノ周旋人ヲ使用シ之ヲシテ該會社ノ爲メニ融通手形ノ引受人ヲ周旋セシメシヲ發見セラレタリ左レバ此等勘定ノ實狀確知セララル、及シ

デハ直チニ之ヲ閉ヅルノ外ハ他ニ出ツ可キノ手段ナク而テ
 ノテイス「會社」及「マクドナルド」會社ノ破産ハ世ニ著明トナリシ
 第一ノ破産ニシテ之ガ爲メニ十月十日株式取引所ニ於テ恐慌
 ナ起セリ故チ以テ株券ノ相場速ニ下落シ且「ウェスタルン」銀行ハ
 數年來此等會社ヲシテ其業ヲ行フヲ得セシメシガ爲メニ其資
 本ノ全額ヲ擧ゲテ之ニ歸シタリトノ風聞世上ニ傳播セラレタ
 リ而テ此風聞ノ爲メニ翌日即火曜日ニ至リ該銀行ニ對シテ稍
 々取付ケナ起シ且其取付ケハ二三日間ニ續キ該銀行ハ十月十
 七日ヲ以テ終ル所ノ一週期間ニ於テ正貨ニテ約ソ三萬六千磅
 ナ拂出セリ然レモ該銀行ニ對スル正貨ノ取付ケハ殆ド之ニ止
 マリシナリ何トナレバ次キノ一週期間ニ該銀行ノ拂出セシ正
 貨ハ僅ニ四千磅ニ過ギス又其次キノ一週期間ニハ僅ニ約ソ二
 千磅ヲ拂出セシニ過ギスシテ十月十日ヨリ該銀行ガ仕拂ヲ停

止セシ前ノ土曜日ナル十一月七日マデニ其拂出セシ正貨ノ全
 額ハ僅ニ四萬四千磅ニ過ギザリケレバナリ然レモ此際ニ於テ
 引出サレタル預金ノ總額ハ一百二十八萬磅ニ達シ而テ正貨ヲ
 以テ拂出セシ前記金額ノ外ハ此等ノ預金ハ凡テ該銀行ノ紙幣
 ナリ以テ拂出セシ者ニシテ其紙幣ハ直ニ受取ラレ且他ノ諸銀行
 ニ預ケラレヨリ

此恐ル可キ災害ノ事情ハ之ヲ詳記スルヲ要スルナリ何トナレ
 バ或ル勢力アル人ハ蘇格蘭ニ小額紙幣ノ流通セルガ爲メニ其
 所持人中ニ恐慌ヲ増加セシムルノ傾向アルヲ痛論シタレバ
 ナリ然レモ此時ノ場合ニ於テハ世ニ流通セル該銀行ノ紙幣ハ
 毫モ恐慌ヲ増加セシムルヲアラザリシナリ
 フレミング氏曰余ハ此際毫モ紙幣兌換ノ請求アラザリシト
 云フヲ得可シ尤モ兌換ヲ請求セラレタル紙幣幾分カ過アリ

シオラント雖モ余ハ紙幣兌換ノ爲メニ起リシ金ノ需要ハ五
 六千磅ニ超ヘザリシト確言セザル可カラズ余ハ決シテ之ニ
 超ヘザリト思惟セザルナリ」トウエルソン氏問テ曰事實上ヨ
 リ之ヲ云フニ該銀行ニ對スル取付ケハ凡テ預金ノ取付ケニ
 シテ流通紙幣ノ取付ケニハ非ザリシ乎 (答)實ニ然リ紙幣ニ
 關シテハ毫モ取付ケアリシニ非スシテ余ハ該銀行ガ尙ホ營
 業シ居タル最後ノ二日間ニ於テ其本店ヨリ拂出セル金ハ一
 千磅ニ及ビタリトモ思惟セザルナリ引出サレシ貨幣ハ全
 ク紙幣ヲ以テ取去ラレシナレバ該銀行ガ仕拂ヲ停止セシ
 日ナル十一月九日ノ午後ニ於テ尙ホ巨額ノ紙幣流通シ其額
 約ソ七十二萬磅ニ達セリ (問)然ラハ預金者ハ其預金ニ關シ
 テ不安ノ念ヲ懷キ該銀行ニ向テ之ヲ取付ケ而テ尙ホ該銀行
 ノ紙幣ヲ受取リシ者乎 (答)然リ (問)預金者ハ其受取リシ紙

幣ヲ直ニ他ノ諸銀行ニ預ケシ乎 (答)然リ(中略) (問)諸地方ニ
 於テモ勘定ノ差引尻大ニ引出サレシ乎 (答)其額決シテ大ナ
 ラサリキ預金總額ニ比較スルルハ諸地方ヨリ引出サレシ額
 ハ驚ク可ク寡少ナリキ (問)余ハ汝ガ支店ニ於テハ金ノ需要
 甚少ナカリシト云ヘリト信ズ殆ト毫モ其需要アラザリシ乎
 (答)殆ト毫モ之アラザリキ
 之ト同時ニ該銀行ハ他ノ方位ヨリ一大筆ヲ受ケタリ蓋該銀行
 ハ其倫敦ニ於ケル資金ヲ固ク手許ニ置カズシテ米國トノ爲替
 取引ヲ營ミタリ左レバ該銀行ハ紐育府ニ一ノ代理人ヲ置キ其
 代理人ハ公然斯カル取引ノ爲メニ置キシニハ非ザル可シト雖
 モ實際此取引ニ從事セリ即此代理人ハ貨幣ヲ借ラント欲スル
 者ニ該銀行ニ宛テタル手形ヲ與ヘ而テ此手形ノ仕拂ニ應ス可
 キ抵當ハ代理人トノ談判ヲ以テ借者ヨリ預ケ置クナリキ然

レ此等ノ辨金ハ其期限ニ到リ決シテ常ニ仕拂ハレズレテ多クハ再三再四切替ヘラレタリ故ニ該銀行ノ資金ハ倫敦ニ置カザル可ラザル者ナリト雖モ此取引ノ爲メニ其大部ハ倫敦ニ存セズシテ米國ニ停滯セシメラレタリ而テ該銀行ガ其仕拂ヲ停止セルニ及ヒ其既ニ引受ケシタル手形及其當サニ引受ケヌ可キ手形ハ三十一萬七千磅ニ達セリ此等ノ手形ハ二ヶ月期ノ者ナルヲ以テ右金額ニ六ヲ乘ズレバ以テ一年間ノ取引高ヲ知ル可シ蓋米國代理人ノ爲メニ該國ニ停滯セシメラレタル資金ハ三十七萬六千五百二十磅ナリシガ如シ而テ代理人ハ之ニ對シテ鐵道會社債券及諸手形等ヲ有セリフレンキンク氏曰余ノ見ル所ヲ以テアスレバリ云紐育代理人ガ「ウエスタルン」銀行ニ對シテ起シタル取引ハ多クハ米國鐵道建築及株式投機取引ノ爲メニ紐育ニ於テ貨幣ヲ募ルノ方法トナリシガ如シト又帝國銀行ノ

検査役ロベルトソン氏曰此ニ銀行即「ウエスタルン」銀行及「シトニー」
 ナフ、グラスゴ「銀行ハ英蘭銀行及蘇格蘭ノ他ノ諸銀行ガ凡テ
 非ナリトシテ拒絕セシ如キ取引ニ關シテ倫敦、リヴァプール、グ
 ラスゴ「ヨリ振出サレタル四ヶ月期ノ内地手形ヲ引受ケスル
 ナ例トセリト
 當時米國ニ於テ信憑一般ニ破壞セラレシヲ以テ該國ヨリ正金
 ノ回送ヲ受クル「ハ到底望ム可カラザル「トナレリ而テ十月
 十五日ヲ以テ支配人ノ職ニ就キシ所ノ「レンミンク氏ハ預金ノ
 意外ノ取付ケニ對シ又米國ヨリ振宛テタル手形ノ「期限若スル
 「ニ對シ之ガ用意ヲ爲スノ極メテ必要ナル「ヲ取締役ニ告グ
 タリ是ヲ以テ十月十七日取締役ハ蘇格蘭銀行ニ幫助ヲ請求ス
 ル「ニ決議シ乃チ二十一日ニ至リ書面ヲ以テ該銀行ニ幫助ヲ
 請求セリ而テ二十三日エヂンボロ「府ノ諸銀行ハ會合ヲ開キ

該銀行が先づ英蘭銀行ニ補助ヲ請求セシメマデハ補助ヲ與ヘザルコトニ決セリ因テ該銀行ハ英蘭銀行ニ補助ヲ請求セシメ是レ亦拒マレタリ而テ之ヲ拒マレシ電報エザンポロイ府ニ達スルヤ同府諸銀行ハ同夕ヲ以テ會合テ開キ若シ該銀行取締役ガ該銀行ヲ解散シテ閉店スルニ於テハ五十萬磅ヲ貸付ス可キコトヲ諾セリ然レニ該銀行取締役ハ閉店スルノ權ナキ旨ヲ唱ヘシテ以テ數日間ノ商議ヲ經シ後チ遂ニエザンポロイ府諸銀行ハ強迫閉店ノ箇條ヲ刪除スルコトニ一致シ閉店セシムルコトナクシテ貨幣ヲ貸付セリ故ニ十月二十九日ヲ以テ該銀行六ヶ月期ノ約束手形五十一萬磅ヲ取り之ニ對シテ右ノ金額ヲ貸付シ且時相場ニ從ヒ國債證書ヲエザンポロイ府諸銀行ニ納メ以テ此約束手形ヲ償ハザル可カラザル旨ヲ約セリ而テエザンポロイ府諸銀行ヨリ斯ク貸付セラレタル貨幣ノ外ニクリアスダル銀行ハ

該銀行六ヶ月期ノ手形ト箇々取締役ノ保證トニ對シテ十萬磅ヲ融通セリ即八分ノ一般ノ歩合ニ從ヒ右該銀行ノ手形ヲ割引セリ
該銀行ニ對スル預金ノ取付ケ大ニシテ小額ナル預金者ノ如キハ殆ト全ク之ヲ取付ケシガ今ヤ其取付ケ大ニ減少セリ而テ此時着手中ナリシ該銀行ノ勘定調査ノ爲メニ到底如何ナル結果ヲ生セザルヲ得ザリシトスルモ要スルニ此時ニ於テハ災害ノ直接ノ危險毫モ見ヘザリシナリ然ルニ恰モ十月二十九日ヲ以テ倫敦ノ「タイムズ」新聞ハ其論說ニ於テエザンポロイ府諸銀行ガ若シ「ウエスタルン」銀行ニシテ閉店セバ之ヲシテ其困難ヲ脱セシムルコトニ決議セル旨ヲ報ゼリ而テ此「タイムズ」新聞ハ三十日ノ朝ヲ以テ蘇格蘭ニ達セシガ之ガ爲メニ「ウエスタルン」銀行ニ對シテ忽チニ再ヒ取付ケ起レリ然レニ此時ノ取付ケハ前回ノ取

付ケトハ性質ヲ異ニセル者ニシテ前回ノ取付ケハ専ラ小額ナ
 ル預金者中ニ起リ今回ノ取付ケハ専ラ大額ノ勘定ヲ有セル商
 人中ニ起レリ蓋此等ノ商人ハ「ウエスタル」銀行ガ將サニ閉店セ
 ントスルヲ知リ争テ其預金ヲ他ノ銀行ニ轉シ以テ新ニ之ト勘
 定ヲ開カントシテ勉メタリ而テ數日間衰フルトナク遂ニ十一月
 九日該銀行ヲシテ其戸ヲ閉ヂザルヲ得ザラシメシハ實ニ此時
 ノ取付ケニ在リシ也然レモ其茲ニ至リシハ金ノ需要急ナリシ
 ガ爲メニ非ズシテ勘定ノ差引「尻」ハ該銀行紙幣ヲ以テ引出サレ
 而テ此等ノ紙幣ハ他ノ諸銀行ニ預ケラレシカ故ニ該銀行ハ倫
 敦ニ宛テテ手形ヲ振出シ以テ其交換差高ヲ仕拂ハシガ爲メニ
 他ノ諸銀行ヨリ出納局證券ヲ買入ル、ノ用意ヲ爲ス能ハザリ
 シニ因ルナリ

ニダンボロ「府諸銀行ガ申出シタル約條」キ「タイムズ」新聞ニ掲

ゲシ「ハ如何ニ有害ナリシ乎」示サシガ爲メニ吾輩ハ「フレミ
 ン」氏が「一千八百五十七年十月三十一日蘇格蘭銀行ニ與ヘタ
 ル書面中ヨリ左ノ數節ヲ摘出ス可シ

我銀行ノ取締役ガ二週期以前ニ五十萬磅ヲ貸付セシ「ト」蘇
 格蘭ノ他ノ諸銀行ニ依頼セシ者ハ三十五萬磅乃至四十萬磅
 ノ資金アレバ我倫敦ノ理財ヲ十分ニ整頓スルニ足ル可ク又
 殘餘ノ金額ハ起ル可キ預金ノ取付ケニ應スルニ足ル可シト
 ノ余ノ計算ニ基ケル者ナリ余ハ今尙ホ信ズ若シ請求セラレ
 タル補助ニシテ速カニ且靜カニ與ヘラレ閉店ノ事ニ關シテ
 何等ノ約條モアラザリシナラシムニハ余ノ此計算ハ必スヤ當
 リシナラシム

然ルニ吾輩ニ向テ爲サレタル取付ケノ著シク余ノ計算ニ超
 ヘシ者ハ二ノ原因ヨリシテ然リシナリ其第一ハ吾輩ノ請求

ノ速カニ許諾セラレズシテ遅延セシト吾輩ガ英蘭銀行ニ依
 頼セシヨリ隨テ商議ノ狀ノ變セシトノ爲メニ我理財上ノ困
 難ノ世間ニ著明トナリシト是ナリ又其第二ハ他ノ諸銀行ガ
 強迫閉店ノ箇條ヲ加ヘントシ而テ「タイムス」新聞ガ之ヲ世間
 ニ公ニシタルト是ナリ
 此二原因ガ各々取付ケテ促スニ於テ如何ニ大ナル効力ヲ有
 シ且今後尙ホ如何ニ大ナル効力ヲ有ス可キ平ハ數字ヲ以テ
 之ヲ算スルト容易ナラザルナリ然レモ過去ニ關シテハ余ノ
 實驗及我支店役員ヨリノ報告ニ徴シテ之ヲ考フルニ第二ノ
 原因ハ第一ノ原因ヨリモ更ニ有害ナリシト實ニ測ル可カラ
 ザル者アルヲ思ハシムルナリ定期預金ハ其引出サレシト實
 ニ寡少ナリシト雖モ商人社會ノ有セル當坐預金ニ至テハ他
 ノ諸銀行ニ移サレシ者甚大ナリキ其理由タルヤ當然ニシテ

賭易キノミ若シ此銀行ニシテ閉店ス可クンバ吾輩ハ又商人
 ノ爲メニ融通ヲ爲ス能ハザルハ商人ノ能ク知ル所ナリ故ニ
 商人ハ苟モ機ノ乘ス可キアレバ忽チニ他ノ銀行ト取引ノ約
 束ヲ爲シ以テ我銀行ニ於ケル預金ヲ引出セルナリ
 余ハ既ニ起リタル害ハ必スシモ匡救シ得可カラザル者ニ非
 ザルトナリ期スルナリ蓋吾輩ガ尙ホ世間ニ對シテ幾分ノ信憑
 ナ有スルトハ大額ナル定期預金ハ毫モ引出サルトナク免
 換○迫○促○ト○稱○ス○ル○ガ○如○キ○ト○曾○テ○起○ラ○ズ○シ○テ○殆○ド○金○ノ○需○要○セ○ラ
 レ○シ○ト○ナ○キ○ノ○事○實○ニ○徴○シ○テ○知○ル○可○シ
 吾輩ニ向テ金ノ需要起ラザリシトハ余ノ既ニ云ヘル所ニシ
 テ引出サレタル金額ハ凡テ我紙幣ヲ以テセラレ隨テ他ノ諸
 銀行ハ預金ヲ得タルナリ
 「タイムス」銀行ハエヂンボロト府ノ諸銀行ニ向ヒ更ニ貸金ノ